

授業科目	解剖学	1 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	松村博文 (保健医療学研究棟 E411 号) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	松村博文、水口 徹、(中村宅雄)、(鈴木大輔)、(小林英司)、(中野正子)		
概要	ヒトの病態や機能を理解するには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須である。それゆえに解剖学は看護学科の学生にとって最も重要な基礎科目のひとつとなっている。解剖学では、人体を構成する骨格系と筋系、神経系、心臓・脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、感覚器系において、各器官がどのように構築され、また、どのように機能と関連しているかを学習する。実際の正常な臓器や病理標本の観察実習、人体解剖の体験実習をとおしても知識を深める(時期は6月中旬)。体験実習では、単なる見学ではなく、各部の構造を触れて観察をおこなう。「より良い医療従事者になるために、自分の身体を使って十分に勉強して下さい」という願いをこめて献体されたご遺体を用いるので、解剖学の知識の習得と同時に、献体に対する感謝の気持ちと、その期待に応える責任と自覚を持って取り組むこと。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な解剖学の人体各部の名称を説明できる。 2. 各器官の機能を理解し、かつその連関を説明できる。 3. 骨の形態と名称を説明できる。 4. 関節の構造を説明できる。 5. 筋の起始停止、支配神経と作用を説明できる。 6. 脳神経の機能を説明できる。 7. 自律神経の仕組みを説明できる。 8. 中枢神経の仕組みを説明できる。 9. 発声器官を含む呼吸器の仕組みを説明できる。 10. 消化器系における実質臓器と中空臓器の構造を説明できる。 11. 動静脈系とリンパ系等の循環器の経路と心臓の構造および刺激伝導系を説明できる。 12. 膜に関する構造(クモ膜、軟膜、漿膜、壁側膜、臓側膜、間膜、腹膜後器官・・・)を説明できる。 13. 感覚器の構造を正しく説明できる。 14. 泌尿生殖器の構造を正しく説明できる。 		
関連科目	生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①藤田恒夫 [2017年・5,500円] 「入門人体解剖学改訂第5版」 南江堂 ②Wynn and Lawrence(著)、嶋井(訳) [2015年・4,400円] 「カラースケッチ解剖学 第4版」 廣川書店		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	解剖学で学ぶ範囲は大変広く、理解すべき用語も多い。毎回の予習と復習による知識の積み重ねが欠かせない。ご献体による解剖体の観察実習の日時の都合もあるので、人体解剖体験実習の実施はこの順序ではない。講義、実習とも毎回、事前あるいは事後に教科書に書かれている講義範囲の部分を通読のこと。 事後学習のためのカラースケッチ解剖学(第4版)は、講義時間中も活用するので、色鉛筆ともに毎回持参してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人体構造総論	事前: 入門人体解剖学 1-37 通読 事後: カラースケッチ 1, 2, 5, 10, 17-19	講義	松村
2	骨学各論 1(体幹骨)	事前: 入門人体解剖学 49-57 通読 事後: カラースケッチ 25-28	〃	〃

3	骨学各論 2(上肢骨)	事前:入門人体解剖学 57-62 通読 事後:カラスケッチ 29-34	〃	〃
4	骨学各論 3(下肢骨)	事前:入門人体解剖学 63-72 通読 事後:カラスケッチ 35-41	〃	〃
5	骨学各論 4(頭蓋骨)	事前:入門人体解剖学 37-48 通読 事後:カラスケッチ 22-23, 128, 129	〃	〃
6	筋学総論	事前:入門人体学 73-78 通読 事後:カラスケッチ 11, 12	〃	〃
7	筋学各論 1(頭頸部の筋)	事前:入門人体解剖学 78-85 通読 事後:カラスケッチ 11, 21, 42-46	〃	〃
8	筋学各論 2(上肢の筋)	事前:入門人体解剖学 85-89, 93-97 通読 事後:カラスケッチ 52-57	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃
10	筋学各論 3(下肢の筋)	事前:入門人体解剖学 97-102 通読 事後:カラスケッチ 59-65	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	筋学各論 4(体幹の筋)	事前:入門人体解剖学 89-92 通読 事後:カラスケッチ 47-50	〃	〃
13	神経総論	事前:入門人体解剖学 253-256 通読 事後:カラスケッチ 68-70	〃	〃
14	末梢神経系 1(脊髄神経系, 脳神経系)	事前:入門人体解剖学 284-299 通読 事後:カラスケッチ 83-89	〃	〃
15	末梢神経系 2(自律神経)	事前:入門人体解剖学 300-305 通読 事後:カラスケッチ 91-94	〃	〃
16	中枢神経系 1(脊髄・脳幹・小脳)	事前:入門人体解剖学 256-266, 306-312 通読 事後:カラスケッチ 72, 75-79	〃	(小林)
17	中枢神経系 2(大脳)	事前:入門人体解剖学 266-284 通読 事後:カラスケッチ 73-75, 80-82, 108	〃	(中野)
18	臓器総論 消化器系の構造と機能 1(口腔・咽頭)	事前:入門人体解剖学 236-239, 151-167 通読 事後:カラスケッチ 134-138	〃	松村
19	消化器系の構造と機能 2(食道・胃・腸)	事前:入門人体解剖学 167-185 通読 事後:カラスケッチ 139-141	〃	水口
20	消化器系の構造と機能 3(肝臓・膵臓)	事前:入門人体解剖学 185-193 通読 事後:カラスケッチ 142, 143	〃	〃
21	循環器系の構造と機能(心臓)	事前:入門人体解剖学 103-118 通読 事後:カラスケッチ 101-106	〃	松村
22	循環器系の構造と機能(動脈)	事前:入門人体解剖学 119-127 通読 事後:カラスケッチ 107, 109-114	〃	〃
23	循環器系の構造と機能(静脈) 内分泌系・リンパ系	事前:入門人体解剖学 127-149 通読 事後:カラスケッチ, 115-121	〃	〃
24	呼吸器系の構造と機能	事前:入門人体解剖学 195-211 通読 事後:カラスケッチ 130-133	〃	〃

25	泌尿器系の構造	事前:入門人体解剖学 213-220 通読 事後:カラスケッチ 144-147	〃	〃
26	生殖器系の構造と機能	事前:入門人体解剖学 221-236 通読 事後:カラスケッチ 155-162	〃	(鈴木)
27	感覚器系の構造と機能	事前:入門人体解剖学 313-332 通読 事後:カラスケッチ 90, 94-99	〃	(中村)
28	解剖体実習(解剖実習室 教育研究棟1 地下)	事前:6回目～実施時点までの内容を 復習を復習	実習	松村
29	〃	〃	〃	〃
30	標本館見学実習(基礎医学棟8階)	事前:13回目～実施時点までの内容を 復習	〃	〃

授業科目	生理学	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、久野芳佳、一宮慎吾、水口徹		
概要	生理学は生体機能を固体、器官、組織、細胞レベルで解明する学問である。本講では生体の恒常性の維持や基礎活動がどのように営まれているのかについて理解するため、循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御・調節機構を概説する。本講の内容は、2 年前期・後期において疾病の病態生理、診断、治療の理解を中心に学習する「疾病治療概論」「疾病治療論 1-4」「症候と病態」の基礎となる。		
到達目標	(1)循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御機構について説明できる。 (3)看護師国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4)臨床の現場で看護師としての実務において応用できる基礎知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学 1」「栄養生化学」 2 年次：「疾病治療概論」「疾病治療論 1-4」「症候と病態」「薬理学」「病理学 2」		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①田中越郎 [最新版] 「系統看護学講座専門基礎分野：病気のなりたちと回復の促進 2 病態生理学」 医学書院 ②坂井建雄、岡田隆夫 [最新版] 「系統看護学講座専門基礎分野：人体の構造と機能 1 解剖生理学」 医学書院 ③上田晃、内田さえ、鍵谷方子、原田彰宏 [最新版] 「人体の構造と機能」 医歯薬出版		
参考書	① 武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ② 鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③ 森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④ 巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤ 増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥ 森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦ 尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧ 池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	本学では看護学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。生理学は今後の看護学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。看護師国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 1 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	生理学総論	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	講義	齊藤
2	神経生理学総論	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
3	神経興奮	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
4	筋収縮	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
5	反射回路	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃

6	大脳皮質機能	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
7	感覚生理学総論	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
8	感覚生理学感覚系①	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
9	感覚生理学感覚系②	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
10	自律神経系	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
11	免疫機構	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	(一宮)
12	消化・吸収①	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	水口
13	消化・吸収②	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
14	消化・吸収③	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
15	生殖①；生命の連続性、生殖機構	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	久野
16	生殖②；性の決定・妊娠維持と分娩	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
17	生殖③；維持と分娩・先天異常	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
18	循環の生理(1)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	丹野
19	循環の生理(2)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
20	循環の生理(3)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
21	呼吸の生理(1)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
22	呼吸の生理(2)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
23	呼吸の生理(3)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
24	腎臓・排泄の生理(1)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
25	腎臓・排泄の生理(2)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
26	内分泌・代謝の生理(1)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
27	内分泌・代謝の生理(2)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
28	内分泌・代謝の生理(3)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃

29	血液・免疫の生理(1)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃
30	血液・免疫の生理(2)	事前：教科書該当項の予習 事後：配布資料の整理・復習	〃	〃

授業科目	栄養生化学	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	佐々木泰史 (教育研究棟 8 階 D821 生物学教授室) e-mail : yasushi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(相馬仁)、杉村政樹、佐々木泰史		
概要	ヒトは種々の栄養素を外界から摂取し、体内で種々の反応を経てエネルギー物質の産生や必要な生体構成物質合成など、様々な変換が起こる。そして、不要物は体外に排泄する。また、ヒトの健康は栄養のとり方に大きく影響を受けている。看護における「食」看護実践の目標は、患者の健康・栄養状態を改善し、食生活を整え、自立をサポートすることにある。そのため、食事と栄養、栄養素の代謝過程に関する知識を得ることは実践上極めて重要である。栄養生化学では、生命に不可欠の栄養素の摂取と体内利用の仕組み(生体内の化学反応)、そして、食生活・食行動との関連からもヒトにとっての栄養を学ぶ。同時に病態との関りの観点で栄養をとらえることを目的とする。本科目では、解剖学や生理学の基礎知識が必要で、それらの知識を統合して栄養代謝を学ぶことになる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食餌と栄養素について理解するために：栄養の評価、日常生活と栄養、基礎代謝と活動代謝について学び、生活に結び付けて説明できる。 2. エネルギー代謝機構を理解するために：食物の摂取と消化・吸収および調節、栄養素の働きと生体のエネルギーの機構を学び、恵右要素の違いについて説明できる。 3. 生命の健康と維持に適した食餌について理解するために、代謝障害と食事・栄養 (糖尿病、メタボリックシンドローム、痛風等)について理解し、障害と食事・栄養の関連を説明できる。 4. ライフステージと栄養について理解するために：ライフステージに合わせた健康状態、栄養状態、健康・栄養管理について説明できる。 5. 疾患の回復、その後の維持のための栄養について理解するために：消化器系、循環器系、呼吸器系、脳・神経の障害と栄養の中から例をとり学び、疾患別の栄養摂取の在り方を説明できる。 		
関連科目	解剖学、生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	70%	定期試験と小テストにより総合的に評価する。
	小テスト	30%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ① 畠山鎮次 他 [2019] 「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学 第14版」医学書院 ② 石黒伊三雄 監修 篠原力雄 他 編集 [2017] 「わかりやすい生化学(第5版)-疾病と代謝・栄養の理解のために」ニューヴェルヒロカワ ③ 中村美知子 他 編集 [2022] 「わかりやすい栄養学(第5版)-臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ニューヴェルヒロカワ ④ 關戸啓子 編集 [2022] 「ナースング・メディカ 臨床栄養学(第6版)」MCメディカ出版 		
履修上の留意点	教科書は使用せず、資料を配布する。解剖学や生理学で学習したことが基盤になるところが多く、それらを統合して一体として栄養、代謝を学ぶ科目である。必要に応じて、それらを復習するよう心がけることが望まれる。授業の中で問題演習を行い、各自の理解を深め、理解できなかった点を明らかにしてもらい、自習を促す。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ヒトにとっての栄養-栄養とエネルギー代謝(概説)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	講義	(相馬)

2	生体物質の構造と機能(糖質、脂質、タンパク質)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
3	代謝概論(酵素反応と調節)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
4	糖質の消化吸収および病態	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
5	脂質の消化吸収・代謝および病態	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
6	タンパク質の消化吸収・代謝および病態	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
7	生命と遺伝子、核酸の構造、遺伝子とタンパク質合成	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
8	生体内での情報伝達(コミュニケーション)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
9	エネルギー代謝の調節、エネルギー代謝まとめ	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	〃
10	栄養と病態各論1(消化器疾患と治療・栄養)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	佐々木
11	栄養と病態各論2(ポルフィリン代謝と病態)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	(相馬)
12	栄養と病態各論3(妊娠と栄養)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	杉村
13	栄養と病態各論4(生体のpHの維持と乱れ(病態))	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	〃	(相馬)

14	栄養と病態各論 5(神経栄養因子と病態)	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	"	"
15	ライフステージと栄養、栄養生化学まとめ	事前：参考書、配付資料を利用して予習する 事後：講義内容についてわからなかったこと疑問点を整理する	"	"

授業科目	人間発達学 1	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	高橋義信 (教育研究棟 I C809 号) e-mail : yoshi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	人間発達がいかなるものか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、発達する生命体としての人間に対する理解を深める。またライフステージの各時期では、どのような形態機能的、認知的、社会情動的特徴があるのかを理解し、各時期にどのような発達上の問題が生じるのかを学ぶ。		
到達目標	1. 人間の発達の特徴を説明できる。 2. 人間の発達に影響を及ぼす主な要因を説明できる。		
関連科目	心理学、教育学、人間発達学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 レポートは、授業で取り上げられたテーマの中から、より深く学びたいテーマを選び、それを自分なりに調査し、まとめるというものです。テーマの選択の適切性、調査内容の範囲や正確性が重要な評価対象となります。
	レポート	90%	
	提出物	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①若井邦夫他 [2006 年] 「グラフィック乳幼児心理学」 サイエンス社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	胎生期の栄養状態がその後の発達に及ぼす影響。エピジェネティックスを理解する。	事前学習：シラバスを読む。 事後学習：配布資料を復習する。	講義	高橋
2	新生児の視覚、聴覚とそれがどのように発達していくか	事前学習：参考書の該当箇所を読む。 事後学習：配布資料を復習する。	〃	〃
3	新生児期・乳児期の母子関係とそれが後の発達にどの程度影響を及ぼすか	〃	〃	〃
4	言語発達と臨界期の存在	〃	〃	〃
5	性同一性の形成とそれに影響する要因	〃	〃	〃
6	身長伸びとそれに影響を与える要因	〃	〃	〃
7	第二次性徴に影響を及ぼす要因と性淘汰	〃	〃	〃
8	青年期の自己同一性と職業選択	〃	〃	〃

授業科目	人間発達学2	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	田畑久江 (保健医療学研究棟 E211 号) e-mail : hisaet@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、今野美紀		
概要	本科目は人間発達学1を基盤として、小児期のリハビリテーションおよび看護に必要な運動、認知、知能の発達理論およびその評価に関する知識の提供を行う。特に、人間の胎児期から就学期までの発達原理の理解を深めるため、身体と精神、認知、情緒、社会性の発達が、横断的かつ縦断的に相互関係を持ちながらどのように育まれていくかに焦点を当て学習を行う。また、講義とともに関連書籍の精読を行い、レポートとしてまとめることも課題とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の身体の発達と主な疾患を説明できる。 2. 小児期の運動の発達を説明できる。 3. 小児期の認知や知能の発達を説明できる。 4. 1-3 において、評価に関する知識を学ぶ。 		
関連科目	人間発達学1、心理学概論、教育学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	80%	レポートは提出状況と内容により評価する。
	レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①辛島千恵子 [2020 年] 「人間発達とライフサイクル」 理工図書		
履修上の留意点	人間発達学1を履修し合格していることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人間発達の基盤とその障害について学ぶ	事前：なし 事後：授業内容の振り返り	講義	仙石
2	身長・体重などの形態的発達の特徴	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
3	神経の発達から見た反射の変化	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
4	神経の発達から見た姿勢の変化	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
5	胎児期の発達と出生後の呼吸・循環機能	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	今野
6	骨髄、免疫の発達など	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	田畑
7	消化器、腎機能など	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
8	生活環境や習慣と発達との関連	事前：配付資料を精読 事後：授業内容の振り返り	〃	今野

授業科目	病理学1	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(市戸義久)、(一宮慎吾)、丹野雅也、(久野 篤史)、(久保輝文)、(村田憲治)、(櫻井晃洋)、(宮西浩嗣)、(菰澤慎也)		
概要	病理学1では、臨床看護に必要な病態の基礎となる病理学の総論を体系的に学習する。看護と病理の関係・役割を理解する。細胞レベルで起きる組織の再生や修復のメカニズムを理解する。循環障害として浮腫・出血・血栓塞栓を理解する。炎症と免疫・移植拒絶について理解する。感染症について理解する。先天性代謝異常や遺伝異常症について理解する。老化と死について理解する。腫瘍の基礎を理解する。次年度の病理学2に向けて、基礎的な知識を涵養する。		
到達目標	疾病の病因を理解できるようになることを目的とする。下記の各項目について、基礎的知識を身に付け、要約できる。 1. 病理学の定義・病因 2. 細胞・組織の機能と障害, 3. 循環障害と凝固線溶異常, 4. 炎症・免疫・生体防御, 5. 感染症の病態、病原微生物の特性, 6. 先天性代謝異常・遺伝病, 7. 腫瘍性病変の特徴		
関連科目	解剖学、生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	①大橋健一ら(編集) [最新版] 「[系統看護学講座 専門基礎分野] 病理学」 医学書院		
参考書	①岡本 豊 (編集) [最新版] 「看護師・看護学生のためのレビューブック」 MEDIC MEDIA ②小林正伸 (著) [最新版] 「[病理学 病態形成の基本的な仕組み]」 南山堂		
履修上の留意点	学習内容の講義順序や講義時間が変更されることがあるので、学生掲示板などで逐次講義予定を確認すること。 教科書はあった方が望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	病理学概説、病気の原因	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	炎症の概念、急性炎症、慢性炎症、炎症細胞	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
3	細胞の構造と機能、細胞障害、細胞増殖、細胞死	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(市戸)
4	組織再生、組織修復、創傷治癒、異物処理機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
5	老化の概念、老化機構、疾患との関連	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(一宮)
6	循環動態、浮腫、虚血、鬱血、ショック	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	丹野
7	出血と止血機構、血栓形成、塞栓、梗塞、DIC	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃

		る。		
8	環境と栄養異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	代謝異常、脂質代謝異常、蛋白代謝異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久野)
10	免疫の概念、生体防御機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久保)
11	免疫認識機構、移植とHLA、自己免疫	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(村田)
12	染色体異常、遺伝病、遺伝子診断、遺伝カウンセリング	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(櫻井)
13	発癌機構、進展と転移、癌の病期、診断の基礎	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮西)
14	感染微生物の種類、検出法、伝搬様式、感染病態	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(葦澤)
15	細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口

授業科目	病理学2	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	丹野雅也、(黒沼幸治)、(宮西浩嗣)、(櫻井晃洋)、渡邊耕太、(小船雅義)、(神田真聡)、(杉村政樹)、(山本雅樹)、(吉藤和久)、(西田幸代)		
概要	実臨床および国家試験を念頭にし、病理学1での基礎的総論の知識を基に各疾患の病因病態を理解する。循環器・血液・造血器・呼吸器・消化器・腎泌尿器・婦人科・乳腺・内分泌・脳神経・筋骨格について疾患と病因を理解し説明できるように概説する。		
到達目標	各系統疾患の病態病理について理解し、説明できることを目的とする。1. 循環器 2. 血液・造血器 3. 呼吸器 4. 消化器 5. 腎泌尿器 6. 婦人科 7. 内分泌 8. 脳神経 9. 筋骨格		
関連科目	解剖学、生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	講義の内容についてマーク式試験(100題)で評価します。
教科書	①大橋健一ら(編集) [最新版] 「[系統看護学講座 専門基礎分野] 病理学」 医学書院		
参考書	①小林正伸 (著) [最新版] 「[病理学 病態形成の基本的な仕組み]」 南山堂		
履修上の留意点	学習内容の講義順序や講義時間が変更されることがあるので、学生掲示板などで逐次講義予定を確認すること。教科書はあった方が望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	系統講義・各論の概説	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	動脈硬化症、高血圧、大動脈瘤、血管炎、静脈瘤	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	丹野
3	心不全、弁膜症、虚血性心疾患、心筋炎、心筋症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
4	呼吸器感染症、肺炎、気管支炎、肺気腫、肺腫瘍	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(黒沼)
5	食道疾患、胃十二指腸疾患、腸疾患	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口
6	肝炎・肝がん、胆道系疾患、膵炎、膵がん	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮西)
7	遺伝性内分泌疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(櫻井)
8	骨髄炎、骨粗しょう症、骨腫瘍、関節疾患、筋疾患	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	渡邊

		る。		
9	貧血、白血病、出血素因、リンパ腫、胸腺関連疾患	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(小船)
10	アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(神田)
11	腎疾患、腎腫瘍、膀胱炎、膀胱腫瘍、前立腺疾患、男性の性感染症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(西田)
12	子宮疾患、卵巣疾患、女性の性感染症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(杉村)
13	発達障害、胎児水腫、先天性心疾患・代謝異常、小児腫瘍	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(山本)
14	脳血管障害、脳浮腫、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳腫瘍、脊髄疾患、末梢神経障害、視器疾患	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(吉藤)
15	総括	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口

授業科目	症候と病態	2 学年学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護学科	必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより看護師国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場で看護師としての実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1)様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2)様々な疾患・病態の診断・治療の過程において重要な看護介入を説明できる。 (3)看護師国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4)臨床の現場で看護師としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「生理学」「病理学1」 2 年次：「疾病治療概論」「疾病治療論 1-4」「薬理学」「病理学2」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①浅野嘉延 編 [最新版] 「なるほどなっとく内科学」 南山堂 ②浅野嘉延, 吉山直樹 編 [最新版] 「看護のための臨床病態学」 南山堂		
履修上の留意点	2 学年前期に並行して開講される「疾病治療論概論」「疾病治療論1」と併せて、看護系・系統臨床内科学として一連の講義を行う。本学では看護学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より2年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の看護学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。看護師国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は2年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	感染症(1)	事前：該当症候についての予習 事後：講義資料の復習	講義	丹野
2	感染症(2)	〃	〃	〃
3	感染症(3)	〃	〃	〃

4	アレルギー・免疫疾患(1)	〃	〃	〃
5	アレルギー・免疫疾患(2)	〃	〃	〃
6	アレルギー・免疫疾患(3)	〃	〃	〃
7	問題演習(1)	〃	〃	〃
8	問題演習(2)	〃	〃	〃

授業科目	医療薬学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	福土 将秀 (附属病院薬剤部) e-mail : fukudom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	丹野雅也 (保険医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	薬物療法は疾患や症状を有する人々に最も多く用いられる治療法である。薬物療法にかかわる看護の役割は、患者が医薬品を安全に使用することができるように援助することである。 本科目は、医薬品の体内動態や薬物療法に関する基礎的知識に加えて、臨床現場で知っておくべき医薬品情報や医薬品の安全管理と適正使用法、チーム医療など看護実践に求められる知識・技術を教授する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人にとっての薬物、医療にとっての薬物とは何かを説明できる。 2. 薬物や薬理作用に関する基礎的知識を説明できる。 3. 人の心身に作用する種々の薬物に関する基礎的知識を説明できる。 4. 薬物の適用にかかわる実践的知識を説明できる。 5. 医療従事者の役割を理解するとともに、看護師と薬剤師の連携のあり方を考える。 		
関連科目	なし		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	筆記試験で6割以上の点数の学生に所定単位を与える。
教科書	①吉岡充弘 他 [2022 年・2,300 円] 「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」 医学書院 ② []		
参考書	①柳田俊彦 [2023 年・3600 円] 「くすりがわかる」 南山堂 ②時政孝行 他 [2023 年・2300 円] 「看護のための薬理学」 南山堂		
履修上の留意点	講義では、理解力を試す小テストを行うことがあります。 事前学習では、事前に配布する講義資料を読み、学習内容について準備をしておくこと。 事後学習では、教科書や参考書を読みながら復習し、学習内容の理解を深めて知識の定着に努めていくこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	【薬理学総論 1】 薬理学の基礎知識 ・新薬の開発とプラセボ、薬の作用(薬力学)と薬物動態学	教科書と講義資料を読む	講義	福土
2	【薬理学総論 2】 薬物相互作用、製剤、医薬品の添付文書、処方せん	教科書と講義資料を読む	〃	〃
3	【薬理学総論 3】 薬と法律、臨床研究と倫理指針、遺伝子多型情報	教科書と講義資料を読む	〃	〃
4	1) 抗感染症薬、消毒薬	教科書と講義資料を読む	〃	〃
5	2) 抗がん薬、分子標的治療薬	教科書と講義資料を読む	〃	〃
6	3) 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	教科書と講義資料を読む	〃	〃
7	4) 末梢での神経活動に作用する薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃

8	5) 中枢神経系に作用する薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃
9	6) 循環器系に作用する薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃
10	7) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃
11	8) 物質代謝に作用する薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃
12	9) 皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物	教科書と講義資料を読む	〃	〃
13	10) 漢方薬、輸液製剤・輸血剤、看護業務に必要な薬の知識	教科書と講義資料を読む	〃	〃
14	1) 附属病院薬剤部・治験センターの役割と院内における 医薬品の供給管理・医療安全対策 2) 医療現場における薬剤師の役割 3) 看護師と薬剤師の連携のあり方、チーム医療	講義資料を読む	〃	〃
15	国家試験問題対策	演習問題を解く	演習	〃

授業科目	疾病治療概論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより看護師国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場で看護師としての実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1)様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2)様々な疾患・病態の診断・治療の過程において重要な看護介入を説明できる。 (3)看護師国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4)臨床の現場で看護師としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「生理学」「病理学1」 2 年次：「疾病治療論 1-4」「症候と病態」「薬理学」「病理学2」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①浅野嘉延 編 [最新版] 「なるほどなっとく内科学」 南山堂 ②浅野嘉延, 吉山直樹 編 [最新版] 「看護のための臨床病態学」 南山堂		
履修上の留意点	2 学年前期に並行して開講される「疾病治療論 1」「症候と病態」と併せて、看護系・系統臨床内科学として一連の講義を行う。 本学では看護学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より2年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の看護学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。看護師国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は2年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	疾病治療総論	事前：教科書該当部分の予習 事後：講義資料の復習	講義	丹野
2	全身の症候と病態	〃	〃	〃
3	循環器疾患(1)	〃	〃	〃

4	循環器疾患(2)	〃	〃	〃
5	循環器疾患(3)	〃	〃	〃
6	腎臓・泌尿器疾患(1)	〃	〃	〃
7	腎臓・泌尿器疾患(2)	〃	〃	〃
8	腎臓・泌尿器疾患(3)	〃	〃	〃

授業科目	疾病治療論 1	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、白鳥正典、佐々木泰史		
概要	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより看護師国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場で看護師としての実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1)様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2)様々な疾患・病態の診断・治療の過程において重要な看護介入を説明できる。 (3)看護師国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4)臨床の現場で看護師としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「生理学」「病理学 1」 2 年次：「疾病治療概論」「疾病治療論 2-4」「症候と病態」「薬理学」「病理学 2」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①浅野嘉延 編 [最新版] 「なるほどなっとく内科学」 南山堂 ②浅野嘉延, 吉山直樹 編 [最新版] 「看護のための臨床病態学」 南山堂		
履修上の留意点	2 学年前期に並行して開講される「疾病治療論概論」「症候と病態」と併せて、看護系・系統臨床内科学として一連の講義を行う。本学では看護学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の看護学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。看護師国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 2 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	呼吸器疾患の症候と病態	事前：教科書該当部分の予習 事後：講義資料の復習	講義	丹野
2	呼吸器疾患(1)	〃	〃	白鳥
3	呼吸器疾患(2)	〃	〃	〃

4	消化器疾患(1)	〃	〃	佐々木
5	消化器疾患(2)	〃	〃	〃
6	消化器疾患(3)	〃	〃	〃
7	内分泌・代謝疾患(1)	〃	〃	丹野
8	内分泌・代謝疾患(2)	〃	〃	〃
9	内分泌・代謝疾患(3)	〃	〃	〃
10	内分泌・代謝疾患(4)	〃	〃	〃
11	血液疾患(1)	〃	〃	〃
12	血液疾患(2)	〃	〃	〃
13	神経疾患(1)	〃	〃	斎藤
14	神経疾患(2)	〃	〃	〃
15	神経疾患(3)	〃	〃	〃

授業科目	疾病治療論 2	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号室) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(原田敬介)、(巽 博臣)、(吉川裕介)、(秋山幸功)、(川原田修義)、(宮島正博)、(高野賢一)、(杉村政樹)、(西田幸代)、(四ッ柳高敏)、(島 宏彰)、(市戸義久)		
概要	疾病治療論 2 は、外科的治療に必要な医学的基礎知識を身につけることを目的とする。総論では外科的治療の基本概念となる手術侵襲と代謝・栄養などを学び、各論では消化器疾患、内分泌疾患、乳腺疾患、循環器疾患、小児疾患、脳神経疾患、婦人科疾患、泌尿器科疾患、耳鼻科疾患の中から代表的な外科的疾患の概念とその治療方法について学ぶ。専門的講師陣により手術適応、術後病態と看護要点、合併症と対策などを学び、実地臨床に必要な基礎力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療を必要とする患者さんから必要な情報を聞き取ることができる。 2. 代表的な外科的疾患について説明することができる。 3. 術後の合併症について述べるることができる。 4. 術後の病態に応じた退院指導ができる。 5. 過去の国家試験問題に対する 70%以上の正答を得ることができる。 		
関連科目	病理学、生理学、解剖学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加状況の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①浅野嘉延/吉山直樹 編 [最新版] 「看護のための臨床病態学」 南山堂 ②医療情報科学研究所(編) [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器(第5版)」 MEDIC MEDIA ③岡本豊 編 [最新版] 「看護師・看護学生のためのレビューブック」 MEDIC MEDIA 		
履修上の留意点	教科書・参考書はあると望ましい。病気がみえる vol.1 消化器(第5版)MEDIC MEDIA は将来にわたって使える。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	医療基礎(手術侵襲、腫瘍、外傷、外科的基本手技)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	救急実践(救急処置法、人工呼吸器・トリアージ・DCS)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(原田)
3	集中治療(静脈栄養・経腸栄養・血液浄化)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(巽)
4	麻酔法 (全身麻酔、術前管理・術後管理)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(吉川)
5	心臓疾患、血管疾患	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(川原田)
6	呼吸器疾患	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮島)

		る。		
7	消化管疾患(上部・下部)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口
8	肝胆膵疾患(肝臓・胆嚢・膵臓)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	脳神経疾患(疫学・診断・治療・予後)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(秋山)
10	耳・鼻, 咽頭疾患(疫学・診断・治療・予後)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(高野)
11	産婦人科疾患(疫学・診断・治療・予後)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(杉村)
12	泌尿器科疾患(疫学・診断・治療・予後)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(西田)
13	形成外科領域の対象疾患	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(四ッ柳)
14	乳腺疾患(疫学・診断・治療・予後)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(島)
15	口腔ケアに必要な歯科解剖・生理	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(市戸)

授業科目	疾病治療論 3	2 学年・後期・1 単位 (30 時間時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	浅利剛史 (保健医療学部棟 E109 号) e-mail : asari.tsuyoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	久野芳佳、(津川毅)、(山本雅樹)、(福村忍)、(坂井拓朗)、(富樫篤生)、(春日亜衣)、(末岡秀文)、(名和由布子)		
概要	本科目では、周産期におこりやすい異常の診断と治療の概要、そして胎児・新生児期から小児期、思春期および更年期におこる疾患とその診断・治療の概要について学ぶ。講義は主に産婦人科医師、小児科医師らによって行われる。看護師としてケアする上で必要となる基本的な診断・治療プロセスと診断・治療の動向についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎児・新生児期から小児期にわたって子どもにおこる疾患の特徴を説明できる。 2. 上記 1 の診断と治療の過程を説明できる。 3. 周産期(妊娠、出産、産褥)のハイリスクの診断と治療について説明できる。 4. 生殖器の構造と機能を理解し、生殖器疾患の診断と治療について説明できる。 5. 思春期・更年期の疾患と治療について説明できる。 		
関連科目	母性看護学概論、母性看護方法、母性看護実習、小児看護学概論、小児看護方法、小児看護実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験(小児系)	50%	
	筆記試験(母性系)	50%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①二宮啓子 [2021 年 改訂第 4 版] 「小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術」 南江堂 ②今野美紀 [2021 年 改訂第 4 版] 「小児看護学Ⅱ 小児看護支援論」 南江堂 ③森恵美 [最新版・2,400 円] 「母性看護学概論」 医学書院 ④森恵美 [最新版・2,900 円] 「母性看護学各論」 医学書院 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①真部淳 [2019 年] 「看護学テキスト 病態・治療論 [14] 小児疾患」 南江堂 ②医療情報科学研究所 [2017 年・3,960 円] 「病気がみえる 産科 第 10 版」 メディックメディア 		
履修上の留意点	講師は臨床医を中心に構成している。臨床の都合で授業の予定が変更になることもあるので、掲示等の案内を注意して見ておくこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 小児の感染症の診断と治療・予防接種	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	講義	浅利・ (富樫)
2	小児の神経疾患の診断と治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(福村)
3	小児の内分泌・生活習慣病の診断と治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(末岡)
4	小児の免疫・アレルギー・リウマチ性疾患の診断と治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(津川)
5	小児の血液・腫瘍疾患の診断と治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(山本)
6	小児の心臓・循環器疾患の診断と治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(春日)
7	小児の手術と麻酔、痛み管理	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(名和)

8	周産期医療の歴史と医療体制 出生前診断	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	久野
9	男性・女性生殖器疾患の診断と治療(1)	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃
10	男性・女性生殖器疾患の診断と治療(2)	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃
11	思春期・更年期の病態、診断、治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃
12	正常な妊娠経過と異常の診断・治療 合併症妊娠、母子感染	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃
13	正常な分娩・産褥経過と異常の診断・治療	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃
14	新生児医療の歴史と医療体制	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	(坂井)
15	新生児に起こりやすい病態と未熟児管理	事前学習：学習内容の確認 事後学習：講義内容の復習	〃	〃

授業科目	疾病治療論 4	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	丹野雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井貴男、丹野雅也、(川村敏明)、当事者・コメディカルスタッフ(協力：浦河ひがし診療所)		
概要	本科目は、精神看護と老年看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。精神領域では、精神の障害に対する精神医学的立場からの治療総論と主要な精神疾患の診断と治療について教授する。老年領域では、高齢者に多くみられる症状や疾患の特徴について教授する。また、一般的な病態生理や治療をふまえて高齢者の治療上の留意点などについて理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害に対する診断と治療のプロセスについて説明できる。 2. 精神障害の概念、疫学、症状について説明できる。 3. 高齢者の生理的特徴と高齢者の疾患の特徴を説明できる。 4. 高齢者に多い疾患の病態生理と治療を説明できる。 		
関連科目	疾病治療論 1～3、老年看護学概論、老年看護方法、精神看護学概論、精神看護方法		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①山下格, 大森哲郎 [2022 年] 「やさしい精神医学 [第 8 版] —医学・保健・福祉の基礎知識」 日本評論社 ②第 12 版改訂委員会, 大熊輝夫 [2013 年] 「現代臨床精神医学」 金原出版 ③鳥羽研二他 [最新版] 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」 医学書院 ④医療情報科学研究所 [2017 年] 「病気がみえる (vol. 7))脳・神経 [第 2 版]」 メディックメディア 		
履修上の留意点	1 回～10 回は理学療法学科・作業療法学科の精神医学 1・2 との合同授業となります。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神医学総論 精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	講義	石井
2	統合失調症とその関連障害 統合失調症と関連疾患の概念、疫学、症状、病型	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
3	認知症 主な認知症性疾患、経過と予後、鑑別疾患、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
4	気分(感情)障害 うつ病、躁うつ病の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
5	地域精神障害医療 地域での精神医療の実情、多職種連携、精神科リハビリテーション、就労支援	事前：地域精神医療に関する情報収集 事後：講義内容の復習	〃	(川村)・ 当事者・コ メディカ ルスタッ フ
6	神経症性障害 不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体表現性障害の概念、	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井

	疫学、症状、診断、治療			
7	症状・器質性精神障害 症状・器質性障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
8	精神作用物質による精神・行動の障害 障害の定義、アルコール関連精神障害、薬物依存による精神障害、治療と回復	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
9	心理発達の障害および精神遅滞 発達障害、精神遅滞の概念、疫学、診断、症状、治療	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
10	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 摂食障害および睡眠障害の症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	石井
11	老年医学総論	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	丹野
12	加齢による身体機能の変化と疾病(1)	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	丹野
13	加齢による身体機能の変化と疾病(1)	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	丹野
14	老年症候群(1)	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	丹野
15	老年症候群(2)	事前：学習内容の予習 事後：配布資料の復習	〃	丹野

授業科目	臨床心理学	2,3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護2年 理学3年 作業3年	必修 必修 必修

科目担当責任者	(山本創) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 研究室) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>心理学には心の科学として様々な研究や理論が積み重ねられてきた歴史がある。臨床心理学はそれらを土壌としつつも、単に科学的な知見だけでは整理のつかない個別性と歴史性を持つ生身の人間のこころを対象としており、その人が人間関係や社会の中で生きているうちに抱えるに至った、こころの課題を理解し援助するための実践的学問である。</p> <p>本講義では今日の臨床心理士が、援助の対象となった方々のこころをどのように理解し、援助関係を紡いで、ご本人との共同作業としての援助をおこなっているのかについて、具体的な事例を交えながら講義を行う。</p> <p>援助の場面であれ、そうではない場面であれ、人が人を理解するという事は相手との関係性に基づいた営みである。だから本当に理解するためには、相手を理解することのみに留まらず、自分自身を理解し、自分と相手の関係性を理解し、二人が出会っている環境や社会を理解するという複眼的な思考が必要となる。本来、職種別を問わず対人援助職にはそのような視点が必要不可欠であり、本講義の受講が学生諸君にとってその獲得の第一歩となることを目指したい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達過程について、授業内容に基づいた基本的な知識を説明できる。 2. 共感的理解とは何であるのか、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。 3. 心理検査、心理療法、集団精神療法などの援助的な関わりについて、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。 4. 講義を通して自らのこころの理解が深まったのなら、それを言語化することができる。 		
関連科目	人間関係論、心理学概論、倫理と哲学、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	最終レポート	70%	感覚レベルの言葉に留まらず、自分なりの視点を持って思考を紡ぎ、言語化することを求めます。
	ミニ・レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	できるかぎり授業が双方向的なものになるよう、授業の終了間際に質問や感想についてのコメントペーパーを書いていただき、そのうちの幾つかについて次回授業冒頭でフィードバックします。私語、スマホいじりなどは謹んでいただきます。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	こころとはなんだろうか? ～こころを「容器」あるいは「おまんじゅう」に例えて考えてみる～	事前：心理療法関連書物の一読 事後：レジュメ再読	講義	(山本)
2	こころが育つということ ～人は人間関係の中で人になる～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃

3	こころの援助のための対話の基盤 ～共感的理解とはなんだろうか～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
4	心の援助のための対話の基盤2 ～心理療法の事例を通して考える～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
5	こころは可視化できるか？ ～心理検査を用いてのこころの理解～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
6	集団とはなんだろうか？ ～集団力動、集団精神療法について～	事前：集団力動関連図書一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
7	こころと社会 ～こころの「容器」「環境」としての社会～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
8	援助者のこころ ～公と私、転移と逆転移、感情労働、そして自己理解についで～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レポート課題の準備	〃	〃

授業科目	災害医療・保健活動論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木亜砂子、森元隆文、根木亨、(根本昌宏)、(上村修二)、(田村周子)、(工藤篤志)、(北海道危機対策課)、他		
概要	近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。本科目は、災害の種類や特性、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、保健医療専門職として、被災者の医療、生活支援を行うために必要な基礎的能力を養う。また、避難所運営演習では避難所で起こる様々な課題への対処を模擬体験し、被災者の健康管理のあり方の理解を図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義、種類および災害発生の状況と法律・制度の変遷を説明できる。 2. 災害サイクルおよびフェーズの特徴、疾病との関連を説明できる。 3. 北海道における災害の特徴を説明できる。 4. 災害サイクル各期における医療や健康管理活動とチーム連携について説明できる。 5. 避難所運営について模擬体験し、避難所生活が健康に及ぼす影響について考察できる。 		
関連科目	救急医療総論、災害看護		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	70%	レポート：毎回の授業後のミニッツレポート提出状況(30%)、最終レポートの提出状況と記載内容(40%) 演習：参加態度、グループワークへの貢献度についてルーブリックによる評価
	演習	30%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①小井土雄一・石井美恵子編著 [2017] 「多職種連携で支える災害医療 身につけるべき知識・スキル・対応力」 医学書院 ②大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会企画・編集 [2018] 「災害リハビリテーション標準テキスト」 歯葉出版 ③小原真理子監修 [2019] 「災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版」 南山堂 ④榛沢和彦監修 [2018] 「別冊地域保健 いのちと健康を守る避難所づくりに活かす 18 の視点」 東京法規出版 		
履修上の留意点	医療者として災害時に対応できる基礎的知識を習得し、災害時に活用できるように積極的に学修して欲しい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 災害および災害医療・保健活動の基本：災害の定義と分類およびその特性、災害発生の現状と活動の根拠となる法律・制度、災害サイクル・災害フェーズと疾病構造	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	講義	秋原 青木
2	北海道における災害と災害時の活動の実際 積雪寒冷地の災害の特徴	事前：北海道の災害について調べる 事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(根本)
3	災害発生時の医療活動とチーム連携	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(上村)
4	災害サイクルを通しての保健活動：災害時及び平常時の健康管理と地域の体制整備	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(田村)
5	災害時の健康管理 1：被災住民の健康維持、障害者および高齢者の活動性の維持・改善	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(工藤)
6	災害時の健康管理 2：災害時の心理変化とこころのケア	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	森元

7	避難所の運営1: Doはぐ(避難所運営ゲーム北海道版)	事前: 配付資料を読む	演習	(北海道危機対策課)・青木・森元・根木・秋原
8	避難所の運営2: 避難所ゾーニング	事後: ルーブリック評価、レポート課題	〃	〃

授業科目	救急医療総論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学研究棟 E410 号) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	根木 亨、横山和樹、田口裕紀子、小木曾寛樹、(成松英智)、(村中沙織)、(向谷怜奈)		
概要	急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。特に医療者には、このような救急状況に遭遇したときに冷静に状況を判断し応急処置を行うことが期待される。本教科では、救急医療についての概念を学ぶとともに、救急状況にある患者と家族の特色と救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師それぞれの役割を学ぶ。また、基本的な応急処置に必要な知識・技術について、実技・演習を通して身につけることをねらいとしている。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療システムと救急医療を必要とする対象の特性について説明できる。 2. 救急医療に関連した倫理的問題について考えることができる。 3. 救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割について説明できる。 4. 基本的な応急処置の方法を理解し実施できる。 		
関連科目	内部障害理学療法学、身体障害療法治療学、疾病治療論 2 など		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 授業態度：授業への集中度、質問や発言の状況
	筆記試験	70%	
	レポート	20%	
	授業態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	救急医療の概念 1 : 救急医学と救急医療システム	事前：救急医療に関する知識の整理 事後：配付資料の確認	講義	(成松) 他
2	救急医療の概念 2 : 重症救急病態 1 (循環不全、呼吸不全、中枢神経障害など)	事後：配付資料の確認	”	”
3	救急医療の概念 3 : 重症救急病態 2 (外傷、熱傷、精神科疾患など)	事後：配付資料の確認	”	渡邊
4	救急医療の概念 4 : 脳死と臓器提供に関わる倫理的問題	事後：配付資料の確認	”	(成松) 他
5	救急医療の概念 5 : 災害医療とその実際	事後：配付資料の確認	”	”
6	基本的な応急処置 1 : 固定法と止血法	事前：固定法、止血法に関する知識の整理	”	小木曾・横山

7	基本的な応急処置 2 : 熱中症と緊急処置	事前：応急処置に関する知識の整理	講義・ 演習	(村中)・ 小木曾
8	一次救命処置、AED のつかい方	事前：AED に関する知識の整理	”	(向谷)・ 田口・ 根木・ 横山・ 小木曾

授業科目	疫学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	疫学とは人口集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策立案に役立てる学問である。本科目では集団における健康事象の因果関係を推論、確定し、予防のための方法論について学習する。疫学概念、基本的指標、方法論、分析方法、因果推論等について基礎的な知識を学び、その上で、健康問題の具体例を用いて、疫学調査研究や倫理に関する問題について学習する。また、健康問題に与える社会的・経済的要因(職業、ジェンダー、教育、所得、貧困、社会階層)や環境・文化、それらの集合体である社会構造ともいえるエコロジカルすなわち生態学的な要因にも着目する(社会疫学)。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の定義と歴史の変遷、歴史上注目すべき業績について述べることができる。 2. 疾病リスクと主要な疫学指標(頻度の測定、頻度の比較)について述べるができる。 3. 疫学の研究方法(横断研究・縦断研究・症例対照研究・介入研究)および研究倫理の概要を述べるができる。 4. 主要疾患の社会経済的、環境・文化的リスクファクターについて説明できる。 5. 日本の社会経済的格差の現状と健康への影響について述べるができる。 		
関連科目	保健統計学、環境保健論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	提出物は、講義時間内の個人ワーク、グループワークにおいて作成・提出されたものを評価する。
	提出物	20%	
教科書	①日本疫学会 [2018 年] 「はじめて学ぶやさしい疫学(第3版)」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション: 疫学の定義、歴史的業績、疫学の目的・意義について	事前: 教科書の指定された部分を予習する 事後: 配布資料の通読	講義・演習	山本
2	疫学の指標: 疾病頻度の測定指標(罹患率・有病率・死亡率・致命率・発症率)	事前: 教科書の指定された部分を予習する 事後: 課題について調べてまとめる	〃	〃
3	疫学の指標: 疾病頻度の測定指標(死亡率・年齢調整死亡率の意義と方法)	事前: 教科書の指定された部分を予習する 事後: 課題について調べてまとめる	〃	〃
4	スクリーニング検査の定義と種類: 疫学的評価、有効性の評価、経済的評価	事前: 教科書の指定された部分を予習する 事後: 課題について調べてまとめる	〃	〃
5	疫学の研究方法 I (記述疫学)	事前: 教科書の指定された部分の予習する 事後: 課題について調べてまとめる	〃	〃

6	疫学の研究Ⅱ(相関研究、生態学的研究)	事前:教科書の指定された部分を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
7	疫学の研究Ⅲ(コホート研究)	事前:教科書指定された部分を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
8	疫学の研究Ⅳ(症例対照研究)	事前:教科書の指定された部分を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
9	疫学の研究Ⅴ(無作為化比較試験)	事前:教科書指定された部分を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
10	疫学研究の倫理	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
11	収入・所得と健康・疾病の関係	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
12	教育・職業・社会階層と健康・疾病の関係	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
13	地域の社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)と健康・疾病の関係	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
14	健康情報・ヘルスリテラシー	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃
15	疫学研究の事例	事前:配付資料を予習する 事後:課題について調べてまとめる	〃	〃

授業科目	保健統計学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	三瀬敬治 (医療人育成センター入試・高大連携部門) e-mail : mise@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	保健統計は、集団の健康状態を把握するものであり、地域の健康状態のバイタルサインとも考えられる重要なものである。保健師・看護師として保健医療福祉活動を実践する際には、各種保健統計資料からの情報の収集・整理及び活用、調査・研究に関する能力が求められる。保健統計では、健康指標ならびに人口に関する指標、データの特徴を記述する記述統計、標本データから母集団の性質を求める推測統計(推定、検定)について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療分野における統計の意義と活用事例について述べるができる。 2. 人口統計の種類と定義・内容を述べるができる。 3. 母集団と標本、平均と標準偏差、相関など、推定と検定に関して述べるができる。 4. 統計ソフトを活用して要約統計量の算出、表・グラフの作成と検定を行うことができる。 		
関連科目	統計学、疫学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	65%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、期末試験の解答状況により評価する。 ・筆記試験で 60%未満の得点しか取れなかった者は、再試験対象者とする。再試験対象者は、再試験で 60%以上の得点を取れた場合合格とするが、レポートの得点にかかわらず、最終成績は 60 点とする。 ・レポートは、提出状況及び内容により評価する。
	レポート	35%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	1 年次で「統計学」を履修した者は、教科書「統計学入門」(東京大学出版)を持参すること。(履修しなかった者は、新規購入の必要はない)		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	保健統計の歴史、保健統計の種類および概要、健康指標の分類	事前：事前配付資料を読む 事後：疑問点の抽出	講義	三瀬
2	人口動態動態調査、出生率、死亡率、年齢調整死亡率、平均余命、生命表、年次推移と国際比較、国勢調査	事前：事前配付資料を読む 事後：各種統計指標の復習	〃	〃
3	母集団、標本抽出、代表値	事前：事前配付資料を読む 事後：各種統計用語の復習	〃	〃
4	データの入力、エクセルの関数、EZR の基礎	事前：事前配付資料を読む 事後：レポート作成	演習	〃
5	クリーニング、データの加工、要約統計量の算出、表・グラフの作成	事前：事前配付資料を読む 事後：レポート作成	〃	〃
6	分散、標本サイズ、正規分布、標本分布、歪度と尖度	事前：事前配付資料を読む 事後：各種統計用語の復習	講義	〃
7	推測統計とは、分布の標準化、推定の考え方、中心極限定理、統計表の見方	事前：事前配付資料を読む 事後：各種分布の理解、標準化の復習	〃	〃
8	母平均の推定、保健統計における推定の意義	事前：事前配付資料を読む 事後：推測統計の復習	〃	〃
9	母分散の推定、割合の推定	事前：事前配付資料を読む 事後：推定の計算練習	〃	〃

10	自由度、統計的仮説検定の基本的な考え方、独立性の検定、適合性の検定、比率の検定	事前：事前配付資料を読む 事後：推定と仮説検定の関連性をまとめる	〃	〃
11	平均値の差の検定	事前：事前配付資料を読む 事後：仮説検定の種類と使い分けをまとめる	〃	〃
12	相関係数とその検定、保健統計における検定の意義、疫学	事前：事前配付資料を読む 事後：仮説検定の種類と使い分けをまとめる	〃	〃
13	一元配置分散分析、ノン・パラメトリック検定の基本的概念	事前：事前配付資料を読む 事後：仮説検定の種類と使い分けをまとめる	〃	〃
14	Excel と EZR による検定の演習(1)	事前：事前配付資料を読む 事後：レポート作成	演習	〃
15	Excel と EZR による検定の演習(2)	事前：事前配付資料を読む 事後：レポート作成	〃	〃

授業科目	保健福祉行政論	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	深川周平 (保健医療学部研究棟 E111 号) e-mail : fukas@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	深川周平、阿部弥喜、(佐橋克彦)		
概要	看護の対象となる人間は、地域社会の中で生活を営む存在であり、社会保障制度や保健医療システムに影響を受けている。保健・医療・福祉の体系と施策・制度の仕組み、社会福祉・社会保障の機能や活用方法を含め、諸制度とシステムについて学習する。また、保健・医療・福祉サービスを実施、評価し、調整するために必要な基礎的な知識を学習する。社会保障制度や保健医療システムを踏まえて、人びとの健康的な生活が向上するように支援するための看護活動のあり方について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の保健行政の沿革と動向について述べることができる。 2. 保健医療福祉システムの構造と構成する枠組みについて述べるができる。 3. 保健行政、保健所などの現状を理解し、予防活動の重要性を述べるができる。 4. 保健医療福祉システムを踏まえた看護活動について述べるができる。 5. 現代社会における社会保障の理念と意義について述べるができる。 6. 社会保障制度の体系と概要について述べるができる。 7. わが国の年金保険・医療保険・介護保険などについて述べるができる。 8. 社会保障の実施体制と専門職の役割について述べるができる。 		
関連科目	地域看護学概論、地域看護方法、在宅看護学概論、在宅看護方法		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	小テスト	80%	筆記試験は、期末試験の解答状況により評価する。 提出物は、レポート記録の提出状況および内容により評価する。
	提出物	20%	
教科書	①藤内修二 他編 [最新版] 「保健医療福祉行政論」 医学書院 ②川村匡由 編著 [最新版] 「社会保障」 建帛社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	詳細は、開講時に配布する学習要項を確認すること。 下記のスケジュールは、学習の進捗状況等により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 保健医療福祉行政の基本	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	講義	深川
2	保健医療福祉制度の変遷	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
3	保健医療福祉行政・財政の仕組み	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
4	母子保健・児童福祉に関する制度	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
5	成人保健・高齢者保健に関する制度 小テスト	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
6	保健医療福祉システムを踏まえた看護活動①	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：記録整理	グループ 学習	深川・阿部

7	保健医療福祉システムを踏まえた看護活動②	事前：事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：記録整理	〃	〃
8	保健医療福祉システムを踏まえた看護活動③	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：レポートの作成	〃	深川
9	社会保障と国民生活、社会保障の概念と理念	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	講義	(佐橋)
10	少子高齢化の状況と社会保障の関係 小テスト	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
11	社会保障給付の動向と近年の社会保障改革の概要	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
12	年金保険制度の歴史と概要、課題 小テスト	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
13	医療保険制度の歴史と概要、医療供給システム	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
14	介護保険制度の背景と概要、課題 小テスト	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃
15	社会経済的観点からみた社会保障の今後の見通し 小テスト	事前：学習内容に該当する教科書の章を読む。事後：講義ノートの確認	〃	〃

授業科目	健康管理論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	青木 亜砂子 (保健医療学研究棟 E103) e-mail : aaoki@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	村川 奨		
概要	「健康管理」は疾病と健康の間において、人々の生活基盤の中で、自らの健康を保持・増進あるいは回復させ、生活の向上を図っていくために必要な保健・医療技術を組織的に提供し、人々の健康生活を支援する一連の活動のプロセスである。健康の維持・増進、疾病異常の監視、回復を目的として、個人や集団に対して行う幅広い活動のことをいう。以上のような観点から地域における保健活動を行うための基礎となる健康教育の理論とその現場への適用について学び、実践につなげることができるように学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念と構成する枠組みについて説明できる。 2. わが国の疾病構造と現在までの傾向について理解し概要について説明できる。 2. 健康管理、健康教育の方法について理解し、概要を説明できる。 3. 健康教育の理論を対象者の特性に合わせて活用することができる。 		
関連科目	環境保健論、保健統計学、疫学、地域看護学概論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(80 点分)と提出物(10 点分)、参加態度(10 点)により評価する。 ・筆記試験は、定期試験の結果に基づき評価する。 ・提出物は、グループ学習での健康教育資料の提出状況及び内容の目標到達状況により評価する。 ・参加態度は、グループ学習での役割遂行、貢献度で評価する。
	提出物	10%	
	参加態度	10%	
教科書	①松本千明 [2002] 「健康行動理論の基礎」 医歯薬出版		
参考書	①木原雅子 [2018] 「健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向」 メディカルサイエンスインターナショナル		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 健康管理の考え方、健康行動理論の基礎	事後：健康行動理論について調べる 事後：学習のまとめ	講義	青木
2	集団の健康の実態を知る：人口動態統計、平均寿命、傷病統計、国民・健康栄養調査	事前：保健統計を調べる 事後：学習のまとめ	〃	〃
3	健康行動と健康教育①	事前：健康教育について調べる 事後：学習のまとめ	〃	〃
4	健康行動と健康教育②	事前：健康教育について調べる 事後：学習のまとめ	〃	〃
5	健康管理の計画：事例から健康づくりのための健康教育を考える、オリエンテーション	事前：健康教育について調べる 事後：健康教育資料の作成	講義・グループ学習	青木・村川
6	健康管理の計画：事例から健康づくりのための健康教育を考える	事前：健康教育について調べる 事後：健康教育資料の作成	講義・グループ学習・発表	〃
7	健康管理の計画：事例から健康づくりのための健康教育を考える	事前：健康教育について調べる 事後：健康教育資料の作成	講義・グループ学習	〃
8	健康管理の計画：事例から健康づくりのための健康教育を考える	事前：健康教育について調べる 事後：学習のまとめ	講義・グループ学習・発表	〃

授業科目	社会と健康史	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	必修 選択 選択

科目担当責任者	秋原志徳 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口徹、船木祝、(菊地和美)、(高橋智美)他		
概要	医療とそれを取りまく社会情勢が目まぐるしく変化するなか、医療と社会のつながりを理解することが求められている。人の健康は経済や戦争といったその時代・国の文化、社会情勢により影響され、医療職もまたその影響を受けて発展してきた。本科目は、医学の歴史とともに、医療と関わり深い社会問題を学び、人々の健康生活は社会にどのような影響を受けているのか、医療はどのような社会を背景に発展してきたのかを理解することを目的とする。そして、各職種立場から人々の健康と生活・権利を守るための社会の在り方を考えることを目指している。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学の発展・変遷の背景にあった社会の歴史について概要を説明できる。 2. 戦争が人々の健康と医療に与える影響について概要を説明できる。 3. 薬害(エイズ、肝炎など)やハンセン病などの社会問題について概要を説明できる。 4. 優生保護法の歴史について概要を説明できる。 5. 医療と社会の歴史を学び、これからの医療について意見交換できる。 		
関連科目	社会学概論、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ミニレポート	40%	
	最終レポート	60%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	主体的に学修してください。出欠席は自己管理し、注意を受けないようにしてください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 社会と健康	事前：自己の学習目標を明確にする 事後：身近にある健康と社会との関連について考える	講義	秋原
2	医学の歴史：手術の歴史	事前：医学の歴史に関する文献を読む 事後：講義の関連文献を読む	〃	水口
3	戦争と医療	事前：ナチスドイツによる戦争犯罪について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
4	感染症と社会 - ハンセン病 -	事前：ハンセン病に関して調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(菊地)
5	薬害問題と社会 - 薬害エイズ -	事前：薬害エイズに関して調べる 事後：薬害の関連文献を読む	〃	秋原他
6	優生保護法の歴史 - 障害者に対する強制不妊手術 -	事前：旧優生保護法について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(高橋)

7	緩和医療の歴史	事前：ホスピスの歴史について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
8	これからの医療のあり方	事前：将来的な医療に関して調べる 事後：これからの医療在り方についての文献を読む	〃	秋原

授業科目	社会福祉学	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	(川勾亜紀奈) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	日本の社会福祉の歴史を概観し、社会福祉の基本的な考え方を理解する。わが国における社会福祉の仕組み、考え方、現状の概要を学ぶ。また、医療従事者に必要な社会福祉関係の知識の獲得、チーム医療実践の必要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念・理念について説明できる。 2. 社会福祉の対象とその課題について説明できる。 3. 社会福祉の専門職について説明できる。 4. 医療専門職と社会福祉専門職との連携、チーム医療実践の必要性について説明できる。 		
関連科目	保健福祉行政論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①大久保秀子 [2022 年・1,760 円] 「新・社会福祉とは何か(第4版)」 中央法規出版		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・私語等の授業の妨げとなる行為は厳禁とする。注意に従わない場合は教室からの退出を指示する場合がある。 ・出席の不正登録には厳正に対処する。 ・講義の進展等により学習内容が変更となる場合がある。毎回、講義資料を配布する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	社会福祉の概念・理念と範囲	事前：シラバスの確認 事後：講義資料の重要項目の確認	講義	(川勾)
2	社会福祉の対象理解①ー貧困・生活困窮者の福祉ー	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
3	社会福祉の対象理解②ー児童家庭福祉ー	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
4	社会福祉の対象理解③ー障がい児・者福祉ー	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
5	社会福祉の対象理解④ー高齢者福祉ー	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
6	社会福祉の対象理解⑤ー地域福祉ー	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
7	ソーシャルワークの概念・理念と方法	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
8	社会福祉専門職 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃

授業科目	環境保健論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	私たちがとりまく物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康、健康障害の発生に大きく関わっている。健康問題を環境との関わりから広く理解し、疾病の予防、健康増進を図るために良い環境とは何かを、環境測定の実習を通じて学ぶ。		
到達目標	1. 環境を生態学的にとらえ、人間をその中の一員であることを説明できる。 2. 生物学的・化学的・物理学的環境要因と健康問題を理解し、その問題の今後の予防策について述べるができる。 3. 環境測定の基礎について学び、科学的に適切な測定を実践できる力を身につける。		
関連科目	疫学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	100%	提出物はレポート、グループワーク等の成果物とする。
教科書	指定なし		
参考書	①辻 一郎 [2024 年] 「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂		
履修上の留意点	理学療法学科、作業療法学科(2 年)の公衆衛生学と合同で行う場合がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション：公衆衛生学/環境保健学の意義、歴史的背景	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	講義	山本
2	地球環境と健康	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	〃	〃
3	放射線	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	演習	〃
4	紫外線、磁界	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	〃	〃
5	温熱と照度	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	〃	〃
6	大気汚染、粉じんの測定	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	〃	〃
7	水質測定	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	〃	〃
8	公害と健康問題	事前：教科書の学習 事後：配付資料の復習	講義	〃

授業科目	人間関係論	1 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	(川俣智路) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>「こちらはこんなに頑張って関わっているのに、なぜ受け入れてもらえないのだろうか」、「なぜこの同僚は私にこんなに批判的なのだろうか」。人が人に何かを働きかける、たとえば援助するときや共同で仕事をするときには、活動が円滑に進むかに加えて人間関係が上手く築けるかどうかが重要となってきます。人間とは、この人と人との関わりを通じて変容したり成長したりするのです。</p> <p>本講義では、援助、指導、協働などに関わる人間関係について体験的に理解し、専門職としての成長を目指すものです。</p>		
到達目標	<p>対人関係に関連する理論について理解し、他人に説明することができる 自己理解、他者理解の方法を学び、対人関係に活かすことができる 対人関係に関連する理論を応用して、ロールプレイや実習などに活かすことができる</p>		
関連科目	臨床心理学、倫理と哲学、文化人類学、国際社会論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	40%	試験は短答式と論述式です。ワークは授業内に複数回実施し、レポートはワークに関するもので、A4 用紙半分か 1 枚程度の分量です。ワークやその解説があるため、出席は前提となっています。
	ワーク	45%	
	レポート	15%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①川瀬正裕, 松本真理子 他 [1997 年・1700 円+税] 「新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブッカー」 ナカニシヤ出版</p> <p>②川瀬正裕, 松本真理子 他 [2001 年・2400 円+税] 「これからの心の援助 役に立つカウンセリングの基礎と技法」 ナカニシヤ出版</p> <p>③平木典子 [2008 年・1300 円+税] 「人間関係が驚くほどうまくいく言いたいことがきちんと伝わるレッスン」 大和出版</p>		
履修上の留意点	<p>この授業では対人関係の理論や実践について体験的にワークを通して学ぶ時間があります。ワークに不安があるなど、様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業終了時まで担当教員に相談して下さい。</p> <p>担当教員についてのプロフィールは、教員情報のウェブサイトをご覧ください (https://goo.gl/c8kpEZ)。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	イントロダクション 事実と「ストーリー」の違い	事前： 「ナラティブ」について検索してくる 事後： 来週の演習のために授業内容を振り返る	講義	(川俣)
2	「ストーリー」の聞き方	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 振り返りのレポートを書く	演習	〃
3	無知の姿勢 開かれた対人関係とは？	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 紹介された文献に目を通す	講義	〃
4	自分について考える	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 振り返りのレポートを書く	演習	〃
5	自己を知ることの意味を考える 私と集団の関係とは？	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 紹介された文献に目を通す	講義	〃

6	言いたいことを伝える技術	事前：事前資料を読んでくる 事後：振り返りのレポートを書く	演習	〃
7	対人関係を円滑に進めるためのアサーティブな態度とは？	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	講義	〃
8	援助における対人関係	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	〃	〃

授業科目	リハビリテーション概論	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山和樹、調整中、(土岐めぐみ)、(調整中)、(大槻美佳)、(佐藤由佳子)		
概要	リハビリテーションは、医学的リハビリテーションから社会福祉的、職業的なリハビリテーションまで広範な概念を含むもので、その実践にはさまざまな専門職がチームを組んで実践している。ここでは、領域を超えた包括的な視点に立って、リハビリテーションの概念とその実際について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・保健、福祉に於けるリハビリテーションの役割について述べることができる。 2. 国際障害分類を基本に障害者の評価とリハビリテーション介入方法を述べることができる。 3. リハビリテーション(医療)に参加する各専門職の役割についてチームワークの観点からその重要性を述べるができる。 4. リハビリテーション(医療)における社会福祉についてチームワークの観点から述べるができる。 		
関連科目	保健医療総論 2、3、4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の撮影、録画を禁止する。 2. 出席の不正登録には厳正に対処する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	リハビリテーション医療の構造(国際障害分類)とその実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	講義	(土岐)
2	リハビリテーションの理念・歴史と現状	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	〃
3	リハビリテーション看護の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(佐藤)
4	理学療法の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	調整中
5	作業療法の実際 (チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	坂上
6	在宅・介護予防(チームワークの視点から) 地域リハビリテーションの実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	横山
7	言語障害の病態・診断・治療の実践(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(大槻)
8	社会福祉論と社会資源の活用(チームワークの視点から) ケースワークの理念と実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(調整中)

授業科目	医療経済学	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(安部 雅仁)		
概要	日本の医療制度は多くの先進国から高い評価が得られる一方、医療費の増大に伴って国民負担(社会保険料と租税の負担)が増加しており、財政面から制度の維持・安定化の方法が問われている。本科目の目的は、日本の経済と財政の動向と課題を整理して、国民皆保険制度の意義を踏まえながら今後の医療制度改革の方向を考えることにある。		
到達目標	1. 診療報酬の内容と課題、出来高払い制と定額払い制の違いをそれぞれ説明できる。 2. 薬価制度と薬価基準、薬価差益の意味を説明できる。 3. 日本の医療制度(高齢者医療を含む)の実態と課題を説明できる。 4. 医療制度改革の方向(個別課題)を説明できる。		
関連科目	保健福祉行政論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 受講態度を評価します。 最終試験の方法については、講義の際に説明します。
	レポート等の提出と報告、 受講態度	60%	
	期末試験	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①小塩 隆士 [2013 年] 「社会保障の経済学(第 4 版)」 日本評論社 ②橋本 英樹・泉田 信行(編) [2016 年] 「医療経済学講義(補訂版)」 東京大学出版会 ③細谷 圭・増原 宏明・林 行成 [2018 年] 「医療経済学 15 講」 新世社		
履修上の留意点	履修者数によっては、演習形式で行うこともある(1 回目の講義の際に説明・調整します)。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	社会保障制度の概要 社会保障給付の動向と変動要因	事前：社会保障制度の概要を把握する 事後：配布資料	講義	山本・(安部)
2	医療制度の仕組み 医療費の動向と変動要因	事前：日本の医療制度と医療費の動向を整理する 事後：配布資料	講義・演習	(安部)
3	医療制度改革の動向(1) 診療報酬の経済学	事前：日本の医療制度(診療報酬制度)の基礎を調べる 事後：配布資料	〃	〃
4	医療制度改革の動向(2) 薬価制度の経済学	事前：日本の医療制度(薬価制度)の基礎を調べる 事後：配布資料	〃	〃
5	医療制度改革の動向(3) 高齢者医療の経済学	事前：日本の医療制度(高齢者医療制度)の基礎を調べる 事後：配布資料	〃	〃
6	医療の提供体制 医療の需要と供給の関係	事前：医療の提供体制と需給関係を整理する	〃	〃

		事後：配布資料		
7	医療制度の国際比較 医療制度改革の方向	事前：アメリカとイギリスの医療制度 の概要を調べる 事後：配布資料	〃	〃
8	病院経営と医療の質	事前：課題について調べる 事後：学習のまとめ	〃	〃

授業科目	看護学概論	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	堀口雅美 (保健医療学研究棟 E309 号) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	看護を学ぶ出発点として、その主概念である「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について学習する。主な内容は「看護の歴史の変遷と専門性」、「看護の目的と役割機能」、「人間の基本的な特性」、「健康の概念」、および「健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割」である。看護の目的・対象・方法についての理解を深め、実践としての成立要素を洞察し、看護の本質や看護者としてのあり方に関する自らの考えを構築する基盤を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史の変遷と専門性について説明できる。 2. 看護の目的と役割機能を説明できる。 3. 人間の基本的な特性を説明できる。 4. 健康の概念について説明できる。 5. 健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割について説明できる。 		
関連科目	基礎看護方法 1、基礎看護方法 2、基礎看護実習 1、基礎看護実習 2、看護統合実習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出物(50 点分)と筆記試験(50 点分)により評価する。 ・ 提出物は提出状況、および内容の目標到達状況により評価し、30 点以上を単位認定の条件とする。 ・ 筆記試験は定期試験の結果に基づき評価し、30 点以上を単位認定の条件とする。
	筆記試験	50%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①宮脇美保子 [2021 年・3,300 円] 「看護学概論(第 5 版)」 メヂカルフレンド社 ②Nightingale, F. [2023 年・1,980 円] 「看護覚え書」 現代社 ③Henderson, V. [2016 年・1,320 円] 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会 ④木下是雄 [1994 年・858 円] 「レポートの組み立て方」 筑摩書房 ⑤佐藤望編集 [2020 年・1,100 円] 「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門(第 3 版)」 慶應義塾大学出版会 ⑥田中美穂、蜂ヶ崎令子 [2015 年・1,650 円] 「看護学生のための実習の前に読む本」 医学書院 		
参考書	①(著者名なし) [2020 年・1,320 円] 「看護学生必携資料集」 メヂカルフレンド社		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習要項と配付資料(学習課題を含む)を熟読し、学習計画を立案して主体的に学習に取り組む。 2. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとる。 3. 掲示は直接自分の目で確認し、速やかに必要な行動をとる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項 看護の歴史の変遷と専門性：歴史を学ぶことの意味	事後：学習課題	講義	堀口
2	看護の歴史の変遷と専門性：職業としての看護の歴史-1	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
3	看護の歴史の変遷と専門性：職業としての看護の歴史-2	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
4	看護の目的と役割機能：看護の定義・目的・役割機能	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	講義・ グループ 学習	〃
5	看護の目的と役割機能：看護の目的・対象・方法	事前：報告会の準備 事後：学習課題	報告会	〃

6	看護の目的と役割機能：看護と「人間」「健康」「環境・社会」との関連	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	講義	堀口
7	人間の基本的な特性：人間の基本的欲求と適応	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
8	人間の基本的な特性：成長と発達	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
9	人間の基本的な特性：人間と環境、統合体としての人間と生活	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
10	健康の概念：健康の定義とその変遷	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
11	健康の概念：健康の成立要因	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
12	健康の概念：健康とQOL	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	〃	〃
13	健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割：社会の課題と看護の役割-1	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	講義・グループ学習	〃
14	健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割：社会の課題と看護の役割-2	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	講義・e-Learning	〃
15	健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割：看護の対象と活動の場との関係	事前：配付資料を読む 事後：学習課題	講義	〃

授業科目	基礎看護方法 1	1 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、中村円、石貫智裕、飯澤良祐、(佐藤美智子)、(畑谷亜矢子)、(関口咲)		
概要	看護は看護技術を媒介として行われる実践活動である。このような看護の実践は、看護の目的に基づいて対象者の個別的な状況に即した具体的な看護技術を適用していく営みである。本科目では看護技術の導入科目として看護技術の概念を理解するとともに、あらゆる看護実践に共通する要素について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念を説明できる。 2. 看護実践における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる。 3. 基本的な感染予防の原理原則を説明できる。 4. 姿勢と体位にかかわるボディメカニクスの原理原則を説明できる。 5. 看護における環境調整の意義および生活環境を調整する方法を説明できる。 6. 看護におけるコミュニケーションの意義および効果的なコミュニケーションの方法を説明できる。 7. 人間にとっての酸素化の意義および酸素化の機能を整えるための看護方法を説明できる。 8. 看護における健康教育の対象とその場および健康教育の概要を説明できる。 9. 感染予防、ボディメカニクス、生活環境の調整に関する基本的な看護技術を実施できる。 		
関連科目	基礎看護方法 2~4、看護学概論、ヘルスアセスメント 1、解剖学、生理学、基礎看護実習 1		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	20%	提出物(20%)、筆記試験(60%)、実技試験(20%)の 3 項目より評価し、すべての合格により単位を認定する。 ・提出物は、提出状況、及び内容の目標到達状況により 6 割以上を合格とする。 ・筆記試験は、定期試験の解答状況により 6 割以上を合格とする。 ・実技試験は、実技試験採点表に基づき 6 割以上を合格とする。
	筆記試験	60%	
	実技試験	20%	
教科書	①深井喜代子編 [2021 年・3,520 円] 「新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編 [2021 年・3,520 円] 「新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」 メヂカルフレンド社 ③菱沼典子著 [2017 年・3,410 円] 「看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会 ④稲葉佳江他編 [2011 年・3,850 円] 「看護ヘルスアセスメント」 メヂカルフレンド社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	授業日程および演習要項を別途配付する。学習要項・演習要項をよく確認し、不備のないように注意すること。 記載の不備や記録内容に不足がある提出物は、再提出を求める場合がある。 学習の一環として演習準備を課す。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の概要・目標、学習内容、学習方法 看護技術とはどのようなものか	事前：教科書①序章を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	宇野
2	看護における安全・安楽・自立・自律の概念	事前：教科書①序章を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
3	感染予防の基礎Ⅰ①：感染の基本概念(感染とはなにか、感染の種類、感染の連鎖、感染成立の要素)	事前：教科書①該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	中村
4	感染予防の基礎Ⅰ②：感染予防の原則、手指衛生の種類	事前：教科書①該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
5	感染予防の基礎Ⅰ③(技術演習)：基本的な手洗い〔衛生的手洗いの実施〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(畑)

				谷・関口)
6	ボディメカニクス①：ボディメカニクスの概念、ボディメカニクス活用の効果	事前：教科書①・②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	中村
7	ボディメカニクス②：体位変換・移動の援助に活用される基礎理論	事前：教科書①・②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
8	ボディメカニクス③(技術演習)：ボディメカニクスの実際〔姿勢と動作の基本要素、ボディメカニクス活用の実際〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤
9	ボディメカニクス④(技術演習)：安楽な体位〔臥床患者の安楽な体位の調整〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	〃
10	ボディメカニクス⑤(技術演習)：体位変換と移動〔臥床患者の体位変換、移乗、移送〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤・(畑谷・関口)
11	ボディメカニクス⑥(技術演習)：体位変換と移動〔臥床患者の体位変換、移乗、移送〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	〃
12	ボディメカニクス⑦(技術演習)：体圧測定〔褥瘡好発部位の体圧測定と褥瘡予防方法の検討〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤
13	生活環境の調整①：生活環境の概念、生活環境の構成要素	事前：教科書②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	飯澤
14	生活環境の調整②：物理的環境要因、プライバシーとテリトリー	事前：教科書②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
15	生活環境の調整③(技術演習)：ベッドメイキング〔基本的なベッドメイキング〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷・関口)
16	生活環境の調整④(技術演習)：ガウンチェンジ〔臥床患者の寝衣交換〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	〃
17	生活環境の調整⑤(技術演習)：リネンチェンジ〔対象者が臥床中のベッドリネンの交換〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷)
18	生活環境の調整⑥(技術演習)：リネンチェンジ〔対象者が臥床中のベッドリネンの交換〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	〃
19	生活環境の調整⑦(技術演習)：物理的環境の調整〔物理的環境測定と環境調整方法の検討〕	事前：指定の演習事前課題 事後：指定の演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤
20	看護における健康教育①：健康教育の定義、健康教育の対象と場	事前：教科書①の該当箇所の閱讀 学習課題 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	堀口
21	看護における健康教育②：保健行動の定義とその分類	事前：教科書①の該当箇所の閱讀 学習課題 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
22	看護における健康教育③：健康教育の方法と教育的役割	事前：教科書①の該当箇所の閱讀 学習課題	〃	〃

		事後：授業内容と学習課題の復習		
23	看護におけるコミュニケーション①：コミュニケーションの意義	事前：教科書①の該当箇所の閲読 学習課題 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	堀口
24	看護におけるコミュニケーション②：コミュニケーション理論と実践	事前：教科書①の該当箇所の閲読 学習課題 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
25	看護におけるコミュニケーション③：コミュニケーション理論と実践	事前：教科書①の該当箇所の閲読 学習課題 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
26	酸素化に関する看護Ⅰ①：人間にとっての酸素化の意義、酸素化に影響する因子、酸素化の阻害因子	事前：教科書②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	講義	石貫
27	酸素化に関する看護Ⅰ②：酸素化に関するアセスメント、酸素化に関する看護援助	事前：教科書②該当箇所を読む 事後：授業内容と学習課題の復習	〃	〃
28	自己課題学習(技術演習)	事前：自己課題の復習 事後：演習内容の復習	演習	宇野・中村・石貫・飯澤
29	実技試験：演習項目より試験内容を決定(別途要項を配付する)	—	実技試験	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷)
30	実技試験：演習項目より試験内容を決定(別途要項を配付する)	—	〃	〃

授業科目	基礎看護方法2	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、石貫智裕、中村円、飯澤良祐、(佐藤美智子)、(畑谷亜矢子)、(関口咲)		
概要	本科目では、基礎看護方法1に引き続き、看護実践の基本となる共通技術(感染予防、看護情報管理)と、対象者の日常生活を整える看護技術(活動と休息、清潔、酸素化、栄養と食事、排泄、温熱寒冷適用)を科学的根拠に基づき学習する。これらの学習がより深まるように、講義、グループワーク、技術演習、個人による事前事後の課題学習を組み合わせながら学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の基本となる共通技術である感染予防と看護情報の管理について説明できる。 2. 活動と休息の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な活動と休息に関する看護方法が説明できる。 3. 清潔の意義を理解し、個人の清潔習慣などを把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法が説明できる。 4. 栄養と食事の意義を理解し、個人の栄養状態や食習慣を把握した上で健康な食生活を維持、促進するための看護方法が説明できる。 5. 排泄の意義を理解し、個人の排泄習慣を把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法が説明できる。 6. 温熱適用や寒冷適用による心身への影響や効果を理解した上で、対象者に必要な看護方法について説明できる。 7. 酸素化の意義を理解した上で、酸素化が阻害されている対象者に対する看護方法について説明できる。 8. 感染予防、活動と休息、清潔、栄養と食事、排泄、酸素化、温熱寒冷適用に関する基本的な看護技術が実施できる。 		
関連科目	基礎看護方法1・3・4、看護学概論、ヘルスアセスメント1、解剖学、生理学、基礎看護実習1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、提出状況及び内容の目標到達状況により6割以上を合格とする。 ・筆記試験は、定期試験の解答状況により6割以上を合格とする。 ・実技試験は、実技試験採点表に基づき6割以上を合格とする。 以上、提出物、筆記試験、実技試験の3項目のすべての合格により単位は認定される。
	筆記試験	60%	
	実技試験	20%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①深井喜代子編 [2021 年] 「新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編 [2021 年] 「新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」 メヂカルフレンド社 ③稲葉佳江編他 [2011 年] 「看護ヘルスアセスメント」 メヂカルフレンド社 ④菱沼典子著 [2017 年] 「看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会 ⑤香川明夫監修 [2021 年] 「七訂食品成分表」 女子栄養大学出版会 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①中山和弘他 [2021 年] 「看護情報学(系統看護学講座 別巻) 第3版」 医学書院 ②太田勝正他編 [2023 年] 「エッセンシャル看護情報学 第5版」 医歯薬出版 		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業日程および演習要項を別途配付する。学習要項・演習要項を確認し、不備のないよう注意すること。 2. 本科目の学習内容は基礎看護実習1と連動性があるため、それを踏まえた学習進度としている。 3. 学習計画を立案して主体的に学習に取り組む。 4. 学習の一環として、演習準備を課す。 5. 記載の不備や記録内容に不足がある提出物は、再提出を求める場合がある。 6. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法等ガイダンス 活動と休息の看護①：人間にとっての活動と休息の意義、活動と休息における看護の役割など	事前：教科書①②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	宇野
2	活動と休息の看護②：〃	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	〃	〃

3	活動と休息の看護③： "	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	"
4	感染予防の基礎Ⅱ①：人間にとっての感染とは、看護における感染予防、感染に関わる危険因子、無菌法の概念など	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	中村
5	感染予防の基礎Ⅱ②： "	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	"
6	感染予防の基礎Ⅱ③(技術演習)：個人防護具と滅菌グローブの着脱、基本的な無菌操作	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・関口)
7	排泄の看護①：人間にとっての排泄の意義、排泄行動に援助が必要な人への心身への影響因子、排泄に関するアセスメントなど	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	石貫
8	排泄の看護②： "	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	"
9	排泄の看護③(技術演習)：排泄用具の扱い方、グリセリン浣腸	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷・関口)
10	排泄の看護④(技術演習)：排泄用具の扱い方、グリセリン浣腸	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"
11	排泄の看護⑤(技術演習)：一時的導尿	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"
12	排泄の看護⑥(技術演習)：一時的導尿	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"
13	温熱寒冷適用に関する看護①：温熱適用、寒冷適用の身体への影響、巻法の種類と適応、巻法に関する看護援助など	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	飯澤
14	温熱寒冷適用に関する看護②(技術演習)：温巻法、冷巻法	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤
15	清潔の看護①：人間にとっての身体の清潔の意義、身体の清潔を保つことの看護の役割など	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	中村
16	清潔の看護②： "	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	"
17	清潔の看護③： "	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	"	"
18	清潔の看護④(技術演習)：ベッドバス	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷)
19	清潔の看護⑤(技術演習)：ベッドバス	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"
20	清潔の看護⑥(技術演習)：イブニングケア(口腔ケア・足浴)	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"
21	清潔の看護⑦(技術演習)：シャンプー	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	"	"

22	清潔の看護⑧(技術演習)：シャンプー	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	〃	〃
23	栄養と食事の看護①：人間の生活における栄養と食事の意義、 栄養と食事における看護の役割など	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	宇野
24	栄養と食事の看護②：〃	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	〃	〃
25	栄養と食事の看護③：紙上事例のアセスメント	事前：教科書②の該当箇所を読む、学 習課題 事後：学習課題	講義・グル ープ学習	〃
26	栄養と食事の看護④(技術演習)：食事の援助	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中 村・石貫・ 飯澤・(佐 藤・関口)
27	酸素化の看護Ⅱ①：酸素化に関するアセスメント、酸素化が 阻害された対象者への看護援助(酸素吸入療法、一時的吸引 法)	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：学習課題	講義	石貫
28	酸素化の看護Ⅱ②(技術演習)：酸素吸入療法、一時的吸引法 (経鼻・経口)	事前：演習事前課題、演習準備 事後：演習事後課題	演習	宇野・中 村・石貫・ 飯澤・(畑 谷・関口)
29	看護における情報管理①：医療における情報、看護における 情報	事前：提示された事前課題 事後：提示された事後課題	講義	堀口
30	看護における情報管理②：情報の取り扱い、看護記録、遠隔 看護	事前：提示された事前課題 事後：提示された事後課題	〃	〃

授業科目	基礎看護方法3	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、中村円、石貫智裕、飯澤良祐、(佐藤美智子)、(光島綾子)、(畑谷亜矢子)、(齋藤和美)、(関口咲)		
概要	本科目は2つの学習主題で構成する。1 点目は、診療および検査を受ける対象者への看護の役割を学び、与薬や採血に関する基本的な知識・技術を修得する。2 点目は、看護実践を個別的・系統的に行うための基本的考え方(クリティカルシンキング、リフレクション)と看護過程の基本について理解することをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の目的と診療時の看護者の役割を説明できる。 2. 薬物療法を受ける対象者への安全な与薬に関する看護方法について説明できる。 3. 与薬に関する基本的な看護技術を実施できる。 4. 検査に伴う看護者の役割を説明できる。 5. 静脈血採血に関する基本的な看護技術を実施できる。 6. 看護過程の意義と構成要素およびその概要を説明できる。 7. 看護診断の意義と構成要素、診断過程の概要を説明できる。 8. 紙上事例(模擬電子カルテ含む)に対するアセスメント、看護診断、目標、計画、実施および評価の基本を説明できる。 		
関連科目	基礎看護方法1・2・4、ヘルスアセスメント1・2、医療薬学、基礎看護実習1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	50%	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療および検査を受ける対象者への看護について <ul style="list-style-type: none"> ・演習記録等の提出物(10%)、筆記試験(35%)、実技試験(20%) ・上記それぞれについて6割以上を合格点とする。 2 看護過程について <ul style="list-style-type: none"> ・紙上事例に関連する提出物(20%)、筆記試験(15%) ・提出物に関しては、提出状況、内容の目標達成状況により評価する。
	実技試験	20%	
	提出物	30%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①深井喜代子編 [2021 年・3, 520 円] 「新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編 [2021 年・3, 520 円] 「新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」 メヂカルフレンド社 ③稲葉佳江他編 [2011 年・3, 850 円] 「看護ヘルスアセスメント」 メヂカルフレンド社 ④T・ヘザー・ハードマン, 上鶴重美訳 [2021 年・3, 520 円] 「NANDA-I 看護診断一定義と分類 2021-2023 (原著第 12 版)」医学書院 		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業日程および演習要項を別途配付する。事前に学習要項や演習要項を確認し、不備のないよう注意すること。 2. 学習の一環として、演習準備を課す。 3. 記載の不備や記録内容に不足がある提出物は、再提出を求める場合がある。 4. 学習計画を立案して主体的に学習に取り組む。 5. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の概要・目標、学習内容、学習方法 診療に関する看護者の役割と対象者の理解	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	講義	宇野
2	与薬と看護①：与薬に関する看護者の役割、与薬に関わる他職種との連携、薬物の生体への影響、薬効への影響因子、薬物の適用経路	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
3	与薬と看護②：処方箋と薬物指示、与薬の原則(6Rの原則)、与薬に関するアセスメント、与薬のプロセス、与薬事故に関わるヒューマンエラー、各種与薬法の原理・原則、実施時の	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃

	留意事項			
4	与薬と看護③(技術演習)：筋肉注射、皮下注射	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・光島・畑谷・関口)
5	与薬と看護④(技術演習)：筋肉内注射、皮下注射	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
6	与薬と看護⑤(技術演習)：経口与薬、直腸内与薬	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・光島・齋藤)
7	与薬と看護⑥(技術演習)：輸液の準備と管理	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・光島・齋藤・関口)
8	検査に伴う看護①：検査に伴う看護者の役割	事前：教科書②の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	講義	石貫
9	検査に伴う看護②(技術演習)：静脈血採血	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・光島)
10	検査に伴う看護③(技術演習)：静脈血採血	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
11	看護過程の基礎①：看護実践と看護過程、看護過程の構成要素	事前：紙上事例(模擬電子カルテ含)の課題 事後：事前課題に関する振り返り	講義	堀口
12	看護過程の基礎②：アセスメント	事前：紙上事例(模擬電子カルテ含)の課題 事後：事前課題に関する振り返り	〃	〃
13	看護過程の基礎③：看護診断、優先順位	事前：紙上事例(模擬電子カルテ含)の課題 事後：事前課題に関する振り返り	〃	〃
14	看護過程の基礎④：目標と期待される成果および計画	事前：紙上事例(模擬電子カルテ含)の課題 事後：事前課題に関する振り返り	〃	〃
15	看護過程の基礎⑤：実施と評価	事前：紙上事例(模擬電子カルテ含)の課題 事後：事前課題に関する振り返り	〃	〃

授業科目	基礎看護方法4	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	堀口雅美 (保健医療学研究棟 E309 号) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野智子、中村円、石貫智裕、飯澤良祐		
概要	本科目では基礎看護方法3で学習した看護過程の基礎知識をもとに、看護過程の6つの側面「アセスメント」「看護診断」「目標の設定」「計画」「実施」「評価」を紙上事例(模擬電子カルテを含む)を用いて展開する。個人学習とグループ学習、および発表会の学習過程を通して、対象者の健康上の課題を明らかにし、それらの解決に必要な実践過程の基礎を学ぶ。本科目では、これまでに修得した知識・技術・態度を統合しながら看護実践の過程を学習し、看護実践者として必要不可欠な論理的、倫理的な思考力と実践力の基盤を培う。		
到達目標	論理的な思考を活用しながら、健康障害のある対象者に対して個別的な看護実践を模擬的に行うことができる。 1) 健康障害のある対象者を身体的な側面及び心理・社会的な側面からとらえ、統合体として理解した内容を説明できる。さらに、その対象者の強みを説明できる。 2) 健康障害のある対象者について、看護診断を特定し、目標とそれを解決するために立案した看護援助を説明できる。 3) 健康障害のある対象者に対し、安全、安楽、自立を考慮した個別的な看護援助を模擬的に実践できる。 4) 健康障害のある対象者に対して行った模擬実践に関して評価した内容を説明できる。		
関連科目	基礎看護方法1~3, ヘルスアセスメント1, 基礎看護実習2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	<ul style="list-style-type: none"> 提出物と学習状況により評価し、いずれもが合格の場合に単位は認定される。 提出物は、事前・事後課題の提出状況とその内容を評価する。 学習状況はグループ学習時の発言状況、および発表会での参加状況の評価する。 提出物および学習状況の評価は、ルーブリック評価表に基づいて行う。 成績が60点未満の場合、再試験に相当する対応を1回に限り実施する(課題の再提出、口頭試問、筆記試験等)。
	学習状況	20%	
教科書	①T・ヘザー・ハードマン、上鶴重美訳 [最新版] 「NANDA-I 看護診断 定義と分類」 医学書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 本シラバスで示されている関連科目以外に、1年次に学習した内容、および2年次で学習している内容を活用することが求められる。 学習要項と配付資料を熟読する。 記載の不備や記録内容に不足がある提出物は、再提出を求める場合がある。 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにしておく。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 紙上事例(模擬電子カルテを含む)の看護過程の展開： アセスメント①(情報の整理、分析・解釈・判断)	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	講義 グループ 学習	堀口・宇 野・中村・ 石貫・飯澤
2	アセスメント②(情報の整理、分析・解釈・判断)	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	グループ 学習	〃
3	アセスメント③(統合)	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
4	看護診断①	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃

5	看護診断②	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	グループ 学習	堀口・宇 野・中村・ 石貫・飯澤
6	発表会①：アセスメント及び看護診断の学習成果発表	事前：発表会資料の作成 事後：演習事後課題	発表会	〃
7	目標の設定	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	グループ 学習	〃
8	計画の立案①	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
9	計画の立案②	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
10	発表会②：目標及び計画の立案の学習成果発表	事前：発表会資料の作成 事後：演習事後課題	発表会	〃
11	計画の修正	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	グループ 学習	〃
12	模擬実践の計画と練習	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
13	発表会③：実施(模擬実践)	事前：発表会資料の作成 事後：演習事後課題	発表会	〃
14	〃	事前：発表会資料の作成 事後：演習事後課題	〃	〃
15	評価	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	グループ 学習	〃

授業科目	ヘルスアセスメント1	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村円、石貫智裕、飯澤良祐、(佐藤美智子)、(畑谷亜矢子)、(関口咲)		
概要	看護職者が対象者の健康状態と日常生活との関連についてアセスメントすることは、看護実践における基本である。本科目では講義と演習を通して、看護職者として必要な基礎的知識・技術・態度を習得するとともに、看護学の立場から人への理解を深めることを目的としている。主な内容はヘルスアセスメントの概念、健康歴の聴取、全身の概観、バイタルサインズと身体各機能のアセスメントである。本科目は、各看護学専門領域におけるアセスメントに必要な基礎的学習として位置づけられる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの概念について説明できる。 ヘルスアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度について説明できる。 健康歴聴取の目的に沿って健康歴の聴取を実施できる。 看護におけるバイタルサインズの意義を踏まえて、バイタルサインズのアセスメントを実施できる。 身体各機能のアセスメント技術を実施できる。 看護の視点から、得られた情報の分析・解釈ができる。 		
関連科目	解剖学、生理学、基礎看護方法1、基礎看護方法2、ヘルスアセスメント2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	<ul style="list-style-type: none"> 提出物(20%)、筆記試験(60%)、実技試験(20%)の3項目より評価し、それらすべての合格により単位は認定される。 提出物は提出状況および内容の目標到達状況に基づき、60点以上を合格とする。 筆記試験は定期期末の結果に基づき、60点以上を合格とする。 実技試験は実技試験採点表(試験前に提示)に基づき、60点以上を合格とする。
	筆記試験	60%	
	実技試験	20%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 稲葉佳江他編著 [2011年・3,850円] 「看護ヘルスアセスメント」 メヂカルフレンド社 山内豊明 [2014年・1,980円] 「フィジカルアセスメントワークブック(身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる)」 医学書院 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 藤崎郁 [2019年・4,180円] 「フィジカルアセスメント完全ガイド」 学研 医療情報科学研究所編 [2019年・3,630円] 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア 福井次矢他日本語版監修 [2015年・9,900円] 「ベイツ診察法」 メディカル・サイエンス・インターナショナル 		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 授業日程および演習要項を別途配付する。事前に学習要項や演習要項を確認し、必要な準備をすること。 本科目の学習内容は基礎看護実習1と連動性があるため、それを踏まえた学習進度としている。 学習の一環として、演習準備を課す。 記載の不備や記録内容に不足がある提出物は、再提出を求める場合がある。 演習は事前・事後課題(ナーシング・スキル含む)に計画的に取り組む。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法 ヘルスアセスメントの概念(ヘルスアセスメントの定義と目的、構成要素)、身体アセスメントの目的と共通技術(視診、触診、打診、聴診、全身の概観)	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	講義	宇野
2	身体計測、筋・骨格系のアセスメント：計測、身体各部の視診・触診、関節可動域の測定など	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：事後学習課題	〃	〃
3	バイタルサインのアセスメント：バイタルサインの定義、看護における意義、体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメント	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：事後学習課題	〃	〃

4	バイタルサインのアセスメント：体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメントの実際-1	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	講義・演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・畑谷・関口)
5	バイタルサインのアセスメント：体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメントの実際-2	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	演習	〃
6	身体計測、筋・骨格系のアセスメント：計測、身体各部の視診・触診、関節可動域の測定など	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤)
7	神経系のアセスメント：精神状態、小脳機能、知覚神経、筋伸張反射の診査など	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	講義・演習	〃
8	HEENTのアセスメント：頭頸部、口腔、咽頭、眼、耳、鼻の視診・触診、視覚と聴覚機能の診査など	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
9	腹部のアセスメント：腹部の視診・聴診・打診・触診	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	〃	〃
10	肺・胸郭のアセスメント：胸郭および呼吸運動時の視診・触診、呼吸音の聴診など	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：事後学習課題	講義	石貫
11	肺・胸郭のアセスメント：胸郭および呼吸運動時の視診・触診、呼吸音の聴診など	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・関口)
12	心・血管系のアセスメント：循環状態の視診・触診、心臓5領域の視診・触診・聴診など	事前：教科書①の該当箇所を読む 事後：事後学習課題	講義	宇野
13	心・血管系のアセスメント：循環状態の視診・触診、心臓5領域の視診・触診・聴診など	事前：演習事前課題 事後：演習事後課題	演習	宇野・中村・石貫・飯澤・(佐藤・関口)
14	健康歴とインタビュー：健康歴の目的と構成要素、インタビューの基本的原則	事前：配付資料を読む 事後：事後学習課題	講義	宇野
15	健康歴とインタビュー：機能面からみた健康パターンに基づく健康歴の聴取	〃	講義・グループ学習	宇野・中村・石貫・飯澤

授業科目	ヘルスアセスメント2	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	原田由香、小川賢一		
概要	本科目では個人・家族単位での精神・心理社会的アセスメントについて講義と演習を通して学習する。個人の精神状態の視点、ならびに心理社会的アセスメントに必要な情報と理論を理解し、情報収集方法としての積極的傾聴について基本的態度を学ぶ。また、家族アセスメントについては、発達する家族、システムとしての家族、家族の対処機能について理解し、アセスメントに必要な情報と聴取の方法について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人を対象とした精神・心理社会的アセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度について説明できる。 2. 精神機能ならびに精神状態を表す用語を説明できる。 3. 心理社会的アセスメントの基礎となる発達課題、自己実現理論、ストレス理論を看護の事象と関連付けて説明できる。 4. 心理社会的情報を収集する方法としての積極的傾聴の基本態度を獲得できる。 5. 家族を単位としたアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度について説明できる。 6. 心理社会的側面に関連する健康パターンについて得られた情報の分析・解釈ができる。 		
関連科目	人間関係論、家族社会学、臨床心理学、精神看護学概論、精神看護方法、精神看護実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	提出物については、第1回、5回にミニ演習に関わる個人の提出物を求めます。学習の気づきを言葉で表現できているかを評価します。その他、第3回、4回目にはグループワーク演習の成果物の提出を求めます。多様な意見を検討できているかを評価します。
	試験	80%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①稲葉佳江 他 [2011 年] 「成人高齢者のためのヘルスアセスメント」 メヂカルフレンド社 ②T.ヘザー・ハードマン [2021 年] 「NANDA-I 看護診断定義と分類 2021-2023」 医学書院 ③出口禎子 [2022 年] 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①山崎あけみ、原礼子 [2021 年] 「家族看護学-19 の臨床場面と 8 つの実践例から考える 改訂第 3 版」 南江堂 ②出口禎子ら [2022 年] 「ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践」 メディカ出版 ③林奈美 著 [2009 年] 「実践力を高める家族アセスメント Part1-カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ-」 医歯薬出版株式会社 ④田中美恵子 [2015 年] 「精神看護学 第 2 版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」 医歯薬出版株式会社 		
履修上の留意点	1 コマの中に、講義、グループ学習やペアでの演習など組み入れています。途中からの参加は、他の人の学習に影響を及ぼすので授業の開始時間を厳守してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神・心理社会的アセスメントの目的・視点 精神状態のアセスメント(精神機能とその把握の方法)	事前：教科書を読む 事後：演習のまとめ	講義・演習	澤田、原田、小川
2	精神状態のアセスメント(精神状態と影響要因)	事前：教科書を読む 事後：演習のまとめ	〃	〃
3	心理社会的アセスメント(アセスメントに必要な情報)	事前：教科書を読み看護診断ハンドブックを持参する 事後：演習のまとめ	〃	〃
4	心理社会的アセスメント(アセスメントに必要な理論)	事前：看護診断ハンドブックの指示された箇所を読む 事後：演習のまとめ	〃	〃

5	アセスメントの方法としての積極的傾聴	事前：教科書を読む 事後：演習のまとめ	〃	澤田・原田・小川
6	家族の発達課題とジェノグラム	事前：ジェノグラムについて参考文献を読む 事後：演習のまとめ	講義・演習	澤田
7	家族システムとエコマップ	事前：エコマップについて参考図書を読む 事後：演習のまとめ	〃	〃
8	事例についてのアセスメント演習 まとめ	事前：ヘルスアセスメントの教科書を読む 事後：演習のまとめ	〃	〃

授業科目	看護倫理	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	保健医療の臨床において、看護職はますます中心的な役割を果たすようになり、その結果、様々な倫理的ジレンマに直面する機会が増えた。よりよい看護を実践するには、一人一人の看護職が高い倫理感を身に付ける必要がある。本科目では、看護倫理の背景、専門職の倫理、倫理原則、臨床で起こる倫理的問題へのアプローチ方法について学び、看護職に求められる社会的な役割と責任を考察することで看護倫理に関する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践と倫理に関する基本的な概念を説明できる。 2. 医療現場で遭遇する倫理的ジレンマについて説明できる。 3. 紙上事例を用いて、倫理的な問題を明らかにし、抽出された倫理的な問題を解決するための看護援助について考察することができる。 4. 看護職者の役割・責任について、看護倫理の視点から自分なりの意見を表明する。 5. よい看護を実現するための短期的・長期的な方略を提案する。 		
関連科目	倫理と哲学、看護学概論、基礎看護方法3、基礎看護方法4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	提出物：提出されたレポートの内容により評価する。
	グループ学習	20%	グループ学習：グループワークへの参加状況により評価する。
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①服部健司他 [2018] 「医療倫理学のABC(第4版)」メヂカルフレンド社 ②D・F・チャンプリス(浅野祐子訳) [2002] 「ケアの向こう側：看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾」日本看護協会出版会 ③日本看護協会編 [2022] 「看護者の基本的責務」日本看護協会出版会 ④厚生労働省身体拘束ゼロ作成推進会議 [2001] 「身体拘束ゼロへの手引き」厚生労働省 ⑤S・T・フライ他(片田範子他訳) [2010] 「看護実践の倫理(第3版)倫理的意思決定のためのガイド」日本看護協会出版会 ⑥小西恵美子編 [2021] 「看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ(第3版)」南江堂 		
履修上の留意点	グループワークを中心とするため、主体的参加が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	倫理とは何か：社会と倫理、倫理と道徳、倫理的思考、倫理と価値	事後：課題への取り組み	講義	秋原
2	看護倫理とは何か：看護実践の本質、看護実践における価値、看護者の倫理的責任	事前：授業内容について調べる 事後：課題への取り組み	講義・グループワーク	〃
3	看護実践と倫理：専門職と倫理綱領、看護倫理の重要概念	事前：授業内容について調べる 事後：授業の振り返り	〃	〃
4	様々な倫理的課題 生と死 安楽死 ターミナルケア、遺伝、貧困など	事前：授業内容について調べる 事後：課題への取り組み	〃	〃
5	看護ケアと倫理の課題 身体拘束、意思決定等	事前：授業内容について調べる 事後：課題への取り組み	〃	〃

6	看護ケアと倫理の課題 事例検討	事前：配布資料を読む 事後：課題への取り組み	グループ ワーク	〃
7	看護ケアと倫理の課題 事例検討(発表準備)	事前：発表準備 事後：課題への取り組み	〃	〃
8	発表会、まとめ	事前：発表準備 事後：レポート作成	発表	〃

授業科目	成人看護学概論	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学研究棟 E210 号) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(平間留美)、(高橋美香)、(村中沙織)、(小山智美)、(横山紀江)		
概要	成人期にある対象の看護を実践するために、成人のライフステージにおける身体的諸機能の変化、心理的・社会的発達課題やライフサイクルがもたらす健康障害の概要について「生活者」の視点を踏まえながら学習する。また、理論を活用して成人各期に特徴的な病態事例の看護展開方法について発達課題を視野に入れながら学習する。さらに成人の特徴や能力に応じたアプローチの必要性および健康の保持・増進・疾病予防の方法について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルから見た成人期の特徴について説明できる。 2. 成人各期の身体的諸機能の変化について説明できる。 3. 成人各期の心理・社会的な発達課題について説明できる。 4. 成人保健の動向と健康管理の方法について説明できる。 5. 主な職業性疾病の原因と対策について説明できる。 6. 成人期の健康問題の支援に向けた理論活用の方法について述べることができる。 		
関連科目	成人看護方法 1、成人看護方法 2、成人看護方法 3、成人看護方法 4、成人看護実習 1、成人看護実習 2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	95%	定期試験およびレポートの提出状況と記載内容で評価する。 レポート課題は講義開始時に提示する。
	レポート	5%	
教科書	①林 直子 [最新版] 「成人看護学概論」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 成人期の特性と成人看護① ・成人を取り巻く今日の状況と看護の役割	事後：配布資料の確認	講義	澄川
2	成人期の特性と成人看護② ・ライフサイクルからみた成人期各期の特徴と成人看護の役割 ・家族における成人の役割	事前：教科書 pp2-39 の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
3	成人期の特性と成人看護③ ・成人期の対象と健康問題(事例)	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	〃	(高橋)
4	成人期の特性と成人看護④ ・ライフサイクルからみた成人期各期の特徴と成人看護の役割 ・成人と生活の関連	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	〃	澄川
5	成人保健① ・生活習慣病の現状と原因	事前：教科書 pp47-55 の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
6	成人保健② ・成人期の健康状況 ・生活習慣病の原因	事前：生活習慣病の原因となる因子についてまとめる 事後：課題レポート作成	講義 演習	〃

7	成人保健③ ・生活習慣病への予防他	事前：自身が健康に気を付けている内容をまとめる 事後：グループワークのまとめ	〃	〃
8	成人保健④ ・ヘルスプロモーション、がん対策・認知症対策他 ・自殺予防のシステムと方法	事前：教科書 pp86-112 の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
9	成人各期の発達段階と健康問題① ・職業性疾病の原因と対策	事前：教科書 pp124-133 の確認 事後：配布資料の確認	講義	〃
10	成人各期の発達段階と健康問題② ・青年期：発達課題と健康問題の関連	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
11	成人各期の発達段階と健康問題③ ・壮年期：発達課題と健康問題の関連	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
12	成人各期の発達段階と健康問題③ ・向老期：発達課題と健康問題の関連	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	〃	〃
13	健康問題に対する援助方法① ・健康問題を持つ家族への援助	事前：配布資料の確認 事後：配布資料の確認	講義 演習	澄川 (平間)
14	健康問題に対する援助方法② ・専門職間の連携と協働、専門看護師・認定看護師の役割 ・チーム医療 ・まとめ	事前：教科書 pp304-309、318-327 の確認 事後：グループワークのまとめ	〃	澄川 (村中) (小山) (横山)
15	健康問題に対する援助方法③ ・成人期の健康問題支援に対する理論活用の意味 ・アンドラゴジー、自己効力、セルフケア理論などを用いた援助	事前：教科書 pp197-213 の確認 事後：グループワークのまとめ	〃	澄川

授業科目	成人看護方法1	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学部棟 E210 号) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口裕紀子、木村恵美子		
概要	成人期にある対象の健康状態に応じた看護を展開するための基本的な内容について学習する。健康問題に直面した対象の生活の再構築に向けたリハビリテーション看護の考え方や社会資源の活用方法について理解を深める。また、急性期(クリティカルケアが必要な時期を含む)、回復期、慢性期、ターミナル期にある対象への看護の特徴について、各期の特徴的な理論や多彩な看護の場、家族に対する支援の必要性などを視野に入れて学習する。さらに、健康問題の理解をもとに保健活動の方法について検討する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の特徴と役割について説明することができる。 2. 生活の再構築を支援するための理論・社会資源活用方法について考えることができる。 3. 急性期(クリティカルケアが必要な時期を含む)にある対象・家族の特徴と看護援助方法について説明することができる。 4. 回復期にある対象・家族の特徴と看護援助方法について説明することができる。 5. 慢性期にある対象・家族の特徴と看護援助方法について説明することができる。 6. 終末期にある対象・家族の特徴と看護援助方法について説明することができる。 7. 成人期の対象の健康問題を予防するための方法について考えることができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法2、成人看護方法3、成人看護方法4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト	10%	
	レポート	10%	
	筆記試験	80%	
教科書	①林 直子 他編 [最新版] 「成人看護学概論」 南江堂		
参考書	①鈴木 久美 他編 [最新版] 「成人看護学 慢性期看護」 南江堂 ②林 直子 他編 [最新版] 「成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護」 南江堂 ③奥宮 暁子 他編 [最新版] 「成人看護学⑤リハビリテーション看護」 メディカ出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	健康レベルと成人看護の役割 リハビリテーションの概念、リハビリテーション看護の考え方	事前：発達課題に関する諸理論を復習する 事後：リハビリテーションの概念について復習	講義・グループワーク	澄川
2	回復期にある対象・家族の特徴 ・障害の受容過程 ・事例検討	事前：事前配布資料(体験記)を読む 事後：居住地の社会資源活用方法について調べる	〃	〃
3	回復期にある対象・家族への看護 1) ・社会資源活用法 ・ICF モデルの活用 ・事例検討	事前：脊椎損傷レベルによる障害の程度について調べる 事後：発表準備	〃	〃
4	回復期にある対象・家族への看護 2) ・発表会、まとめ	事前：発表準備 事後：グループ学習のまとめ、レポート	講義・グループ	〃

		ト課題	ワーク・発表	
5	急性期にある対象・家族の特徴 ・侵襲による生体反応と回復過程 ・事例検討	事前：生体ホルモンについて復習する 事後：侵襲に対する生体反応について復習	講義・グループワーク	田口
6	急性期にある対象・家族への看護 1) ・急性期・クリティカル期にある対象・家族に基づいた看護援助 ・事例検討、まとめ	事前：ストレスの定義を調べる 事後：配布資料の確認	〃	〃
7	急性期にある対象・家族への看護 2) ・危機的な健康状態にある対象のケアに関連した理論の活用(危機理論) ・事例検討、まとめ	事前：危機の定義を調べる 事後：配布資料の確認、グループ学習のまとめ	〃	〃
8	慢性期にある対象・家族の特徴 ・慢性疾患とその治療が及ぼす影響 ・「病い」体験を理解する視座 ・事例検討	事前：糖代謝について復習 事後：レポート課題	〃	木村
9	慢性期にある対象・家族への看護 1) ・相互に影響しあう「生活」と慢性病 ・事例検討	事前：成人看護学概論で学んだ自己管理に関する理論の復習 事後：グループ学習まとめ	〃	〃
10	慢性期にある対象・家族への看護 2) ・慢性的な健康状態にある対象のケアに関連した理論の活用(病の軌跡モデル、保健信念モデル、変化ステージモデル) ・事例検討、まとめ	事前：ステロイドの薬理について復習 事後：レポート課題	〃	〃
11	終末期にある対象・家族の特徴 ・がん患者を中心としたターミナルケアの現状 ・終末期にある患者・家族の心理過程 ・事例検討	事前：わが国のがん対策について調べる 事後：配布資料の確認	〃	〃
12	終末期にある対象・家族への看護 1) ・身体的特徴 ・トータルペイン ・死の受容過程 ・死をめぐる倫理的課題① ・事例検討	事前：終末期にある人の身体症状について調べる 事後：配布資料の確認	〃	〃
13	終末期にある対象・家族への看護 2) ・死をめぐる倫理的課題② ・グリーフケア ・事例検討、まとめ	事前：発表準備 事後：グループ学習のまとめ	〃	〃
14	成人の健康 1) ・成人の健康問題と保健活動① ・事例検討	事前：健康レベルについて復習 事後：発表準備	〃	澄川・田口・木村
15	成人の健康 2) ・成人の健康問題と保健活動② ・発表会、まとめ	事前：発表準備 事後：グループ学習のまとめ	講義・グループワーク・発表	〃

授業科目	成人看護方法2	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	田口裕紀子 (保健医療学研究棟 E304) e-mail : y. taguchi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	小木曾寛樹、(佐藤いづみ)、(北川美穂子)、(城内 尚)、(船水良太)		
概要	本教科では、生命維持が脅かされ日常生活の継続が困難となった急性期から回復期にある成人とその家族に対する看護について学習する。また、急性期から社会復帰を視野に入れたリハビリテーションの必要性・重要性と看護の視点、およびクリティカルな状況において死を迎えざるを得ない患者と家族への看護について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある成人の生理機能の維持・安定や心理的安定を図るための看護の視点について説明できる。 2. 周手術期にある成人に対する、周手術期各期の看護の視点とその方法について説明できる。 3. 急性期にある成人に対する、リハビリテーションの必要性とその方法について検討できる。 4. クリティカルケア看護の特徴とチーム医療の必要性について説明できる。 5. クリティカルな状況において死を迎える患者と家族に対する看護について説明できる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法1、成人看護方法4、成人看護実習1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト	14%	講義時の小テストと定期試験で評価する。
	筆記試験	86%	
教科書	①林 直子・佐藤まゆみ [最新刊] 「成人看護学急性期看護 I 概論・周手術期看護」 南江堂 ②竹内登美子 [最新刊] 「講義から学習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護」 医歯薬出版		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	周手術期看護 ・周手術期にある成人と家族の特徴 ・周手術期における看護の役割 ・手術・麻酔侵襲	事前：教科書 pp36-46 の確認	講義	田口
2	手術前看護① ・手術前患者のアセスメント	事前：教科書 pp48-66 の確認 事後：配付資料の確認	〃	〃
3	手術前看護② ・術前オリエンテーション ・意志決定を支える看護師の役割	事前：教科書 pp48-66 の確認 事後：配付資料の確認	〃	〃
4	手術中の看護 ・手術における看護師の役割 ・手術室における患者の看護 ・認定看護師の役割	事前：教科書 pp68-91 の確認 事後：配付資料の確認	〃	(佐藤)
5	手術後看護① ・術後合併症のアセスメントと看護	事前：教科書 pp94-135 の確認 事後：配布資料の確認	〃	田口

6	手術後看護② ・早期離床と日常生活の援助 ・心理的援助 ・退院に向けた援助	事前：教科書 pp135-146 の確認 事後：配付資料の確認	〃	田口 小木曾
7	事例で考える周手術期看護① ・大腸疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp344-363 の確認 事後：配布資料の確認	〃	(北川)
8	事例で考える周手術期看護② ・呼吸器疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp173-191 の確認 事後：配付資料の確認	〃	田口 小木曾
9	事例で考える周手術期看護③ ・運動器疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp285-302 の確認 事後：配布資料の確認	〃	田口
10	事例で考える周手術期看護④ ・心疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp192-210 事後：配布資料の確認	〃	田口 小木曾
11	事例で考える周手術期看護⑤ ・乳腺、婦人科疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp303-343 の確認 事後：配布資料の確認	〃	田口
12	事例で考える周手術期看護⑥ ・泌尿器疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp364-382 の確認 事後：配布資料の確認	〃	田口 小木曾
13	事例で考える周手術期看護⑦ ・脳、神経疾患の手術：アセスメントの視点、術式の特徴など	事前：教科書 pp149-172 の確認 事後：配布資料の確認	〃	田口
14	急性、重症患者の看護の場の特徴 ・多職種間の連携	事後：配布資料の確認	〃	(城内) (船水) 田口 小木曾
15	クリティカルケア看護の特徴 ・一般病棟におけるクリティカルケア ・ICU 看護、救急看護 ・外傷、熱傷患者の看護	事後：配布資料の確認	講義 グループ ワーク	田口 小木曾

授業科目	成人看護方法3	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学研究棟 E210 号) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木村恵美子、(佐藤さやか)		
概要	<p>本科目では、代表的な慢性疾患及び慢性的な病的状況を通して、病いとともに生活する個人とその家族への看護を学習する。個人の生活史が慢性疾患の発症・病状や管理の仕方に関連し、病状・治療・療養法が生活に大きく影響を及ぼすこと、またその際に個人が遭遇する課題の具体的な理解を試みる。この際の対象理解・看護支援に有効な理論を適用しながら、個人・家族のセルフケア能力に注目したマネジメント方法・看護支援を学び、実践的な看護を展開できる基礎力を身につけることをねらいとする。また、慢性疾患をもつ人の終末期に向けた支援の方法について検討する基礎知識を学習する。本科目は、一部、成人看護方法4と連動させながら進める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患の病相及びその治療・療養法が、成人期にある個人と家族の生活に及ぼす影響について説明できる。 2. 代表的な各疾患の病状において必要とされるセルフマネジメントについて説明できる。 3. 病いの早期から入院療養、退院後の生活において、個人がセルフケア能力を発揮できるよう、また能力を開発・発展できるように看護支援を説明できる。 4. 慢性疾患に対する近年の治療と治療を受ける人への看護を説明できる。 5. がん看護を通して全人的苦痛、及び緩和ケアについて理解する。 6. 慢性疾患のエンド・オブ・ライフケアについて考察する。 		
関連科目	疾病治療論1、人間発達学、栄養生化学、成人看護学概論、成人看護方法4、成人看護実習2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	85%	
	小テスト	10%	
	レポート	5%	
教科書	①鈴木久美他編 [最新版] 「成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人支える」 南江堂		
参考書	①安酸史子, 鈴木純恵, 吉田澄恵 [最新版] 「ナーシング・グラフィカ成人看護学③ セルフマネジメント」 メディカ出版 ②黒江ゆり子編 [最新版] 「新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護」 メヂカルフレンド社 ③長江弘子編 [2018 年] 「看護実践に生かすエンド・オブ・ライフケア 第2 版」 日本看護協会出版会 ④小松浩子代表 [2022] 「がん看護学 第3 版」 医学書院		
履修上の留意点	この科目で学習する内容は、既習の基礎的な科目(解剖学、生理学、栄養生化学、人間発達学、病理学、症候と病態、臨床薬理学、疾病治療論、ヘルスアセスメントなど)や保健福祉行政論を土台とし、また成人看護学概論及び成人看護方法1と強く関連している。このため、必要に応じて関連領域の要素を自ら確認・復習しながら本科目を学習するという主体的な大学生としての姿勢が必要である。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	成人看護方法3 オリエンテーション 慢性疾患を持つ成人・家族の特徴	事後: 配布資料確認、人間発達学復習、教科書学習課題	講義	澄川
2	慢性呼吸不全患者への看護	事前: 教科書該当単元を読む、肺の構造・機能の復習 事後: 呼吸不全のセルフマネジメントの復習	〃	〃
3	糖尿病患者への看護1 糖尿病合併症 食事療法	事前: 教科書該当単元を読む 事後: 食品交換表を指標にして単位計算をする	〃	〃

	運動療法			
4	糖尿病患者への看護2 薬物療法 血糖自己測定 シックデイ対策	事前：教科書該当単元を読む 事後：インスリンの種類について調べる	〃	〃
5	糖尿病患者への看護3 フットケア 口腔ケア	事前：教科書該当単元を読む 事後：重症化足病変のリスク分類に関する資料を読む	〃	〃
6	慢性腎臓病患者への看護	事前：教科書該当単元を読む、腎臓の構造・機能の復習 事後：配布資料確認、闘病記を読む	〃	木村
7	慢性心不全患者への看護	事前：教科書該当単元を読む 事後：塩分制限食を体験する	〃	澄川
8	慢性肝不全患者への看護	事前：教科書該当単元を読む 事後：配布資料の確認	〃	木村
9	神経難病患者への看護	事前：教科書該当単元を読む 事後：配布資料の確認	〃	澄川
10	がん看護1 がんの病態の特徴 がん治療の特徴と看護①	事前：教科書該当単元を読む 事後：配布資料の確認、化学療法の有害事象について復習	〃	木村
11	がん看護2 がん治療の特徴と看護② 症状へのケア がん治療後の看護	事前：教科書該当単元を読む 事後：配布資料の確認、放射線療法の有害事象の復習	〃	〃
12	がん看護3 全人的苦痛 痛みへのケア	事前：がん性疼痛について調べる 事後：配布資料の確認、鎮痛薬について復習	〃	〃
13	がん看護4 がん患者・家族への支援 事例検討	事前：教科書の概念解説箇所を読む 事後：配布資料、紹介概念の復習	〃	〃
14	エンド・オブ・ライフケア 病いの終末期までの行路 意思決定支援	事前：成人看護方法1ターミナルケア復習 事後：配布資料の確認	〃	(佐藤さ)
15	成人看護方法3まとめ セルフマネジメントモデルと事例検討	事前：第1回目の授業の復習 事後：配布資料、教科書の該当単元の復習	〃	木村・澄川

授業科目	成人看護方法4	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学部研究棟 E210 号室) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口裕紀子、木村恵美子、小木曾寛樹、(後藤幸恵)、(光島綾子)、(鈴木絵理)、(竹内美雪)、(松浦有沙)、(縮山卓也)		
概要	成人看護方法4は、健康障害により医療を必要とする成人とその家族に対し必要な看護実践を行うために、これまでに学習してきた内容を統合し応用しながら、成人看護領域における具体的な援助方法を学習する科目であり、成人看護過程と成人看護技術からなる。健康障害の経過の特殊性を理解し、個性に合わせた看護を系統的に思考し実践を創造していくための基礎的能力を身につけることをねらいとしている。本科目は成人看護方法2及び3と連動させながら進め、慢性的に「病い」と向かい合って症状をコントロールしながら生活する成人とその家族、および健康障害の急性期にあり生体機能の管理を強く必要とする成人とその家族に対する看護の技法を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病とともに生活する成人の模擬事例を通して、看護の情報を意識化し、理論の適用を試みながら慢性的経過や社会性からのアセスメントを学習する。 2. 健康障害の急性期にある成人の模擬事例について、侵襲に対する生体反応に注目した援助について考察し、アセスメントから実施・評価までの看護過程を紙上展開できる。 3. 立案した看護計画と関連させて患者の臨床状況に必要な看護技術の基礎を実施できる。 4. 成人看護状況で必要な臨床性の高い看護技術を安全・安楽・効果を考慮して実施できる。 		
関連科目	疾病治療論、人間発達学、栄養生化学、成人看護学概論、成人看護方法1、成人看護方法2、成人看護方法3、成人看護実習1、成人看護実習2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	①慢性看護過程レポート	40%	ルーブリック票を使用して評価し、①②③の全てが6割以上を合格とする。 また、事前事後学習状況、討論参加状況が評価に含まれる。
	②急性看護過程レポート	40%	
	③成人看護技術演習	20%	
教科書	①M. ゴードン(江川隆子監訳) [最新版] 「ゴードン博士の看護診断アセスメント」 照林社		
参考書	①T. ヘザー・ハードマン, 上鶴重美 原著編 [最新版] 「NANDA-I 看護診断 定義と分類」 医学書院 ②井上智子, 稲瀬直彦 [最新版] 「緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図」 医学書院 ③野崎真奈美, 林直子他 [最新版] 「看護学テキストNice 成人看護学 成人看護技術」 南江堂 ④鈴木久美他 [最新版] 「看護学テキストNice 成人看護学 慢性期看護」 南江堂		
履修上の留意点	本科目はディスカッションやロールプレイ、それまでの幾度かの演習と関連させた体験型学習で成り立っているため、欠席した場合、その単元の補習は困難である。また、本科目は後期の成人看護実習1・2に直結するため、理解・活用できるようにしておく必要がある。これらのことを踏まえ、学生は主体性を持って授業に臨むことが期待される。 なお、2種類の看護過程演習、および成人看護技術演習の各単元についての時間割の詳細は、授業の時に説明するので日時に注意すること。 レポートの提出期限は厳守のこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	科目ガイダンス 慢性看護過程①アセスメントの視点	事前：ゴードンのアセスメントパターンについて復習 事後：事例理解の確認	講義・演習	澄川・田口・木村・小木曾・(後藤)・(光島)・(鈴木)・(竹内)・(松浦)

2	慢性看護過程②事例の病態・事例について課題別グループ学習	事前：病態・検査・治療について学習 事後：課題別グループ学習まとめ	〃	澄川・木村・(後藤)・(光島)・(鈴木)・(竹内)・(松浦)
3	慢性看護過程③「生活史」の視点を含めた事例理解、「対象者の基礎情報」、「フェイスシート」の記載	事前：左記の記載 事後：左記の追加・修正	〃	〃
4	慢性看護過程④アセスメント「健康知覚-健康管理パターン」、理論、概念の活用について検討	事前：「健康知覚-健康管理パターン」記載 事後：上記修正	〃	〃
5	慢性看護過程⑤「模擬患者へのインタビュー」	事前：情報収集内容をまとめる 事後：インタビューで得た情報をアセスメントに追加	〃	〃
6	慢性看護過程⑥アセスメント「栄養-代謝パターン」	事前：「栄養-代謝パターン」記載 事後：上記修正	〃	〃
7	慢性看護過程⑦アセスメント「活動-運動パターン」	事前：「活動-運動パターン」記載 事後：上記修正	〃	〃
8	慢性看護過程⑧アセスメント「自己知覚-自己概念パターン」「価値・信念パターン」	事前：「自己知覚-自己概念パターン」「価値-信念パターン」記載 事後：上記修正	〃	〃
9	慢性看護過程⑨統合(看護関連図、健康課題明確化、優先順位検討、全体目標)	事前：左記記載 事後：上記修正	〃	〃
10	慢性看護過程⑩発表・講評準備	事前：発表・講評資料グループ資料準備 事後：発表・講評資料グループ提出	〃	〃
11	慢性看護過程⑪発表・講評	事前：発表・講評資料グループ提出 事後：個人記録修正	〃	〃
12	慢性看護過程⑫発表・講評・まとめ	事前：発表・講評資料グループ提出 事後：個人記録提出	〃	〃
13	慢性看護過程⑬血糖自己測定演習・事例場面に基づいたロールプレイ	事前：ナースングスキルによる自己学習 事後：レポート	演習	〃
14	慢性看護過程⑭フットケア演習・事例場面に基づいたロールプレイ	事前：ナースングスキルによる自己学習 事後：レポート	〃	〃
15	急性期看護過程①： ・オリエンテーション、アセスメントの視点、記録用紙について、事例紹介、病態・術式の理解 ・「フェイスシート」「対象者の基礎情報」の記載	事前：ゴードンのアセスメントパターンについて復習 事後：病態・術式の復習、「フェイスシート」「対象者の基礎情報」の追加・修正	講義・演習	田口・小木曾・(後藤)・(光島)・(鈴木)・(竹内)・(松浦)
16	急性期看護過程②：周手術期看護技術演習(術前看護、術後の離床)	事前：事例の確認 事後：左記演習の復習	演習	〃
17	急性期看護過程③：「健康知覚-健康管理パターン」のアセスメント・ラウンド-ロビンによる対象理解	事前：個人による課題学習 事後：「健康知覚-健康管理パターン」	講義・演習	〃

		の記載修正		
18	急性期看護過程④：「活動-運動パターン」の課題別アセスメント	事前：個人による課題学習 事後：「活動・運動パターン」の記載	〃	〃
19	急性期看護過程⑤：「活動-運動パターン」のアセスメント	事前：課題別アセスメントの確認 事後：「活動-運動パターン」の記載修正	〃	〃
20	急性期看護過程⑥：「栄養-代謝パターン」の課題別アセスメント	事前：個人による課題学習 事後：「栄養-代謝パターン」の記載	〃	〃
21	急性期看護過程⑦：「栄養-代謝パターン」のアセスメント	事前：課題別アセスメントの確認 事後：「栄養-代謝パターン」の記載修正	〃	〃
22	急性期看護過程⑧：「排泄パターン」のアセスメント	事前：個人による課題学習 事後：「排泄パターン」の記載	〃	〃
23	急性期看護過程⑨：統合	事前：関連図、健康課題、目標の記載 事後：上記の記載修正	〃	〃
24	急性期看護過程⑩：アセスメントのまとめ、その他の健康課題の検討	事前：アセスメント記録の整理 事後：アセスメント記録の修正	〃	〃
25	急性期看護過程⑪：看護計画、術後観察用紙の記載	事前：看護計画記載、術後観察用紙の確認 事後：看護計画の記載修正、術後観察用紙の記載	〃	〃
26	急性期看護過程⑫：行動計画表	事前：行動計画表の確認 事後：記載した行動計画表の確認・修正	〃	〃
27	急性期看護過程⑬： ・周手術期看護技術演習(術直後) ・手術後の看護支援に関するデモンストレーション(術後1日目) ・SOAP 記録	事前：術後観察用紙の記載確認、ナーシングスキルによる自己学習 事後：演習で修正・確認した内容のまとめ、SOAP 記録の記載	演習	田口・小木曾・(後藤)・(光島)・(鈴木)・(竹内)・(松浦)・(館山)
28	急性期看護過程⑭：指定課題のグループワーク、発表	事前：発表に向けて記録物をまとめる 事後：発表内容のまとめ	講義・演習	〃
29	気管吸引演習・事例場面に基づいたロールプレイ	事前：ナーシングスキルによる自己学習 事後：レポート	〃	澄川・田口・木村・小木曾・(後藤)・(光島)・(鈴木)・(竹内)・(松浦)
30	エンド・オブ・ライフケア演習・事例場面に基づいたロールプレイ	事前：ナーシングスキルによる自己学習 事後：レポート	〃	〃

授業科目	老年看護学概論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美		
概要	本科目では、老年看護学の基本的な考え方および加齢に伴う心身の変化と生活の特徴、わが国の少子高齢化と保健医療福祉政策の動向について学ぶ。具体的には、高齢者疑似体験、高齢者へのインタビューや観察、グループ学習などの学生の主体的な学習活動をとらして高齢者への理解を深めるとともに、高齢社会における看護の役割について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の発達課題の特徴や加齢に伴う心身の変化について説明できる。 2. 高齢者の生活や健康課題の特徴を説明できる。 3. 少子高齢化と保健医療福祉政策の変遷について説明できる。 4. 高齢者をとりまく家族・地域・社会的状況と健康生活を支えるケアシステムを説明できる。 5. 高齢者の生活機能を維持・向上するための看護の役割について説明できる。 		
関連科目	疾病治療論 4、老年看護方法、老年看護実習 1・2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	グループ学習	20%	グループ学習：グループワークへの貢献、発表・討論への参加態度 提出物：高齢者疑似体験の事前・事後レポート (10%)、ライフストーリーレポート (10%)。 提出物、定期試験それぞれについて 6 割に満たない場合は、再試験または課題の再提出を課す。
	提出物	20%	
	定期試験	60%	
教科書	①北川公子 [最新版] 「系統看護学講座 専門 老年看護学」 医学書院		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①内閣府編 [最新版] 「高齢社会白書」 印刷通販 ②野村豊子ほか編 [2022] 「ケアの現場・地域で活用できる回想法実践事例集：つながりの場をつくる 47 の取り組み」 中央法規 ③「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」作成委員会 [2022] 「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」 新興医学出版 		
履修上の留意点	ガイダンス時に配付する学習ガイドブックを活用し、計画的、主体的に学習に取り組むことを期待する。学習テーマに応じて詳細な学習要項を別途、配付する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス：本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項 高齢社会と社会保障：少子高齢化と保健医療福祉政策の動向・将来像 高齢者疑似体験ガイダンス	事後：教科書の指定頁の復習	講義	長谷川
2	高齢者の理解 1：高齢者疑似体験	事前：事前課題の提出 事後：体験後レポートの提出	演習	木島・長谷川
3	高齢者の理解 1：高齢者疑似体験のまとめ 高齢者の理解 2：加齢に伴う身体的・心理的变化の特徴①	事前：EVO の視聴、教科書の指定頁の予習 事後：グループ学習資料の提出	グループ学習	木島・長谷川
4	高齢者の理解 2：加齢に伴う身体的・心理的变化の特徴②(グループ発表・討論) 高齢者の理解 3：高齢者の健康の特徴	事後：教科書の指定頁の復習	グループ学習・講義	木島・長谷川
5	高齢者の理解 4：高齢者の生活の特徴①	事前：事前課題の提出 事後：グループ発表資料の提出	〃	長谷川

6	高齢者の理解4：高齢者の生活の特徴②(グループ発表・討論) 高齢者の理解5：高齢者の生活史① ライフストーリー・インタビューガイダンス	事前：発表資料を読む 事後：講義資料の復習	〃	〃
7	高齢者の理解5：高齢者の生活史②ライフストーリー・インタビューレポートの共有(グループワーク、発表・討論)	事前：ライフストーリーインタビューの課題に取り組みレポート提出 事後：講義・グループ学習全体の復習	グループ 学習	〃
8	高齢者の理解6：高齢者介護の動向 老年看護の目標と役割 科目のまとめ	事後：教科書の指定頁の復習	講義	〃

授業科目	老年看護方法	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、(中川真奈美)、(畠山誠)、(川村聡美)他		
概要	本科目では、高齢者の加齢変化や老年期に多い疾病や症候について学ぶとともに、これらが高齢者の生活にどのように影響しているのかを考える。講義と看護過程演習とを連動させながら進めることで、健康課題をもつ高齢者とその家族を支える看護への理解を深める。また老年看護において重要となる生活援助技術について高齢者の心身の状況をふまえ、自立にむけた看護援助の具体的な方法について学習する。さらに高齢者ケアにおける倫理的課題について、自己の考えを深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多い疾病や症候の病態、治療・看護の概要を説明できる。 2. 健康課題をもつ高齢者とその家族の生活を支える看護を実践するための思考過程を説明できる。 3. 紙上事例の高齢者の身体機能に応じた日常生活の援助技術を原理・原則に基づき実施できる。 4. 治療・療養の場における高齢者とその家族への看護の役割を説明できる。 5. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考察し、意見を述べることができる。 		
関連科目	看護倫理、疾病治療論 4、老年看護学概論、老年看護実習 1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	看護過程演習	30%	看護過程演習・看護技術演習：事前課題の提出状況、事後課題の提出状況と内容、演習への取り組み態度を評価する。看護過程演習はルーブリック評価表を用いて評価する。 各演習、筆記試験それぞれ 6 割に満たない場合は、再試験または課題の再提出を課す。
	看護技術演習	10%	
	筆記試験	60%	
教科書	①北川公子ほか [最新版] 「系統看護学講座 専門 老年看護学(e テキスト)」 医学書院		
参考書	①鶴若麻理 [2023 年] 「認知症ケアと日常倫理」 日本看護協会出版会 ②萩野 浩, 鈴木 みずえ [2023 年] 「ポイントがひと目でわかってどこでもできる転倒・転落予防実践メソッド」 じほう ③任 和子 [2023 年] 「看護過程：個別性をふまえたアセスメントができる」 照林社 ④内田陽子 [2022 年] 「認知症 plus 行動・心理症状のケア」 日本看護協会出版会		
履修上の留意点	ガイダンス時に配付する学習ガイドブックを活用し、計画的、主体的に学習を進める。 看護過程演習は関連講義と連動して進める。各講義内容と看護過程ワークブックを活かして演習課題に取り組み、指定された期日に提出する。 演習は別途、詳細な演習要項を配付する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 高齢者の健康アセスメントと看護 1. 老年看護における看護過程の概説①	事後：看護過程について復習	講義	長谷川
2	高齢者の健康アセスメントと看護 1. 老年看護における看護過程の概説②事例の説明と活用法 看護過程演習オリエンテーション	事後：配付資料を読み、事例の疾患・治療について復習	〃	〃
3	高齢者の健康アセスメントと看護 2. 健康知覚－健康管理パターン	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	講義・演習	〃
4	高齢者の健康アセスメントと看護 3. 栄養－代謝パターン	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	木島
5	高齢者の健康アセスメントと看護 4. 排泄パターン	事前：事例のアセスメント、おむつ体験レポート	〃	長谷川

		事後：アセスメントを修正し提出		
6	高齢者の健康アセスメントと看護 5. 活動－運動パターン	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	木島
7	高齢者の健康アセスメントと看護 6. 睡眠－休息パターン	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	長谷川
8	高齢者の健康アセスメントと看護 7. 認知－知覚パターン	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	木島
9	高齢者の健康アセスメントと看護 8. 心理・社会的側面のアセスメント	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	〃
10	高齢者の健康アセスメントと看護 9. アセスメントの統合・看護計画	事前：事例のアセスメント 事後：アセスメントを修正し提出	〃	長谷川
11	健康障害をもつ高齢者の看護 1. 嚥下障害	事前：高齢者の摂食・嚥下機能の復習 事後：事例の嚥下機能のアセスメント	講義	木島
12	健康障害をもつ高齢者の看護 2. 褥瘡・皮膚障害	事前：皮膚の加齢変化の復習 事後：事例の褥瘡リスクのアセスメント	〃	(畠山)
13	健康障害をもつ高齢者の看護 3. 排泄障害	事前：排泄機能の加齢変化の復習 事後：事例の排泄機能のアセスメント	〃	(畠山)
14	健康障害をもつ高齢者の看護 4. 転倒・廃用症候群	事前：運動機能の加齢変化の復習 事後：事例の転倒リスクのアセスメント	〃	木島
15	健康障害をもつ高齢者の看護 5. 感染症	事前：加齢変化の復習 事後：事例の感染リスクのアセスメント	〃	木島
16	健康障害をもつ高齢者の看護 6. 認知症	事前：認知機能の加齢変化の復習 事後：事例の認知機能のアセスメント	〃	(川村)
17	治療・療養の場における高齢者看護 1. 診断・検査を受ける高齢者の看護 治療・療養の場における高齢者看護 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護	事前：薬理学の関連内容の復習 事後：事例の健康管理のアセスメント	〃	木島
18	治療・療養の場における高齢者看護 3. 外科的治療を受ける高齢者の看護	事前：成人の周術期看護の復習 事後：教科書指定頁の復習	〃	長谷川
19	治療・療養の場における高齢者看護 4. 高齢者介護施設の特徴と看護の役割	事前：介護保険制度の復習 事後：教科書指定頁の復習	〃	(中川)
20	治療・療養の場における高齢者看護 5. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	事前：教科書指定頁の予習 事後：教科書指定頁の復習	〃	長谷川
21	高齢者ケアの倫理 1. 高齢者ケアにおける倫理的課題と看護の役割	事前：倫理原則の復習	〃	〃
22	高齢者ケアの倫理 2. 高齢者ケアにおける倫理場面の事例検討	事後：教科書指定頁の復習	演習	長谷川・木島
23 24 25	看護過程演習グループワーク 1. 事例のアセスメント・統合・健康課題の抽出①～③	事前：提出したアセスメント、統合を読み疑問点を明確にする 事後：事例の全体像・健康課題の修正	〃	長谷川・木島他
26 27	看護過程演習グループワーク 2. 看護計画の立案①～②	事前：事例の看護計画を立案 事後：事例の看護計画を修正し提出	〃	〃
28 29	高齢者の生活援助技術演習(排泄介助・摘便など)①～②	事前：事例の援助方法の立案 事後：技術演習の自己評価を提出	〃	木島・長谷川

30	看護過程演習のまとめ(実施・評価)	事前：看護過程ワークブックの実施・ 評価を読む 事後：看護過程の復習	講義・演習	長谷川
----	-------------------	--	-------	-----

授業科目	小児看護学概論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑久江、浅利剛史、澤田いずみ		
概要	本科目は小児看護における主要な概念である「小児」「家族」「健康」「成長」「発達」「環境」「社会」について学び、その看護の目的・方法について検討する。主な内容は「小児看護の主要な概念」「小児の人権」「小児と家族」「小児を取り巻く環境と政策・法律」「小児の成長と発達」である。学習主題ごとにグループを主体としたミニ演習が計画されており、学生は学んだ知識をその都度、活用しながら学習を進めていく。		
到達目標	1. 小児看護における主要な概念を説明できる。 2. 小児の成長と発達を促進する看護方法について説明できる。 3. 健康的な小児の生活習慣について説明できる。 4. 小児と家族を中心とする看護の特徴について説明できる。		
関連科目	小児看護方法、小児看護実習、疾病治療論 3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	定期試験	80%	学習態度：グループワークへの参加状況、
	観察レポート	8%	観察レポート：演習前の規定日時までに対面もしくは動画を通じて乳
	離乳食レポート	8%	幼児の成長発達の特徴、保護者・家族等との関係、子育ての様子につ
	学習態度	4%	いて規定文字数にまとめる、 離乳食レポート：演習前後の規定日時までに調乳・授乳方法、発達に 合わせた離乳食作り、与え方等について規定様式にまとめる
教科書	①二宮啓子 [最新版] 「小児看護学Ⅰ 改訂第4版」 南江堂 ②今野美紀 [最新版] 「小児看護学Ⅱ 改訂第4版」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	学習要項、演習要項を確認し、演習には積極的に参加すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項、課題の提示(0～6 歳児を観察しレポートを作成する) 対象、小児看護の歴史、役割、小児の権利の擁護、今日の課題	事前：児童の権利に関する条約の内容確認(外務省、ユニセフ HP 閲覧、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ) 事後：授業内容の振り返り	講義	今野
2	成長発達の特徴(身体、認知、情緒、社会)、評価方法	事前：教科書を読む(小児看護学Ⅰ) 事後：授業内容の振り返り	〃	田畑
3	家族の機能と構造、システムとしての家族、小児と家族中心のケア	事前：教科書を読む(小児看護学Ⅰ) 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
4	小児に活用できる社会資源(乳幼児健診、利用可能なサービス他)	事前：札幌市 HP より、母子保健に関する情報内容の確認、教科書(小児看護学Ⅰ)を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	今野
5	児童虐待と対策	事前：教科書を読む(小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ) 事後：授業内容の振り返り	〃	澤田
6	小児の成長・発達に関するグループワーク オリエンテーション時に提示した課題のレポートを持参して	事前：教科書(小児看護学Ⅰ)を読む、乳幼児観察と保護者インタビューを	演習	今野・ 田畑・浅利

	ディスカッションを行う(子育て、成長発達、家族関係、他)	し、レポートの作成 事後：授業内容の振り返り		
7	小児の生活習慣(栄養・排泄・睡眠・清潔・運動など)の特徴、影響要因、生体への影響	事前：教科書(小児看護学Ⅰ)を読む 事後：授業内容の振り返り	講義	浅利
8	調乳方法・発達に合わせた離乳食の調理形態(準備・後片付け)	事前：演習要項の課題への取組み、教科書(小児看護学Ⅰ)を読む 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・ 今野・田畑

授業科目	小児看護方法	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、澤田 いずみ、竹内 彩弥香、(三上 孝洋)、(篠嶋 滯)、(山田 茜)、(伊織 光恵)、(能登 奈々枝)、(寺石 千穂)		
概要	様々な健康レベル、発達段階にある小児と家族に対する看護の方法を学ぶ。具体的には、「発達段階による特徴」「小児の対症看護」「特定の状況における小児の看護」及び「疾患をもつ小児と家族の看護」といった内容がある。そして、小児の生活援助、アセスメント及び検査・処置介助のための看護技術については、適宜演習をしながら学びを深める。また、本科目では事例を活用し、グループメンバーと協議しながら小児と家族の状況に相応しい看護の方法を検討する。		
到達目標	1. 小児の発達段階に相応しい看護の要点を述べることができる。 2. 小児によく見られる症状と看護の要点を述べることができる。 3. 健康障害をもつ小児と家族への看護援助の方法について説明できる。 4. 健康障害をもつ小児と家族を対象に、看護過程を模倣的に展開できる。		
関連科目	疾病治療論 3、小児看護学概論、小児看護実習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	50%	学習態度が著しく不適切な場合は、総合評点より減点する。 提出物は、提出状況および内容から評価する。
	提出物	50%	
教科書	①二宮啓子 [最新版] 「小児看護学Ⅰ」 南江堂 ②今野美紀 [最新版] 「小児看護学Ⅱ」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	・ 事例検討、技術演習に対して主体的に取り組むこと。 ・ 技術演習時に使用する資料は事前配布するので、事前学習課題を済ませてから授業に臨むこと。		

実施回	内容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	新生児期・乳児期の看護；成長発達の特徴と看護の要点 幼児期の看護；成長発達の特徴と看護の要点	事前：教科書①新生児期の特徴と支援、乳児期の特徴と支援、幼児期の特徴と支援を読む 事後：授業内容の振り返り	講義	田畑
2	発達段階に沿った入院している小児の遊びの企画 乳児期・幼児期(GW)	事前：教科書①小児医療における子どもの遊び・学習を読む 事後：授業内容の振り返り	演習	田畑・他
3	学童期・思春期の看護；成長発達の特徴と看護の要点	事前：教科書①学童期の特徴と支援、思春期の特徴と支援を読む 事後：授業内容の振り返り	講義	浅利
4	思春期の小児のかかわり方(GW) 紙上事例からかかわり方を考える	事前：教科書①思春期の特徴と支援を読む 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・他
5	プレパレーションの概要(背景・歴史・方法・発達段階による病気の理解)	事前：教科書①プレパレーションを読む 事後：授業内容の振り返り	講義	浅利
6	小児への情報提供の実際(GW)	事前：教科書①プレパレーションを読む 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・他

7	小児に特有な症状(発熱、脱水、嘔吐など)に対する看護	事前：教科書①子どもに特徴的な症状と看護を読む 事後：授業内容の振り返り	講義	浅利
8	小児の症状アセスメント(GW)	事前：教科書①子どもに特徴的な症状と看護を読む 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・他
9	外来(トリアージ、隔離、親のエンパワーメント)、入院(なじみのない環境、学校を休むこと、家族との分離)における小児と家族の看護	事前：教科書②外来における子どもと家族の看護、入院における子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	講義	田畑
10	手術を要する小児と家族の看護 小児外科領域疾患の看護	事前：教科書②手術を受ける子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	(篠嶋)
11	喘息、アトピー、食物アレルギーをもつ小児と家族の看護	事前：教科書②食物アレルギーのある子どもと家族の看護、気管支喘息のある子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	浅利
12	心疾患をもつ小児と家族の看護 慢性疾患をもつ子どものキャリアオーバーへの援助	事前：教科書②先天性心疾患のある子どもと家族の看護、成人期に移行する慢性疾患をもつ子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	田畑
13	糖尿病をもつ小児と家族の看護	事前：教科書②1型糖尿病のある子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	今野
14	発達障害・精神疾患をもつ小児と家族の看護	事前：教科書①発達障害のある子どもと家族への支援、心の問題を抱える子どもと家族への支援を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	澤田
15	重症心身障害児と家族の看護	事前：教科書①身体障害のある子どもと家族への支援を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	(伊織)
16	腎疾患をもつ小児と家族の看護	事前：教科書②ネフローゼ症候群のある子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	浅利
17	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(1) バイタルサインズ測定	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・他
18	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(2) 心肺蘇生	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
19	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(3) 与薬、吸入・酸素療法	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
20	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(4) 安全・安楽の援助(転倒・転落)、保育器	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
21	小児がんの小児と家族の看護 終末期ケア	事前：教科書②急性リンパ性白血病のある子どもと家族の看護、脳腫瘍のある子どもと家族の看護、終末期にある子どもと家族の看護を読む 事後：授業内容の振り返り	〃	(三上)

22	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(5) 静脈内点滴	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	演習	浅利・他
23	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(6) 採血・採尿・シーネ固定	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
24	健康障害をもつ小児に適用する看護援助技術(7) 骨髄穿刺・腰椎穿刺	事前：演習要項の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
25	看護過程演習 (1) 事例の提示と健康課題の探索	事前：紙面事例の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	浅利・他
26	看護過程演習 (2) 看護情報・アセスメントの統合	事前：紙面事例の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
27	看護過程演習 (3) 看護計画の立案	事前：紙面事例の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
28	看護過程演習 (4) 具体策の洗練	事前：紙面事例の課題 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
29	看護過程演習 (5) 発表会	事前：発表準備 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
30	小児看護実践における倫理的課題と安全管理 (GW)	事前：これまでの講義・演習内容の復習 事後：授業内容の振り返り	〃	田畑・他

授業科目	母性看護学概論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310 号) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	前田 尚美、植木 瞳、(吉 裕子)、(佐藤 みはる)、(佐藤 あゆみ)		
概要	本科目では、母性とは何かを考え、母性をめぐるさまざまな定義を理解すると共に、女性の健康について国内外の母子保健の動向およびライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的な観点から幅広く理解し、女性のライフサイクルに関わる母性看護の特性と役割について学習する。また、リプロダクティブヘルスに関わる倫理的課題を通して、看護者の役割を考察する。		
到達目標	1. 母性看護の目的および役割・機能を説明できる。 2. 母子保健の動向および法制度を説明できる。 3. 女性のライフサイクル各期の健康課題と母性看護の役割について説明できる。 4. リプロダクティブヘルスにおける倫理・社会的問題を理解し、看護者の役割を記述できる。		
関連科目	ジェンダー論、倫理と哲学、疾病治療論3、母性看護方法		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	60%	筆記試験：6割以上で合格とする。 提出物：各授業回で学習主題に基づく課題がミニレポートとして提示される。ミニレポートの記載内容で評価する(5%×8回)
	提出物	40%	
教科書	①森 恵美 [最新版] 「系統看護学講座 母性看護学概論」 医学書院		
参考書	①有森直子 [2020 年] 「女性・家族に寄り添い健康を支えるウイメンズヘルスケアの追求」 医歯薬出版株式会社		
履修上の留意点	さまざまなライフサイクルにある女性の健康について、自分自身または身近な女性に置き換えて健康課題と看護者の役割を考えること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 母性の概念と歴史の変遷 母性看護の目的および役割・機能 母子保健の動向と健康施策	事前：教科書の p2-14、p64-8 を読む 事後：ミニレポートの記載	講義	正岡
2	女性のライフサイクル各期の健康問題とヘルスプロモーション	事前：教科書の第 5 章を読む 事後：ミニレポートの記載	”	前田
3	思春期における母性看護活動 ～小学生から高校生を対象とした性教育の実際～	事前：教科書の p195-216 を読む 事後：ミニレポートの記載	”	(吉)
4	更年期における母性看護活動 ～更年期女性を対象とした健康教育の実際～	事前：教科書の p227-250 を読む 事後：ミニレポートの記載	”	(佐藤みはる)
5	セクシャルリプロダクティブヘルス	事前：教科書の p27-31、p127-136、 p252-258 を読む 事後：ミニレポートの記載	”	植木
6	子育て上の困難を抱える親子・家族の現状、および 関連職種の連携と支援の実際	事前：教科書の p92-95、p149-154 を読む 事後：ミニレポートの記載	”	(佐藤あゆみ)
7	多様化する子育ての現状と看護職の役割	事前：配布資料を読む 事後：ミニレポートの記載	講義・ グループ 討議	植木

8	母性看護における生命倫理 ・事例や記事を通して母性看護領域における生命倫理に関わる現状と課題を理解し、看護者の役割について考える	事前：教科書のp49-54を読む 事後：ミニレポートの記載	講義	正岡
---	---	----------------------------------	----	----

授業科目	母性看護方法	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	植木瞳 (保健医療学研究棟 E303 号) e-mail : h-ueki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	正岡経子、前田尚美、中村彩希子、竹内彩弥香、(長橋由香里)、(石井あゆみ)、(山本佳奈)、(柿崎陽子)、他		
概要	本科目では、女性のライフサイクルの中でも特に周産期の母子と家族に焦点をあて、正常な経過にある母子と家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、新たな家族の形成に向けた看護に必要な基礎的知識・技術について学習する。主な内容は、「周産期看護の特性と看護者の役割」、「妊婦の特性と看護に必要な技術」、「産婦の特性と看護に必要な技術」、「褥婦の特性と看護に必要な技術」、「新生児の特性と看護に必要な技術」、「母子の看護過程」、「母子と家族の継続看護と社会資源」、「産褥期・子育て期女性の理解」、「周産期ハイリスクの看護」である。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦の身体的変化や心理社会的特徴と看護について説明できる。 2. 胎児の成長発達および新生児の胎外生活への適応過程を理解し、必要な看護について説明できる。 3. 対象者の安全・安楽に留意しながら妊産褥婦および新生児の観察・ケアに必要な看護技術を実施できる。 4. 母子の紙上事例を用いてアセスメントから計画立案の看護過程を展開できる。 5. 母子の継続看護を行うために必要な社会資源を学び、家族のもつ力を最大限に発揮するための看護について説明できる。 6. 子育て経験のある女性の体験談から、産褥・子育て期女性の心身・社会的状態を踏まえた看護について説明できる。 7. ハイリスク看護の実際を学び、正常から逸脱した母親とその家族に対する看護者の役割について説明できる。 		
関連科目	人間発達学1・2、疾病治療論3、母性看護学概論、母性看護実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	55%	小テスト：第2回、第4回、第8回、第12回、第13回終了時に実施する。配点は5%×5回分とし、25%の評価に該当する。 提出物：技術演習時に使用するワークシートの提出状況 学習態度：演習ならびにグループ学習における積極的な態度や討論参加状況
	小テスト	25%	
	提出物	10%	
	学習態度	10%	
教科書	①森 恵美他 [最新版] 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学[2]母性看護学各論」 医学書院		
参考書	①有森 直子 [最新版] 「母性看護学Ⅱ 周産期各論 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得」 医歯薬出版株式会社 ②堀内 成子 [最新版] 「母性看護 パーフェクト臨床実習ガイド」 照林社 ③平澤 美恵子他 [最新版] 「新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス[Web 動画付]」 インターメディカ ④佐世 正勝他 [最新版] 「ウェルネスからみた母性看護過程」 医学書院		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・開講時に学習要項と資料集を配布する。 ・講義スケジュールは、学部外講師の都合により変更する場合がある。 ・本科目は、後期の母性看護実習に直結する内容である。特に、技術演習を欠席した場合は、欠席した項目の演習内容について自己練習を行うこと。自己練習後、教員の技術チェックを受けなければ母性看護実習の履修は許可しない。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法 周産期女性と家族の特性、妊娠の生理、妊娠期の心理・社会的特性と変化、看護者の役割	事前：教科書の第1章、第3章A・Bを読む 事後：講義内容の復習	講義	植木・前田
2	妊娠による身体的変化、胎児の発育と生理 妊婦のケアに必要な観察・看護技術	事前：教科書の第3章C・Dを読む 事後：小テスト①、講義内容の復習	〃	前田
3	妊婦の看護技術：レオポルド腹部触診、妊婦疑似体験・妊婦健康診査の実際	事前：妊娠期の講義内容の復習とナーシングスキルの視聴 事後：演習内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	演習	植木・竹内・(石井)・(山本)

4	分娩経過と産婦の身体・心理・社会的変化、産痛のメカニズム、妊産婦と家族への看護 産婦のケアに必要な観察・看護技術	事前：教科書の第4章を読む 事後：小テスト②講義内容の復習	講義	前田
5	産婦の看護技術：陣痛の観察、分娩体位の体験と基本的ニーズ充足のケア、産痛緩和法、呼吸法、リラクセス法、胎盤の観察、分娩期のデモンストレーション	事前：分娩期の講義内容の復習 事後：演習内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	演習	植木・中村・竹内・(石井)・(山本)
6	産婦の看護技術：陣痛の観察、分娩体位の体験と基本的ニーズ充足のケア、産痛緩和法、呼吸法、リラクセス法、胎盤の観察、分娩期のデモンストレーション	事前：分娩期の講義内容の復習 事後：演習内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	〃	〃
7	新生児のアセスメントに必要な知識	事前：教科書の第5章を読む 事後：講義内容の復習、ナーシングスキルの視聴	講義	植木
8	新生児のケアに必要な観察・看護技術、日齢に応じたアセスメント	事前：教科書の第5章を読む 事後：小テスト③、講義内容の復習、ナーシングスキルの視聴	〃	〃
9	新生児の看護技術：バイタルサイン測定、全身観察、抱き方、沐浴・おむつ交換	事前・事後：該当箇所の講義内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	演習	植木・中村・竹内・(石井)・(山本)
10	新生児の看護技術：バイタルサイン測定、全身観察、抱き方、沐浴・おむつ交換	事前・事後：該当箇所の講義内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	〃	〃
11	褥婦の身体・心理・社会的変化	事前：教科書の第6章を読む 事後：講義内容の復習	講義	中村
12	褥婦のケアに必要な観察・看護技術	事前：教科書の第6章を読む 事後：小テスト④、講義内容の復習、ナーシングスキル視聴	〃	〃
13	施設退院後の継続看護、保健福祉機関との連携と社会資源の活用、子育てにかかわる育児用品	事前：教科書の第6章Dを読む、妊産褥婦の講義内容の復習 事後：小テスト⑤、講義内容の復習	〃	植木
14	母性看護領域における代替療法 母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ①	事前：資料集を読む 事後：各自課題を進める	〃	正岡・植木
15	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ②	事前・事後：事例課題を進める	グループ学習	植木・竹内・(山本)他
16	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ③	事前・事後：事例課題を進める	〃	〃
17	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ④	事前・事後：事例課題を進める	〃	〃
18	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ⑤	事前・事後：事例課題を進める	〃	〃
19	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ⑥	事前・事後：事例課題を進める	〃	〃
20	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ⑦	事前・事後：事例課題を進める	〃	〃
21	褥婦の看護技術：授乳と子宮復古の観察	事前・事後：該当箇所の講義内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	演習	植木・竹内・(石

				井)・(山本)
22	褥婦の看護技術：授乳と子宮復古の観察	事前・事後：該当箇所の講義内容の復習、ナーシングスキル、ビデオ学習	〃	〃
23	褥婦の看護技術：ハンドトリートメント、足浴、腰背部の温巻法	事前：該当箇所の講義内容の復習 事後：演習内容の復習	〃	〃
24	褥婦の看護技術：ハンドトリートメント、足浴、腰背部の温巻法	事前：該当箇所の講義内容の復習 事後：演習内容の復習	〃	〃
25	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ⑧	事前・事後：事例課題を進める	グループ学習	植木・竹内・(山本)他
26	母子の紙上事例を用いた看護過程の展開 ⑨	事前：事例課題を進める 事後：課題提出	〃	〃
27	母子の紙上事例を用いた看護過程の共有⑩	事前：発表準備 事後：発表資料の提出	〃	植木
28	子育て経験のある女性の体験談	事前：妊産褥婦の講義内容の復習 事後：レポート	講義・演習	(柿崎)・植木
29	ハイリスク妊産褥婦・新生児の看護の実際	事前：妊産褥婦の講義資料の復習 事後：講義内容の復習	講義	(長橋)
30	母性看護の知識・技術と実践のつながり	事前：これまでの講義・演習の復習 事後：自己の学習課題に取り組む	〃	植木

授業科目	精神看護学概論	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澤田いづみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	原田由香、小川賢一、(阿部正幸)、(齋藤香奈恵)、(村本好孝)、(稲垣麻里子)		
概要	本科目は、「精神の健康」という目に見えず、形として捉えにくく、それでいて誰にとっても身近で重要な概念について触れ、それを言葉にして語り、さまざまな人間関係の中に潜む精神看護の「精神の健康」に寄与する活動を理解することを目的とする。具体的には、精神医療の歴史、精神に障害のある人の処遇、精神に障害のある人の自己実現や人権擁護、家族の精神保健等について考察し、精神看護の目的と役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の目的と役割機能を説明できる。 2. 精神医療・看護に関わる歴史を説明できる。 3. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題を社会的状況と関連づけて説明することができる。 4. 精神看護の活動の場と役割について説明できる。 		
関連科目	ヘルスアセスメント2、疾病治療論4、精神看護方法、精神看護実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 参加態度：グループ討議における発言の状況、討議参加状況、報告態度など。 規定の出席日数を満たした者に対してレポート形式の筆記試験を行い、学習到達度を加味して総合的に評価する。
	参加態度	10%	
	レポート	90%	
教科書	①出口禎子 [2022] 「ナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを形成して学習する機会が多いので積極的に他の学生と関わり強調して学習を進めること。 ・開講日程・順番は適宜変更されることがある。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神的健康と精神看護	事前：ヘルスアセスメント2の復讐 事後：精神の健康についての再考	講義・演習	澤田・小川
2	ライフサイクルにおける発達課題とメンタルヘルスの危機1 出生から青年期におけるメンタルヘルス諸問題	事前：教科書該当部分の一読 事後：ライフサイクルにおける危機の復習	講義	原田
3	ライフサイクルにおける発達課題とメンタルヘルスの危機2 成人期・老年期におけるメンタルヘルス諸問題	事前：教科書該当部分の一読 事後：ライフサイクルにおける危機の復習	〃	原田
4	精神保健医療福祉の歴史とその変遷	事前：教科書該当部分の一読 事後：映画との関連を考える	〃	(阿部)
5	精神医療と看護 精神科病院における看護活動	事前：教科書該当部分を一読する 事後：看護の役割について再考	〃	(齋藤) 澤田・原田・小川
6	精神科リハビリテーションとリカバリー概念 地域生活を支える精神保健福祉制度	事前：教科書該当部分を一読する 事後：関連法律制度の整理	〃	(村本)
7	精神科リハビリテーションとリカバリー 当事者の語りとピアサポート	事前：教科書の該当部分の一読 事後：リカバリーについての再考	〃	小川・(稲垣)・澤田・原田

8	まとめ これからの精神看護を考える	事前：教科書該当部分を一読する 事後：精神看護について自己の考えを まとめる	演習	澤田・小川・原田
---	----------------------	--	----	----------

授業科目	精神看護方法	4 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	澤田いずみ、原田由香、小川賢一、石井貴男、仙石泰仁、池田望、(煤賀隆宏)、(田村美津子)、(木村直友)、(常盤野晴子)、(当事者未定)		
概要	精神看護方法では、精神看護を必要としている人々について、身体・心理・社会的側面から理解すること、そして看護援助に必要な知識および技術をその理論的背景から学習することを目的とする。精神科病院での治療場面および地域で生活している精神障がいをもつ人々とその家族を対象に援助関係を築き、看護するために必要な回復を支えるコミュニケーションおよび個性に応じた安全な治療を助けること、安心できる環境で生活するために環境整備を行うこと、それらを通して対象者のリカバリーを支えることを学ぶ。その中で、問題解決モデルとストレングスモデルを理解し、ストレングスに着目した看護過程を通じて対象者の日常生活を支えレジリエンスを引き出すこと、リカバリーを支えるための多職種や資源の活用とチーム連携での協働について理解することに力点を置いた学習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な精神障がいの特徴と環境が対象者の生活に及ぼす影響について説明できる。 2. 精神障がいをもつ人の回復を支えるコミュニケーションおよび治療的環境について説明できる。 3. 精神障がいをもつ人の苦勞、困難、ストレングス、レジリエンスに着目した看護援助について説明できる。 4. 精神障がいをもつ人の治療や回復を支えるプログラムについて説明できる。 5. 精神障がいをもつ人を支える地域資源および他職種との協働について説明できる。 6. 精神看護領域のアセスメントの特徴を理解し看護過程を説明できる。 7. 学習の課題について学生間で協力しながら学習を進めることができる。 		
関連科目	人間関係論、ヘルスアセスメント 2、疾病治療論 4、臨床心理学、精神看護学概論、精神看護実習、臨床看護コミュニケーション論		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 受講態度は、グループ学習の参加状況、看護過程の提出物から評価する。
	受講態度	20%	
	筆記試験	80%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①出口禎子ら [2022 年] 「ナースング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践」 メディカ出版 ②出口禎子ら [2022 年] 「ナースング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 ③T. ヘザー・ハードマン [2021 年] 「NANDA- I 看護診断定義と分類 2021-2023」 医学書院 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①田中美恵子編著 [2015] 「精神看護学-学生一患者ストーリーで綴る実習展開-第 2 版」 医歯薬出版株式会社 ②太田保之・上野武治編 [2014] 「学生のための精神医学 第 3 版」 医歯薬出版株式会社 ③T・ヘザー・ハードマン著 [2018] 「NANDA 看護診断 定義と分類 2018-2020 原著第 11 版」 医学書院 ④萱間真美著 [2016] 「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」 医学書院 ⑤宮本真巳著 [2019] 「改訂版 看護場面の再構成」 日本看護協会出版会 ⑥朝田隆、中島直、堀田英樹著 [2012] 「精神疾患の理解と精神科作業療法 第 2 版」 中央法規出版 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ形式で学習する機会が多いので積極的に他の学生と関わり共同で学習を進めること ・講義に引き続いてグループ学習を組み入れるので、2 コマ続けて出席すること ・開講日程・順番は適宜変更されることがある 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 治療環境としての精神科病院 精神保健福祉法 精神科における治療	事前：教科書第 2 部を読む 事後：学習内容のまとめ	講義	澤田
2	薬物療法と看護 薬物療法の実際と副作用	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	小川・澤田

	アドヒアランスとコンコーダンス			
3	統合失調症をもつ人の看護の実際 疾病の理解と治療	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	澤田
4	統合失調症をもつ人の看護の実際 事例による看護の展開	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	小川・澤田
5	気分障がいをもつ人の看護の実際 疾病の理解と治療	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	原田
6	気分障がいをもつ人の看護の実際 事例による看護展開	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
7	アディクション問題をもつ人の看護の実際 疾病の理解と治療 治療と看護における心理社会的アプローチ	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	(木村)
8	アディクション問題をもつ人の看護	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	講義・演習	〃
9	発達障がいをもつ人の理解と援助 障害の理解と支援	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	講義	仙石
10	発達障がいをもつ人への看護 事例の検討	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	仙石・澤田
11	精神科領域におけるリハビリテーションと看護 サイコセラピーとは 心理教育、SST、リカバリープログラム	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	澤田
12	不安性障害・ストレス関連障害をもつ人の看護 認知行動療法 トラウマインフォームドケア	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
13	精神科作業療法の実践 精神科作業療法におけるアセスメントと実践の基礎	事前：精神科作業療法に関連文献を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	池田
14	リカバリープログラムの体験 元気回復プラン WRAP の体験	事前：教科書該当箇所を読む 事後：体験のまとめ	〃	澤田・小川
15	精神科における自殺予防対策 発生予防と再発予防	事前：自殺対策について調べてくる 事後：学習内容のまとめ	〃	石井
16	精神科における多職種連携 1 総合病院における精神科リエゾンチームと多職種連携の実際	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	(煤賀)
17	精神科における多職種連携 2 単科精神病院における多職種連携 退院支援と訪問看護の実際	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	〃	(田村)
18	精神科における多職種連携 2 単科精神病院における多職種連携 退院支援と訪問看護の実際 事例検討	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	講義・演習	(田村)・澤田・原田・小川
19	面接技術 1 支援者マップを用いたインタビュー	事前：ストレングスモデルについて調べる 事後：学習内容のまとめ	〃	澤田
20	面接技術 2 ストレングスに着目したインタビュー 面接技術 3 援助関係とプロセスレコード	事前：プロセスレコードについての関連文献を読む	〃	〃

		事後：学習内容のまとめ		
21	精神障がいをもつ人を対象とした就労支援事業の実際	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	講義	(常盤野)
22	就労支援事業所の利用者との交流	事前：教科書該当箇所を読む 事後：学習内容のまとめ	演習	〃
23	精神科領域における看護過程の展開	事前：看護診断の関連パターンを読む 事後：学習内容のまとめ	講義・演習	澤田
24	アセスメントと看護診断の実際	事前：看護診断の関連パターンを読む 事後：学習内容のまとめ	〃	澤田・原田・小川
25	健康課題の特定、期待される成果の設定、計画立案	事前：看護診断の関連パターンを読む 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
26	計画の実施と評価	事前：看護診断の関連パターンを読む 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
27	実習ガイダンス(全体)	事前：病院についての関連情報を収集する 事後：実習目標を自分なりにまとめる	講義	〃
28	実習ガイダンス(病院別)	事前：病院についての関連情報を収集する 事後：実習目標を自分なりにまとめる	〃	〃
29	病院ガイダンス	事前：病院についての関連情報を収集する 事後：実習目標を自分なりにまとめる	演習	〃
30	病院ガイダンス	事前：病院についての関連情報を収集する 事後：実習目標を自分なりにまとめる	〃	〃

授業科目	在宅看護学概論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	青柳道子 (保健医療学研究棟 E107 号) e-mail : aoyanagi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	村川奨		
概要	在宅看護の概念を理解する。在宅看護に関する国内外における歴史を踏まえ、現在の社会的・時代的ニーズや実態について学び、在宅看護の意義および基本的な機能、役割を理解する。在宅看護の目標、活動と対象者の特性を理解し、在宅療養者や障がい者およびその家族の健康と生活、生活への支援、家族へのチームアプローチのあり方等、在宅における看護の基礎的知識について理解を深める。看護ならびに関係者との協働をととした在宅ケアにおける看護職の役割について学び、在宅看護における倫理ならびに法的責任、在宅看護が抱える問題と今度の課題について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の理念、歴史的変遷と今日の在宅看護をとりまく社会的背景を説明できる。 2. 在宅看護の目標、対象、活動の特性、活動の場の特性を説明できる。 3. 在宅療養者や障がい者およびその家族の健康と生活、生活支援のあり方について述べるができる。 4. 在宅療養者や障がい者およびその家族へのチームアプローチのあり方について述べるができる。 5. 在宅看護における倫理ならびに法的責任、在宅看護が抱える問題と今後の課題について述べるができる。 		
関連科目	在宅看護方法、保健福祉行政論、在宅看護実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	70%	提出物：グループワークの記録物(10%)、最終レポートの記載内容(60%)。筆記試験は講義内で実施する小テストで評価する。 参加態度はグループワークへの貢献度、発表・討議への参加度で評価する。
	筆記試験	20%	
	参加態度	10%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①和泉比佐子他 [最新版] 「地域・在宅看護学 改訂版 第一刷」 クオリティケア ②上田泉他 [最新版] 「在宅看護過程演習」 クオリティケア 		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	詳細な学習要項・グループ学習要領は別途配布する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	在宅看護の理念と歴史的変遷、ニーズと活動	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	講義	青柳
2	訪問看護サービスの制度と実際	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
3	在宅療養者のケアマネジメントとチームアプローチ	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
4	入退院支援における多職種連携	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
5	在宅療養者および家族の生活の特徴	事前：グループワークに向けた課題に取り組む。事後：グループ学習のまとめ	講義・グループ学習	青柳・村川
6	在宅療養者と家族への看護と多職種連携 1	事前：グループワークに向けた課題に取り組む。事後：グループ学習のまとめ	グループ学習	〃

		め		
7	在宅療養者と家族への看護と多職種連携 2	事後：グループ学習のまとめ	グループ 学習	〃
8	在宅看護における倫理、リスクマネジメント、今後の課題	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	講義	青柳

授業科目	在宅看護方法	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	青柳道子 (保健医療学研究棟 E107 号) e-mail : aoyanagi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	村川奨、阿部弥喜、(車谷香織)、(松木由理)、(佐々木雅彦)、(澤井友香)、(上田有希子)		
概要	在宅看護に関わる現状とニーズを理解し、在宅看護活動における基礎的知識、技術、態度について学習する。在宅看護活動における家庭訪問、面接の方法と技術、日常生活支援の方法と技術、主な疾患・症状の特徴と看護、医療依存度の高い療養者と家族の特徴をふまえた支援方法と技術、基本的な留意点を理解する。在宅における看護過程、在宅ケアシステム等について理解を深める。訪問場面のシミュレーションを通して、臨床判断力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に関わる現状と在宅看護に関わるニーズを説明できる。 2. 在宅看護に関わる支援方法と技術について理解し、信頼関係構築のための基本的な態度がとれる。 3. 在宅看護の特性に即した日常生活援助、主な疾患・症状の特徴、医療依存度の高い療養者と家族の特徴をふまえた支援方法と技術、基本的な留意点を述べることができる。 4. 在宅療養者の生活と健康に即した援助を、看護過程を適用して行なうことができる。 5. 在宅ケアに関わる機関・職種と看護職との連携について説明できる。 6. 在宅における安全管理について述べるができる。 7. 在宅における看護職の臨床判断の特徴と重要性を述べるができる。 		
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護実習、保健福祉行政論、地域看護学概論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、期末試験の解答状況により評価する。 ・参加態度は、演習の参加状況により評価する。 ・提出物は、提出状況及び内容により評価する。
	参加態度	20%	
	提出物	40%	
教科書	①和泉比佐子他 [最新版] 「地域・在宅看護学 改訂版 第1刷」 クオリティケア ②上田泉他 [最新版] 「在宅看護過程演習」 クオリティケア		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	詳細な学習要項・演習要領は別に配布する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス、在宅看護における援助方法・技術の特徴	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	講義	青柳
2	在宅看護の現状とニーズ	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	(車谷)
3	在宅看護における日常生活援助の実際 1 在宅療養を支える住まいと在宅ケア用品	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	青柳
4	在宅看護における日常生活援助の実際 2 在宅療養者の清潔の援助 在宅療養者の排泄の援助	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
5	在宅看護における医療的ケア 1 在宅薬物療法を受ける療養者への看護 在宅経管栄養法を受ける療養者への看護	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	村川

6	在宅看護における医療的ケア 2 在宅中心静脈栄養法を受ける療養者への看護 褥瘡予防とポジショニング	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
7	在宅看護における医療的ケア 3 在宅酸素療法を受ける療養者への看護 在宅人工呼吸療法を受ける療養者への看護 家族への看護	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	青柳
8	医療的ケアを受ける子ども・家族への在宅看護の実際	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	(松木)
9	精神疾患、慢性疾患を持つ在宅療養者・家族への看護の実際	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	(佐々木)
10	終末期の在宅療養者・家族への看護の実際	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	村川
11	在宅看護過程：在宅看護における看護過程の特徴 1	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	青柳
12	在宅看護過程：在宅看護における看護過程の特徴 2	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
13	在宅看護過程：アセスメント 1	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	グループ 学習	青柳・村 川・阿部
14	在宅看護過程：アセスメント 2	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
15	在宅看護過程：計画立案 1	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
16	在宅看護過程：計画立案 2	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
17	在宅看護過程：事例をもとに看護過程を展開、ロールプレイ の実施 1	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	演習	青柳・村 川・(澤 井)・(上 田)
18	在宅看護過程：事例をもとに看護過程を展開、ロールプレイ の実施 2	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
19	褥瘡予防とケア 1	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	青柳・村 川・(澤 井)・(上 田)・阿部
20	褥瘡予防とケア 2	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃

21	住まいと在宅ケア用品 1	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
22	住まいと在宅ケア用品 2	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
23	在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法 1	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	青柳・村川・阿部
24	在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法 2	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
25	在宅看護における臨床判断と実践 1	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	青柳・村川・(澤井)・(上田)
26	在宅看護における臨床判断と実践 2	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
27	在宅看護における臨床判断と実践 3	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
28	在宅看護における臨床判断と実践 4	事前：演習要項、配布資料を読む。事後：演習記録作成	〃	〃
29	在宅看護における臨床判断と実践 5	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃
30	在宅看護における臨床判断と実践 6 まとめ	事前：教科書の学習内容に該当する章を読む。事後：講義資料とノートの確認	〃	〃

授業科目	地域看護学概論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	平野美千代 (保健医療学研究棟 E104 号) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木亜砂子、深川周平		
概要	地域看護は人々の健康な暮らしを支援する看護として、疾病構造の変化とともに看護支援の内容や方法を変化させてきた。本科目は、地域看護の歴史の変遷を概観し、地域看護の定義や理念、地域看護活動の目的や地域看護活動の基盤となる関連法規や制度について学習する。市町村・保健所、産業、学校、在宅という地域看護活動の場とそれぞれの特徴を学習する。また、地域看護の活動方法の共通する特性と、地域看護の機能と役割について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の歴史や地域看護に関連する諸制度を理解し、地域看護の概念の変遷を述べることができる。 2. 地域看護の活動方法とその特性を述べるができる。 3. 地域住民に焦点をあてた行政看護、特定集団を対象にした産業看護、学校看護並びに、在宅療養者と家族に焦点をあてた在宅看護の概要について述べるができる。 4. 地域看護の機能と役割について述べるができる。 		
関連科目	健康管理論、保健福祉行政論、地域看護方法、地域看護実習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	定期試験	40%	定期試験(40%)、レポート記載内容(50%)、参加態度：グループ学習への参加状況(10%)
	レポート	50%	
	参加態度	10%	
教科書	①上野昌江他編 「公衆衛生看護学 第3版」 中央法規		
参考書	①麻原きよみ責任編集 [最新版] 「公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論」 医歯薬出版		
履修上の留意点	講義とグループ学習の統合により学習をすすめるため、欠席をしないこと。 グループ学習では、自分の意見をグループに提示し、グループメンバーの意見をよく聞いて、学習を深めること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 地域看護の歴史的概観、地域看護の定義、理念、目的、関連法規	事前：関連する学習内容の予習 事後：関連法規をまとめる	講義	平野
2	地域看護活動の対象と方法	事前：関連する学習内容の予習 事後：地域看護の対象と方法をまとめる	〃	〃
3	人々が暮らす地域の理解	事前：関連する学習内容の予習 事後：地域に関するレポート作成	〃	〃
4	学校看護の対象者と看護活動	事前：関連する学習内容の予習 事後：学校看護の対象と看護活動をまとめる	〃	〃
5	産業看護の対象者と看護活動	事前：関連する学習内容の予習 事後：産業看護の対象と看護活動をまとめる	〃	〃
6	市町村における行政看護の対象者と看護活動	事前：関連する学習内容の予習 事後：市町村における行政看護の対象と看護活動をまとめる	〃	深川
7	保健所における行政看護の対象者と看護活動	事前：関連する学習内容の予習 事後：保健所援助における行政看護の	〃	青木

		対象者と看護活動をまとめる		
8	地域特性と健康な生活	事前：3回目の授業のレポートの予習 事後：最終レポートの作成	グループ 学習	平野

授業科目	地域看護方法	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	平野美千代 (保健医療学研究科 E104) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木亜砂子、深川周平、村川奨、阿部弥喜、(佐藤郁絵)、(藤澤奈央)、(清水亜希子)、(向井由美枝)、(長谷川博子)		
概要	地域看護の目的を達成するための方法は、個人や家族の生活を支え、セルフケア能力の向上を図り、人々の主体的な問題解決能力を促進し、さらに地域の人々と協働して資源の開発や調整を行い、健康政策の形成を含めて環境の整備を図ることである。地域で生活する人々と家族の健康と暮らしを理解し、地域の人々や関係機関・関係職種との連携・協働、社会資源の活用、地域包括ケアシステム等についての知識を学ぶ。地域の健康課題を見出し、どのような方策で活動を展開するか、計画、実施、評価の一連の具体的な地域保健活動の展開について学習する。		
到達目標	1. 地域看護の目的と対象を述べることができる。 2. 地域看護活動の方法を知り、その特徴を述べることができる。 3. 地域で生活する人々の健康管理の方法について述べることができる。 4. 地域包括ケアシステムと看護職の役割について述べるができる。 5. 地域の健康課題を踏まえた活動の展開方法について述べるができる。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護実習、保健福祉行政論、在宅看護学概論、在宅看護方法		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	50%	筆記試験(50%)、演習記録・レポートの提出状況および内容(40%)、参加態度：グループ学習への参加状況(10%)
	レポート	40%	
	参加態度	10%	
教科書	①荒賀直子他編 [2022 年] 「公衆衛生看護学. JP 第 5 版 データ更新版」 インターメディカル		
参考書	①上野昌江他編集 [最新版] 「公衆衛生看護学第 3 版」 中央法規 ②麻原きよみ責任編集 [最新版] 「公衆衛生看護学テキスト 1 公衆衛生看護学原論」 医歯薬出版 ③佐伯和子責任編集 [最新版] 「公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護の技術と方法」 医歯薬出版		
履修上の留意点	詳細な学習要項・演習要項は別に配布する。 演習ではグループ学習を通して学ぶため、積極的に自分の意見を述べ討議すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 地域看護の目的と方法 地域看護の対象	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	講義	平野
2	地域を構成する個人／家族の特性	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	深川
3	地域看護活動 家庭訪問	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	平野
4	地域看護活動 健康相談、健康診査	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
5	地域看護活動 地域における健康教育・グループ支援	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	深川
6	地域を対象とした活動の実際 コミュニティナースの活動①	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	(佐藤)

7	地域を対象とした活動の実際 コミュニティナースの活動②	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
8	地域包括ケア	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	平野
9	関係職種・関係機関との連携、住民との協働	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
10	地域を対象とした活動の実際 礼文町における地域看護活動①	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	(藤澤)
11	地域を対象とした活動の実際 礼文町における地域看護活動②	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
12	地域を対象とした活動の実際 遠別町における地域看護活動①	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	(清水)
13	地域を対象とした活動の実際 遠別町における地域看護活動②	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
14	地域を対象とした活動の実際 札幌市における地域看護活動①	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	(向井)
15	地域を対象とした活動の実際 札幌市における地域看護活動②	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
16	地域を構成する個人／家族のアセスメント	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	平野
17	地域看護アセスメント	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
18	地域の健康課題	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
19-20	実習地域(地域看護実習)の概況①	事前：演習準備 事後：記録整理	演習	平野・青木・深川・村川・阿部
21-22	実習地域(地域看護実習)の概況②	事前：演習準備 事後：記録整理	〃	〃
23-24	実習地域(地域看護実習)の概況③	事前：演習準備 事後：記録整理	〃	〃
25-26	実習地域(地域看護実習)の概況④ 発表とまとめ	事前：演習準備 事後：記録整理	〃	〃
27	地域におけるケアのネットワーク	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	講義	(長谷川)
28	地域包括ケアにおける看護職の役割	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	〃
29	地域における健康危機管理	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	〃	平野
30	地域の健康課題と地域看護の役割	事前：関連する学習内容の予習 事後：レポート作成	〃	〃

授業科目	看護安全管理論	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(旗手俊彦)、(橋本暁佳)、(長谷川峰子)		
概要	医療における安全は患者・医療者にとって最も重要なものと認識されているが、未だ医療事故が起こっているのが実情である。 本科目において学生は、医療事故の特徴と医療における安全の確保とはいかなることかを学び、安全で質の高い看護実践に貢献する基礎的な知識、技術、及び管理について学ぶ。		
到達目標	1. 医療事故の特徴について述べられる。 2. 診療の補助業務における看護事故の特徴、及び療養上の世話における看護事故の特徴を述べられる。 3. 医療従事者の安全確保について述べられる。 4. 組織的な医療安全体制について述べられる。 5. 看護実践における安全管理について述べられる。		
関連科目	看護管理論、看護情報活用論、看護技術総合演習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	90%	提出物：事例検討記載内容 (40%)、小レポート (15%)、最終レポート (25%)、提出状況 (10%) 学習態度：グループワークへの参加状況
	学習態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①松山下由美子 [最新版] 「看護の統合と実践②医療安全」 MC メディカ出版 ②川村治子 [最新版] 「系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践」 医学書院 ③河野龍太郎 [最新版] 「医療におけるヒューマンエラー」 医学書院 ④小澤かおり [最新版] 「看護実践マネジメント/医療安全」 メヂカルフレンド社		
履修上の留意点	・グループ単位での演習には積極的に参加すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、医療事故に関わる基本概念、看護業務における医療事故の特徴	事前：医療事故に関する新聞記事等を読む 事後：授業の振り返り	講義	秋原
2	医療安全と医療の質 医療安全に関する国内学会、団体の取り組み、テクニカルスキルとノンテクニカルスキル、チーム医療、医療事故における法的責任	事前：前回までの学習の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	(旗手)
3	病院組織における医療安全対策：札幌医科大学附属病院における対策	事前：前回までの学習の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	(長谷川)
4	医療者の安全確保 健康管理、院内感染予防	事前：前回までの学習の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	(橋本)
5	看護に関する事故における法的責任：看護事例、解決方法	事前：前回までの学習の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	(長谷川)
6	起こりやすい医療事故の特徴とその対策を考える：与薬、チューブ・カテーテル、転倒・転落、食事・栄養、患者誤認	事前：資料を読む 事後：グループワークのまとめ	演習	秋原

7	起こりやすい医療事故の特徴とその対策を考える：与薬、チューブ・カテーテル、転倒・転落、食事・栄養、患者誤認	事前：資料を読む 事後：グループワークのまとめ	〃	秋原
8	起こりやすい医療事故の特徴とその対策：報告会	事前：報告資料作り 事後：報告会を踏まえたレポート作成	〃	秋原

授業科目	看護管理論	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	工藤美幸 (札幌医科大学附属病院看護部) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed. ac. jp
担当教員			
概要	看護管理とは、「患者にケア、治療、そして安楽を与えるための看護スタッフメンバーによる仕事の過程」(A. D. ギリース)であり、日本看護協会は「臨床における看護管理とは、患者や家族に、看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために看護職員が行う仕事の過程である。看護管理者は、最良の看護を患者や家族に提供するために、計画し、組織化し、指示し、統制を行う」としている。このように看護管理は実践であり、看護管理学は知識を探究する学問領域である。看護を円滑に、効果的に提供するための仕組みと機能、マネジメントに必要な基本的知識、臨床における看護マネジメントの実際を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメント機能について説明できる。 2. 看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントについて説明できる。 3. 看護マネジメントに必要なスキルが説明できる。 4. 看護における人的資源管理について説明できる。 5. 看護の質を評価・管理するための視点について説明できる。 6. 看護を取り巻く諸制度について説明できる。 7. 看護管理の実際を学び看護部門を構成する看護職員の責務と役割を説明できる。 		
関連科目	看護安全管理論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	提出物：レポートの記載内容
	筆記試験	80%	
教科書	①上泉和子 [2024] 「看護管理(系統看護学講座・統合分野・看護の統合と実践 I) 第 11 版」 医学書院		
参考書	①手島恵 [2018] 「看護管理学 改訂第 2 版」 南江堂 ②井部俊子他 [2009] 「実践家のリーダーシップー現場を代える看護が変わる」 ライフサポート社		
履修上の留意点	特になし		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	看護におけるマネジメントの機能：マネジメントとは、マネジメントプロセスとマネジメントサイクル、患者の権利の尊重、院内感染対策	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	講義	工藤
2	安全管理、災害対策 他職種との協働、チーム医療	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
3	看護ケアのマネジメント：看護基準と手順、看護記録 看護における人的資源管理：キャリア開発、人材育成、継続教育、採用と配置、ワークライフバランス	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
4	看護サービスのマネジメント：組織とは、組織の構造、組織目的達成のためのマネジメント、看護ケア提供システム 看護サービスの評価：ケアの質の評価・管理、経済的評価	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
5	看護マネジメントに必要な知識と技術：リーダーシップ、管理行動	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃

6	看護を取り巻く諸制度：医療制度・法律と看護管理	事前：教科書の該当箇所を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
7	演習 レポートテーマ「自己の傾向とリーダーシップ」についての資料収集	事前：これまでの授業の復習 事後：資料整理	演習	〃
8	演習 レポートテーマ「自己の傾向とリーダーシップ」についての資料収集、レポート作成、清書	事前：資料整理	〃	〃

授業科目	看護情報活用論	4 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(土島 智幸)、(劔持 輝海)		
概要	看護に関わる情報は、医療サービス提供の実態を俯瞰するうえで重要であり、医療・看護の質向上や、効率的な看護業務の推進に役立てることができる。本科目では、第1に、医療現場において医療・看護情報がどのように活用されているかを実践例を通じて理解することを目的とする。第2に、EBP (Evidence based practice) の理論、方法論を体系的に学び、医療・看護の質を向上させるためのエビデンス収集から現場において EBP を実装するプロセスを体験する。		
到達目標	1. 看護実践における情報管理の重要性、情報活用の可能性について理解し、述べることができる。 2. エビデンスを収集する手順、考え方を説明できる。 3. EBP を実装するための戦略、具体的方法を学び、述べることができる。		
関連科目	疫学、保健統計学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	100%	提出物は、講義時間内の個人ワーク、グループワークにおいて作成・提出されたものを評価する。
教科書	指定なし		
参考書	①太田 勝正・前田 樹海(編) [2023 年] 「エッセンシャル看護情報学(第5版)」 医歯薬出版 ②西垣 昌和(編) [2023 年] 「看護と研究：根拠に基づいた実践」 南江堂		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション EBP プロセスの学習(1) EBP 演習(1)：課題設定	事後：課題について調べる	講義・演習	山本
2	EBP プロセスの学習(2) EBP 演習(2)：文献検索	事前：課題について調べる 事後：課題について調べる	〃	〃
3	EBP プロセスの学習(3) EBP 演習(3)：文献検索・資料整理	事前：課題について調べる 事後：課題について調べる	演習	〃
4	EBP 演習(4)：資料整理・エビデンスの解釈	事前：課題について調べる 事後：課題について調べる	〃	〃
5	EBP 演習(5)：資料整理・エビデンスの解釈(2)	事前：課題について調べる 事後：課題について調べる	〃	〃
6	情報活用の実践(1)：病院経営・病院管理	事後：配付資料の通読	講義	(劔持)
7	情報活用の実践(2)：在宅医療・訪問看護	事後：配付資料の通読	〃	(土島)
8	報告会	事前：報告の準備	演習	〃

授業科目	災害看護論	4 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	田口裕紀子 (保健医療学研究棟 E304) e-mail : y.taguchi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木村恵美子、小木曾寛樹、(岸本万寿美)、(稲村弘敏)、(鎌塚香央里)、(佐々木琢文)、(佐藤実李)		
概要	本科目は、防災や災害時の看護活動に対する基礎的能力を培うために、災害サイクルの各フェーズに対応した看護師の役割と災害看護の特徴を学習する。特に、災害時対応における7つのコンセプト(CSCATTT)、トリアージ、応急処置や感染症対策などの考え方は、北海道で発災した事例を想定して理解を深める。また、災害看護を行う上で必要となる災害時の被災者・支援者の心理状況や災害医療体制・倫理・教育・理論について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の対象と特徴、災害医療体制について述べるができる。 2. 災害サイクルの各フェーズの特徴と看護の役割について述べるができる。 3. 災害保健医療対応の原則(CSCATTT)について述べるができる。 4. 災害時のトリアージ、応急処置の方法について述べるができる。 5. 災害時の感染症の特徴と看護の役割、継続治療を必要とする対象への看護について述べるができる。 6. 災害看護に必要な倫理、理論活用の方法について述べるができる。 7. 被災者の心理の変化や支援者のメンタルヘルスの特徴について述べるができる。 		
関連科目	災害医療・保健活動論、成人看護方法2、成人看護実習1、救急医療総論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト	12%	講義時に小テストを行う
	レポート	88%	講義開始時にレポート課題を提示する
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	災害看護の特徴 ・災害看護の定義 ・災害看護の対象 ・災害・感染症医療業務従事者、災害看護専門看護師 災害医療体制 ・災害拠点病院、災害時の医療・保健チーム 北海道の災害の特徴	事前：北海道の災害の特徴	講義 グループ ワーク	田口
2	災害サイクル各フェーズの看護の特徴① ・災害サイクル各期の看護の特徴 ・災害保健医療対応の原則：CSCATTT	事後：配布資料の確認	〃	田口
3	災害サイクル各フェーズの看護の特徴② ・超急性期～急性期の特徴と看護	事後：配布資料の確認	講義 演習	田口 木村 小木曾 (佐々木) (佐藤)
4	災害サイクル各フェーズの看護の特徴③ ・トリアージ、応急処置	事後：配布資料の確認	〃	田口 木村 小木曾

				(佐々木) (佐藤)
5	災害サイクル各フェーズの看護の特徴④ ・亜急性期～復旧復興期の特徴と看護 ・避難所での看護活動 ・要配慮者への看護	事後：配布資料の確認	講義 グループ ワーク	田口
6	災害時の感染症予防と継続治療を必要とする対象への看護 ・感染症対策と看護 ・がん患者への支援の特徴と看護	事後：配布資料の確認	”	田口 木村 小木曾
7	災害時の医療・保健チームの役割・活動、多職種連携	事後：配布資料の確認	”	田口 (岸本) (稲村) (鎌塚)
8	災害看護における倫理的課題と対応 災害看護に関連した理論活用 災害時のメンタルヘルス	事後：配布資料の確認	”	田口

授業科目	看護教育論 1	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護学科	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村円		
概要	今日に至る看護専門職としての発展は、看護教育の道程と相補的な関連性がある。つまり、看護教育に関わる諸問題は社会の情勢を受けながらの、過去からの連続である。 そこで、本科目では、西欧や我が国の看護教育の歴史を概観し、看護教育における課題を捉えたうえで将来の展望を考えていく。また、自らの看護職生涯教育のあり方について考える。		
到達目標	1. 看護教育の意義と役割を説明できる。 2. 我が国の看護教育の歴史の変遷とその特徴を説明できる。 3. 看護教育制度の現状と課題を述べることができる。 4. 看護職の専門教育・継続教育を理解し、看護職のキャリアについて説明できる。		
関連科目	教育学、看護教育論 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	60%	提出物：講義内容を踏まえて、看護教育に関するテーマのレポート 参加度：毎回のミニレポート、グループワーク参加状況
	参加度	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①杉森みどり、舟島なをみ [2021] 「看護教育学(第7版)」 医学書院 ②グレッグ美鈴、池西悦子編著 [2018] 「看護教育学(改訂第2版)」 南江堂 ③池西静江、石束佳子 [2021] 「看護教育へようこそ(第2版)」 医学書院 ④佐々木秀美 [2005] 「歴史にみるわが国の看護教育—その光と影—」 青山社		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポートは各回提出する。 ・最終レポートの詳細は授業時間内に説明する。 ・単位認定は授業の 2/3 の参加が必要である。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	看護教育学の概要	事後：学習課題	講義・グループ学習	秋原
2	看護教育の歴史の変遷	事後：学習課題	〃	中村
3	看護教育制度の体系 法律・制度・指定規則	事後：学習課題	〃	中村
4	看護教育制度の特徴 ・カリキュラム	事後：学習課題	〃	秋原
5	看護教育制度の特徴 ・臨地実習の意義	事後：学習課題	〃	秋原
6	専門職教育・継続教育 看護教育で活用する学習理論	事後：学習課題	〃	中村
7	看護教育に関するグループ討議	事後：学習課題	〃	秋原・中村

8	発表	事後：学習課題	”	秋原・中村
---	----	---------	---	-------

授業科目	看護教育論 2	4 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護学科	選択

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号室) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村円		
概要	本科目では、看護教育論 1 での学習をもとに、看護学教育カリキュラムに基づいた授業の位置づけや設計について学習する。		
到達目標	1. 看護学教育カリキュラムでの授業の位置づけ、設計について説明できる。 2. 授業の目的、目標を策定し、模擬授業を計画できる。 3. 自ら設計した授業を模擬的に展開できる。		
関連科目	教育学、看護教育論 1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	70%	
	グループ学習	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	1. 授業の進度や内容は履修者数によって変更の可能性がある。 2. 単位認定は授業の 2/3 の参加が必要である。 3. ミニレポートまたは課題レポートについては授業中に提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業デザインとは	事後：学習課題	講義、グループ学習	秋原・中村
2	授業の評価	事後：学習課題	講義、グループ学習	秋原・中村
3	模擬授業オリエンテーション	事後：学習課題	講義、グループ学習	秋原・中村
4	模擬授業に関するグループワーク	事後：学習課題	グループ学習	秋原・中村
5	模擬授業に関するグループワーク	事後：学習課題	グループ学習	秋原・中村
6	模擬授業に関するグループワーク	事後：学習課題	グループ学習	秋原・中村
7	模擬授業に関するグループワーク：発表	事後：学習課題	グループ学習	秋原・中村
8	模擬授業に関するグループワーク：発表	事後：学習課題	講グループ学習	秋原・中村

授業科目	国際保健医療・看護	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310 号) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	秋原 志穂、(小池 真理子)、(近藤 美智子)、(石川 祐美)		
概要	社会のグローバル化により国際的な視野で看護の役割・機能を捉え、国際活動に貢献できる人材が必要とされている。本科目では、主に開発途上国の人々の健康と保健・医療・看護の現状についての理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす社会・経済・文化的要因について学習する。また、国際保健医療活動の実践例および国際協力活動計画の立案を通して、人々の健康問題を改善するために必要な看護職の活動を理解し、国際保健医療・看護活動における看護職の役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人々の健康水準および保健医療サービスの格差とその背景について説明できる。 2. 国際保健医療・看護の主要概念および組織について説明できる。 3. 国際保健および看護活動の実践例を通して、異文化における支援活動を理解し、国際協力における現在の問題点や今後の課題について説明できる。 4. 国内外の異文化にある人々の健康改善に向けた看護職の役割を説明できる。 5. プライマリヘルスケアの原則に基づいて、国際協力活動計画を立案できる。 		
関連科目	国際関係論、国際協力論、環境保健論、健康管理論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	レポート：海外協力における保健・医療分野の要請を1つ選択し、活動計画を立案する。評価のポイントは、現状分析の客観性、活動計画の具体性・実行可能性、及びプライマリヘルスケアの原則に基づく記述内容について。レポート評価は、単位認定の60%とする。 ミニレポート：授業終了後に指定しているミニレポートへの取り組みを評価する(5%×8回)。
	ミニレポート	40%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①柳澤理子編 [2021 年] 「国際看護学 開発途上国への看護実践を踏まえて」 ピラールプレス ②大橋一友他編 [2018 年] 「国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして」 MC メディカ出版 ③日本国際看護学会編 [2020 年] 「国際看護学入門」 医学書院 		
履修上の留意点	授業スケジュールは、外部非常勤講師の都合および学習の進捗状況により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	コースガイダンス 国際保健医療・看護の主要な概念 先進国と発展途上国の健康水準の格差と背景 保健医療分野における国際機関 など	事後：ミニレポート	講義	正岡
2	日本の ODS による看護活動—青年海外協力隊 セネガルへの協力	事前：セネガルの医療事情について調べる 事後：ミニレポート	〃	(小池)
3	国際緊急援助活動—災害医療支援の実践例 ・JDR, UNHCR, スフィアプロジェクト等	事前：国際緊急援助隊について調べる 事後：ミニレポート	〃	(近藤)
4	日本の ODA による看護活動—青年海外協力隊 バングラデシュにおける協力活動	事前：バングラディッシュの医療事情について調べる 事後：ミニレポート	〃	(石川)
5	災害支援における心のケアとストレス対処 ・被災者の心のケア ・救援者の心のケア	事前：災害支援ナースについて調べる 事後：ミニレポート	〃	(近藤)

6	アメリカの医療制度と看護制度 日本と異なる看護職の役割	事前：アメリカの看護教育制度について調べる 事後：ミニレポート	〃	秋原
7	在留外国人の健康問題と看護	事前：在留外国人の現状について調べる 事後：ミニレポート	〃	(近藤)
8	国際保健医療・看護活動のまとめ レポート課題について	事前：文献検索 事後：レポート作成・提出	講義・個人 ワーク	正岡

授業科目	看護理論	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	看護理論はさまざまな看護現象を記述する、説明する、予測する、看護ケアを導くといった目的を持つ知識体系である。ナイチンゲール以来、さまざまな看護理論が開発、検証され、看護学の科学的発展を牽引してきた。本科目では、3 年間の学習を踏まえつつ、看護理論について学ぶことをとおして「看護の本質」について考える。具体的には、看護理論の歴史的発展の経緯、看護理論の構成要素、看護実践への適用例などの基本的事項について学び、看護理論を用いて自身が行った看護実践を振り返り考察する。学生グループでのディスカッションを多く交えながら、4 年間の学習の集大成の一つとして、また、看護専門職として臨床で働く上で必要な、各自の看護観を明確にすることを旨とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の基本的な構成要素および看護学における位置づけを説明できる。 2. 主要な看護理論の概要と特徴を説明できる。 3. 3 年次までの実習における自己の看護実践について看護理論を適用し考察できる。 4. 看護理論の実践への適用の意義を説明できる。 5. 看護の主要概念について自己の考えを述べるができる。 		
関連科目	看護学概論、キャリアデザイン、各看護実習科目、看護学研究 1・2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	グループ学習	50%	グループ学習：グループ学習への参加状況・貢献度 (25%)、毎回の授業時のワークシートの提出状況・内容 (25%) 課題・発表：事例分析の発表内容と質疑応答 最終レポート：ループリックによる評価
	課題・発表	30%	
	最終レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①野嶋佐由美編 [2021] 「看護学の概念と理論」 日本看護協会出版会 ②西村ユミ、山川みやえ編 [2021] 「現代看護理論 一人ひとりの看護理論のために」 新曜社 ③筒井真優美編 [2020] 「看護理論家の業績と理論評価 第 2 版」 医学書院 ④黒田裕子 [2020] 「臨床活用事例でわかる中範囲理論」 日経研出版 ⑤筒井真優美編 [2019] 「看護理論—看護理論 21 の理解と実践への応用 改訂第 3 版」 南江堂 		
履修上の留意点	講義はグループディスカッションを交えながら進めるので、積極的な参加を期待する。 参考書は上記のほか、随時、紹介する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 看護実践に看護理論がなぜ必要か 看護活動・看護過程、看護研究と看護理論との関連 看護理論の構成要素	事後：配付資料を読む	講義・グループ学習	長谷川
2	看護のメタパラダイム—人間、健康、環境、看護の定義	事前：ワークシートに取り組む 事後：配付資料を読む	〃	〃
3	看護理論の歴史的発展	事前：ワークシートに取り組む 事後：配付資料を読む	〃	〃
4	看護理論の臨床適用 1：対人関係理論を例に	事前：ワークシートに取り組む 事後：配付資料を読む	〃	〃
5	グループ学習 1：看護理論家を選択し、理論の概要と特徴を調べる	事前：ワークシートに取り組む 事後：発表の準備	グループ学習	〃

6	グループ学習 2 : 調べた内容の発表と全体討論	事前 : 配付資料を読む	発表・討論	〃
7	看護理論の臨床適用 2 : 看護理論を用いて実践を振り返る	事前 : 発表資料の準備	ワーク	〃
8	看護理論の臨床適用 3 : 発表と全体討論	事前 : 配付資料を読む 事後 : 最終レポート課題	発表・討論	〃

授業科目	臨床看護コミュニケーション	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澤田いづみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	原田由香、小川賢一		
概要	看護者は臨床場面において、様々な対象者と出会い、多様な人生、感情に遭遇する。質の良い看護を提供しようとし、看護の目的を達成しようとするならば、患者とのコミュニケーションを充分にとる必要がある。そして、多職種との協働においては、看護者には患者の立場に立った建設的な発言を求められる。しかし、このことは同時多発的に生じるさまざまな状況に臨機応変に対応しなければならない臨床看護の現場では、なかなか容易なことではない。患者の真意をつかまえたり、対象者の思いを汲み、看護者の意図を伝えたりするためには、意図的な学習が必要である。この科目では、基礎的な対人コミュニケーション理論を土台に、臨床看護の現場で起こり得るさまざまな患者—看護者間のコミュニケーション場面を取り上げ、看護者がより効果的なコミュニケーションを展開するために必要な基本的技術を学ぶこととする。		
到達目標	講義と演習を通じて以下のコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする 1. 看護面接におけるプロセスと必要な基本技術を説明できる 2. 援助関係構築に役立つ基本的面談技法を実施できる 3. 困難な状況にある対象者へのケアとしてのコミュニケーションを実施できる 4. チーム医療に求められるアサーティブコミュニケーションを実施できる 5. 健康行動への動機づけが求められる対象者への面接の基礎を説明できる		
関連科目	人間関係論、臨床心理学、ヘルスアセスメント 2、精神看護概論、精神看護方法		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	演習参加態度	30%	演習参加態度：問題意識をもって参加しているか、体験をしようとしているか、相互学習への寄与、討論態度(討論へ問題意識、発言、聞き方、質問による深まり、意見の統合) ミニレポート課題：得られた学びについて具体的に学習目標に照らして記述しているか 最終レポート：レポート課題への適切性、文章校正、文献
	ミニレポート	30%	
	最終レポート	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①中島俊 [2023] 「入職1年目から現場で生かせる ころろ動く医療コミュニケーション読本」 医学書院 ②渡部富栄 [2011] 「対人コミュニケーション入門—看護のパワーアップにつながる理論と技術」 ライフサポート社 ③篠崎恵美子、藤井徹也 [2019] 「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」 医学書院 ④五十嵐透子 [2003] 「自分を見つめるカウンセリング・マインド へするケア・ワークの基本と展開」 医歯薬出版株式会社 ⑤北田雅子、磯村毅 [2016] 「医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引き MI 学習帳」 医歯薬出版株式会社		
履修上の留意点	演習を中心に行うので、積極的な参加姿勢が望まれます。 ペアやグループで行う演習が多数あるので、履修学生同士、支え合う態度で参加してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 良好なコミュニケーションに必要な技法① 看護コミュニケーションと看護面接の定義 ジョハリの窓：自分に気づく	事前：関連科目の資料を読み替えず 事後：履修の目的を明確にする	講義	澤田・原田・小川
2	良好なコミュニケーションに必要な技法② 質問技法と投げ返し 問診の取り方	事前：基本スキルについて調べる 事後：演習体験のまとめをする	講義・演習	〃

3	良好なコミュニケーションに必要な技法③ 自己開示を促す看護者の自己開示 感情の表出を促し受け止める	事前：積極的傾聴スキルを予習する 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
4	良好なコミュニケーションに必要な技法④ 複雑な投げ返し技法 感情を受け止め支える技法 NURSE	事前：積極的傾聴スキルを予習する 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
5	チーム医療における存在を示すコミュニケーション① 自己のアサーティブネスの気づく	事前：アサーティブコミュニケーション について調べる 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
6	チーム医療における存在の示すコミュニケーション② アサーティブコミュニケーション DESK 法の基本	事前：実習等のコミュニケーションで 葛藤した場面を書き留めておく 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
7	看護場面で活用する動機づけ面接の基礎 1 チェンジトークと維持トーク	事前：動機づけ面接について調べる 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
8	看護場面で活用する動機づけ面接の基礎 2 動機づけ面接における基本戦略 OARS	事前：ロールプレイしてみたい場面を 考えておく 事後：学びのまとめ	〃	〃

授業科目	認知症ケア	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	木島輝美 (保健医療学研究棟 E110 号) e-mail : yterumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	長谷川真澄、池田望、(平野憲子)、(笹田洋子)、他		
概要	認知症をもつ人が体験している世界および生活の特徴を理解し、パーソン・センタード・ケアなどの理論に基づく看護援助について学習する。また、認知症をもつ人とその家族、ケア提供者がかかえる倫理的諸問題について分析し、より良い意思決定の支援について学ぶ。		
到達目標	1. わが国の認知症ケアの変遷を理解し、看護の役割を説明できる。 2. 認知症をもつ人の体験を知ることの重要性を説明できる。 3. 認知症ケアに関する理論とその援助方法について説明できる。 4. 認知症をもつ人の家族介護者の特徴と支援について説明できる。 5. 認知症をもつ人のリハビリテーションの目的と概要を説明できる。 6. 認知症ケアにおける倫理的諸問題について説明できる。		
関連科目	疾病治療論 4、老年看護学概論、老年看護方法、老年看護実習 1、老年看護実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	70%	提出物：事前/事後の学習課題(30%) および課題レポート(40%)の提出状況と記載内容を評価する。 グループ学習(30%)：グループワークへの貢献度、成果物の内容を評価する。
	グループ学習	30%	
教科書	指定なし		
参考書	① 寛裕 著 [2023] 「認知症世界の歩き方 実践編 対話とデザインがあなたの生活を変える」 issue+design ② 認知症看護認定看護師「施設の会」 著 [2020] 「認知症 plus 生活の継続 認知症看護認定看護師の実践が明らかにする “生活” を考えたケア」 日本看護協会出版会 ③ 近藤尚己 編 [2022] 「認知症 plus 地域共生社会 つながり支え合うまちづくりのために私たちができること」 日本看護協会出版会 ④ 山口晴保 著、伊東美緒 著 [2021] 「認知症ケアの達人をめざす 予兆に気づき BPSD を予防して効果を見える化しよう」 協同医書出版社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	わが国の認知症ケアおよび政策の変遷と看護の役割	事後：配付資料の復習	講義	木島
2	認知症をもつ人が体験する世界	事前：認知症当事者の語りを読む 事後：振り返り記録の記入	講義・グループ学習	〃
3	パーソン・センタード・ケアに基づく看護援助	事前：パーソンセンタードケアについて調べる 事後：振り返り記録の記入	〃	〃
4	認知症緩和ケア タクティールケア	事前：タクティールケアについて調べる 事後：振り返り記録の記入	〃	(笹田)
5	認知症をもつ人のリハビリテーション	事前：認知症リハビリテーションについて調べる 事後：振り返り記録の記入	講義	池田

6	認知症をもつ人の家族介護者の特徴と支援	事前：家族介護者への質問を考える 事後：振り返り記録の記入	〃	(平野)・他
7	認知症ケアにおける倫理的諸問題と意思決定支援	事前：実習での倫理的場面を振り返る 事後：振り返り記録の記入	〃	長谷川
8	認知症ケアにおける倫理的諸問題の分析	事前：配付資料を読む 事後：振り返り記録の記入	グループ 学習	長谷川・木 島

授業科目	看護政策	4 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	平野美千代 (保健医療学研究棟 E104 号) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(伊藤新一郎)、(高橋久美子)、(弓野壽子)		
概要	人々のニーズに応える質の高い看護を実現するためには、医療・看護に関する諸制度の改善・改革に取り組むことが求められる。また政策決定に参画することは、看護職が自らの能力を十分に発揮し社会に貢献していく上で必要不可欠である。本科目では、看護に関する諸制度を踏まえて我が国の医療・看護に関わる諸課題を理解するとともに政策決定に参画することの意義と役割、政策決定過程の概要を学習する。また、北海道の医療・看護が抱える諸課題と看護政策のあり方を知り、改善・改革の方向性を展望する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職育成の観点から見た看護制度を考察できる。 2. 1970 年代以降の医療施策と看護施策の推移を学び、看護施策は看護の質をどのように左右するかを考察できる。 3. 看護政策の決定過程を学び看護職の政策課題を考察できる。 4. 北海道の医療・看護政策と看護職の役割を考察できる。 		
関連科目	保健福祉行政論、健康管理論、看護管理論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	提出物：グループ学習の発表記録内容(20%)、最終レポート記載内容(60%)。 学習態度：グループ学習への参加状況と態度(20%)。 レポート「看護政策の現状、課題と看護職者の関与のあり方」について。 評価基準：文献等を用いて①現状と課題、②看護者の役割、③自分の感想と考察、①②③が明確に述べられているかどうか。
	学習態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①中西睦子編 [2014 年] 「看護管理学習テキスト第 2 版第 7 巻 看護制度・政策論」 日本看護協会出版会		
履修上の留意点	下記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更する場合がある。学習要項・グループ学習要領は別途配布する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	医療法の改正 看護職員確保の施策 医療機能分化政策 看護体制と料金体系の改革	事前：政策を復習しておく 事後：看護制度関連内容を復習	講義	平野
2	看護制度に関連する歴史的変遷	事前：看護制度を復習 事後：看護制度、施策内容を復習	〃	〃
3	政策の概念 政策決定・実行過程 ロビー活動	事前：施策の推移を復習 事後：看護制度関連内容を復習	〃	(伊藤)
4	政策に影響を与える諸団体の活動 専門職能団体の役割、活動、今後の展望	事前：政策の概念、決定過程を復習 事後：諸団体の活動内容を復習	〃	(高橋)
5	北海道の医療・看護政策 地域医療推進と看護職の役割	事前：看護政策を復習 事後：地域の看護政策関連内容を復習	〃	(弓野)
6	看護政策・施策に必要な能力である事業化の企画・評価、プレゼンテーション等の能力について学習計画を立てる。	事前：看護政策と看護職の役割を復習 事後：グループ学習のまとめ	グループ 学習	平野
7	看護政策・施策に必要な能力である事業化の企画・評価、プレゼンテーション等の能力について学習を進める。	事後：グループ学習のまとめ	〃	〃

8	プレゼンテーション・全体のまとめ	事後：グループ学習のまとめ	〃	〃
---	------------------	---------------	---	---

授業科目	看護学セミナー	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	浅利 剛史 (保健医療学研究棟 E109) e-mail : asari.tsuyoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 円、看護学科教員、(金谷 直樹)		
概要	<p>本科目は、実践科学である看護学の発展に貢献する基礎的能力の育成をねらいとするものである。保健・医療・福祉の中で看護職が自らの役割を果たしていくためには看護に関わる諸課題の解決に取り組む能力が必要である。そこでまず、文献に関する基礎的な知識と系統的な文献収集の方法を学習する。そして国内外の文献の講読、フィールドワークなど様々な活動により、保健・医療・福祉、看護に関わる諸科学の知見や実践的な課題に触れて看護学の探究方法を学ぶとともに、看護現象に関する洞察を深める。なお、本科目はグループ活動により主体的な学習姿勢を養うねらいもあることから、少人数のセミナー形式で学習を進める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 文献に関する基礎的な知識を知り、系統的に文献を収集できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 文献講読の意義を説明できる。 2) 文献検索の意義と方法を説明できる。 3) 学習上の課題や興味関心のある事象に関連する文献を系統的に収集できる。 4) 学習上の課題や興味関心のある事象に関連する論文のクリティークの方法を説明できる。 保健・医療・福祉、看護に関する学習テーマへの活動を通して、自分なりの新たな発見ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習テーマに関連する諸事象を理解するための文献を読むことができる。 2) 学習テーマに関連する論文についてクリティークできる。 3) 学習テーマに関して系統的、意図的に学習活動を進めることができる。 4) 上記の学習過程を通しての学びをまとめ、他者に伝えることができる。 グループ討論や協同活動を通して自らの考えを深めるとともに、協同して学習を進めることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) グループメンバーや教員との討論を通して自己の考えを発展させることができる。 2) グループメンバーや教員との討論の場において自己の考えを積極的に表明できる。 3) グループメンバーや教員との諸活動の中で自己の役割を発揮するとともに協同的な姿勢で取り組むことができる。 		
関連科目	保健統計学、看護学研究 1、看護学研究 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	学習態度	50%	以下の評価対象について、成績評価票を用いて評価する。 学習態度：グループ討論での積極的姿勢、諸活動での役割遂行および協同的姿勢、課題の取り組み状況 目標到達状況：学習テーマに関する文献収集および講読状況、グループ討論および諸活動での発言内容、提出物の内容
	学習内容の目標到達状況	50%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①足立はるゑ [2012] 「看護研究サポートブック 改訂 3 版」 メディカ出版 ②上野栄一 他 [2012] 「楽しくなる看護研究 第 1 版」 メヂカルフレンド社 		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 6 回 (予定) 以降は各領域に分かれて受講する。配置はガイダンス時に発表される。 2. 第 6 回 (予定) 以降の学習内容と進め方は各領域の方針に基づく。 3. 主体的な学習姿勢が求められる。 4. 教科書は必要に応じて担当教員から紹介される。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	全体オリエンテーション 文献講読・検索に関する講義 研究論文の概説	事前：事前に配付された論文を読む 事後：関心あるテーマを考える	講義	浅利・中村
2	研究方法の概説 (量的研究、質的研究、事例研究)	事前：事前に配付された論文を読む 事後：関心あるテーマを考える	〃	未定

3	文献検索演習	事前：配付資料を読む 事後：関心あるテーマについて文献を検索する	演習	(金谷)
4	クリティーク① クリティークの方法	事前：配付資料を読む 事後：指定された文献を読む	講義・演習	中村・浅利
5	クリティーク② クリティークのグループワーク	事前：指定された文献をクリティークする 事後：関心のある文献を検索する	演習	〃
6	各領域の学習内容-1	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	各領域の 担当教員
7	各領域の学習内容-2	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
8	各領域の学習内容-3	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
9	各領域の学習内容-4	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
10	各領域の学習内容-5	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
11	各領域の学習内容-6	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
12	各領域の学習内容-7	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
13	各領域の学習内容-8	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
14	各領域の学習内容-9	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃
15	各領域の学習内容-10	事前：各領域で設定された課題 事後：各領域で設定された課題	〃	〃

授業科目	看護技術総合演習	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、田口裕紀子、石貫智裕、小川賢一、他		
概要	本科目では、既習の知識・技術・態度を統合し、臨床に適用できる実践能力を養うことをねらいとする。具体的には、複合的な健康障害を抱える模擬事例の健康状態や治療過程に即した臨床判断の基本を学び、看護援助を実践する。この学習プロセスを通して、自己の看護実践能力を認識し、今後の課題を明確にする。		
到達目標	<p>I. 模擬事例に対する看護援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要な情報の優先性を考慮し、既習の知識を活用して模擬事例に対する看護を根拠に基づいて適切に判断できる。 模擬事例の健康状態や治療過程に即した看護援助を選択し、実施によるリスクを予測しながら看護援助を実施できる。 科学的根拠と観察に基づいて、安全・安楽に留意しながら的確に看護援助を実施できる。 模擬患者の状態や場の状況に応じて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを実践できる。 <p>II. ケア環境とチーム体制を理解した実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 実施した看護援助を評価し、必要な報告と記録ができる。 リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割を説明できる。 チームメンバーと情報を共有することの意義とその実際を説明できる。 		
関連科目	基礎看護方法 1~4、看護安全管理論、看護統合実習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	50%	<ul style="list-style-type: none"> 提出物は提出状況、および内容の目標到達状況により、60 点以上を合格とする。 技術試験は採点表に基づき、60 点以上を合格とする。 学習状況はグループ学習への参加状況や演習への取り組みなどから判断し、60 点以上を合格とする。 上記 3 項目より評価し、すべての合格により単位を認定する。
	技術試験	40%	
	学習状況	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 学習要項と資料を熟読する。 事前・事後課題(ナーシング・スキル含む)に計画的に取り組む。 掲示は直接自分の目で確認し、必要な行動を速やかに行う。 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにしておく。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション (学習の進め方) 模擬事例の提示	事前：事前配付資料を読む 事後：模擬事例に対する課題	講義	秋原・木島・田口・石貫・小川
2	アセスメント、統合、 看護計画の立案	事前・事後：模擬事例に対する課題	演習	〃
3	自己学習した看護過程の共有	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
4	自己学習した看護過程の共有	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
5	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃

6	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
7	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
8	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
9	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
10	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
11	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
12	模擬事例に関連したグループ演習 A~D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
13	模擬患者への看護実践 (OSCE) に関するオリエンテーション	事前：演習要項の OSCE に関する記載を読む	〃	〃
14	模擬患者への看護実践 (OSCE)	事前：看護技術演習 A-D の復習 事後：OSCE 自己評価	〃	〃
15	模擬患者への看護実践に関する振り返り	事前・事後：模擬患者への看護実践に関する課題	〃	〃
16	【該当者のみ】 模擬患者への看護実践(OSCE)の再試験・追試験	事前：看護技術演習 A-D の復習 事後：OSCE 自己評価	〃	〃

授業科目	看護学研究1	4 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	看護学科全教員		
概要	研究の目的と意義を理解し、看護において明らかにする必要のある現象を客観的に捉え、科学的に探求するための基礎的能力を養う。研究方法、倫理的配慮、研究計画書の作成についての基本的知識を獲得すると共に、関心の高い看護専門領域における研究疑問に関する論文のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成するプロセスを学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の目的と意義について述べることができる。 2. 研究方法の種類と特徴について説明できる。 3. 関心のある研究疑問について先行研究を収集し、クリティークできる。 4. 自己の研究課題に対応した倫理的配慮について説明できる。 5. 自己の研究課題を明確にし、論旨に一貫性のある研究計画書を作成できる。 		
関連科目	看護倫理、看護学セミナー、看護学研究2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	到達目標の達成度	80%	ルーブリックを使用して評価する。
	学習態度	20%	到達目標の達成度は研究計画書の内容について、研究課題および目的と意義の設定、文献検討、研究方法、倫理的配慮、引用文献、図表の示し方、表現の観点から評価する。
			学習態度は研究活動への取り組みについて、主体的、協働的、誠実、継続的な取り組みの観点から評価する。
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員のもと個人またはグループで学習を行う。 ・学習内容は各教員の方針に基づく。 ・主体的な学習姿勢が求められる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション1 看護学研究1・2の概要 受講講座の決定について	事前：関心ある研究テーマを考える 事後：関心ある研究テーマを選択する	講義	宇野
2	オリエンテーション2 看護学研究1・2の進め方について 看護研究とは何か 看護における研究の必要性和意義 研究疑問から研究課題を明確化するプロセス 研究課題と研究デザインの選択 看護研究に伴う倫理的問題と配慮・対応 研究計画書の必要性和具体的な作成方法	事前：前年度の看護学研究2抄録集を読む 事後：自身が取り組む研究テーマを考える	〃	〃
3	事例研究の特徴と方法 質的研究の特徴と方法 量的研究の特徴と方法	事後：自身が取り組む研究テーマの研究方法を考える	〃	未定
4	各担当教員オリエンテーション	事前：配属となった領域での研究テーマを考える	演習	各担当教員

28	研究論文の読み方とまとめ方 研究計画書の作成・修正	各担当教員と適宜話し合いながら学 習を進める	〃	〃
29	研究論文の読み方とまとめ方 研究計画書の作成・修正	各担当教員と適宜話し合いながら学 習を進める	〃	〃
30	研究論文の読み方とまとめ方 研究計画書の作成・修正 研究計画書の提出	各担当教員と適宜話し合いながら学 習を進める	〃	〃

授業科目	看護学研究2	4 学年・後期・3 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	宇野智子 (保健医療学部研究棟 E204 号) e-mail : tuno@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	看護学科全教員		
概要	看護学研究1で作成した研究計画書に沿って看護を系統的に探求するプロセスに主体的に取り組む。具体的には、自ら選択したテーマにおける研究計画書に沿ってデータ収集や分析、結果、考察の過程を論文としてまとめる。これらの研究過程の実践を通して、批判的な思考能力、論理的な表現能力、および研究者に求められる倫理的態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づき、データ収集および分析ができる。 2. 結果を論述し、客観的に考察できる。 3. 研究過程の実践を通して、研究者に求められる倫理的配慮を説明できる。 4. 一連の研究過程を論理的思考・表現にもとづき発表できる。 5. 一連の研究過程を論理的思考・表現にもとづき研究論文の構成に則って記述できる。 		
関連科目	看護倫理、看護学セミナー、看護学研究1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	到達目標の達成度	80%	ルーブリックを使用して評価する。
	学習態度	20%	到達目標の達成度は、研究論文の作成 60%と研究発表 20%の配分で評価する。
			研究論文について、データ収集や分析、結果、考察、倫理的配慮、図表や資料、表現の観点から評価する。研究発表について、抄録、発表資料、発表時の姿勢の観点から評価する。
			学習態度は、研究活動への取り組みについて、主体的、協働的、誠実、継続的な取り組みの観点から評価する。
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究1を履修していることが望ましい。 ・看護学研究1と同じ教員が担当する。 ・実習科目と重複する期間は実習を優先すること。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	演習	各担当教員
2	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
3	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
4	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
5	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
6	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
7	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
8	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃

32	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
33	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
34	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
35	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
36	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
37	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
38	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
39	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
40	各自の研究計画書に沿った実施、論文作成	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
41	抄録の作成 研究発表の形式 効果的なプレゼンテーションの方法	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
42	抄録の提出 研究発表の形式 効果的なプレゼンテーションの方法	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
43	研究成果の発表と質疑応答 研究論文の提出	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
44	研究成果を発表と質疑応答 研究論文の提出	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃
45	研究成果を発表と質疑応答 研究論文の提出	担当教員と適宜話し合いながら学習を進める	〃	〃

授業科目	保健医療総論 1	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	中村 円 (保健医療学研究棟 E312 号) e-mail : m-nakamura@sapmed.ac.jp
担当教員	長谷川真澄、石井貴男、齊籐正樹、谷口圭吾、山本武志、中村 円、佐々木健史、戸田 創、木村恵美子、齊藤秀和、飯澤良祐、小木曾寛樹、早崎涼太、(大島寿美子)		
概要	保健・医療・福祉における他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる基礎的能力醸成のため、コミュニケーションの構成要素や活用法、接遇の基本、情報リテラシー(倫理的取り扱い・管理方法)に関する講義やグループワーク、および実際のインタビュー体験を通して、基本的なコミュニケーションの概念と技術、および倫理的態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学習課題の遂行体験を基に、多職種連携の基盤となる基本的なコミュニケーションの重要性を理解し、自己の課題を述べることができる。 2. コミュニケーションの構成要素とその特徴を述べることができる。 3. 基本的接遇に必要な振る舞い方とマナーを述べることができる。 4. 報告、連絡、相談の重要性を述べることができる。 5. 自らのコミュニケーションを振り返り、課題を述べることができる。 		
関連科目	人間関係論、文化人類学、心理学概論, 保健医療総論 2・3・4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	各種レポート	90%	各種レポート：担当教員による絶対評価
	学習態度	10%	学習態度：グループワーク・発表会への参加態度、学習への集中度
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	グループを中心とした学習活動となるので積極的に所属するグループに関与されることを期待します。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項、医療人にとってのコミュニケーションの重要性を理解し、その技法を学ぶためのオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：講演資料の確認	講義	学部内 全担当教員
2	「人をつなぐ私たちの営み-コミュニケーションについて考える-」に参加する	事前：要項の確認 事後：講演資料の再読	講演	(大島) 中村
3	コミュニケーションに対するイメージの言語化	事前：要項の確認 事後：言語化したイメージの確認	グループ 学習	戸田、 学部内 全担当教員
4	基本的接遇のロールプレイ	事前：要項の確認 事後：ロールプレイ内容のふり返り	〃	〃
5	インタビュー演習のオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：オリエンテーション内容の確認	〃	齊藤、 学部内 全担当教員
6	インタビュー演習の企画書の作成	事前：要項の確認 事後：作成した企画書の点検	〃	〃

7	インタビュー演習の実施のためのアポイントメント	事前：基本的接遇のふり返り 事後：アポイント内容の確認	〃	〃
8	インタビュー演習の企画書の精査・点検とインタビュー演習の準備	事前：作成した企画書の確認 事後：企画全体のふり返り	〃	〃
9	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
10	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
11	インタビュー演習の内容の確認	事前：要項の確認 事後：インタビュー内容の確認	〃	〃
12	インタビュー演習の内容に基づく報告会準備	事前：要項の確認 事後：報告内容と手順の確認	〃	中村、 学部内 全担当教 員
13	報告会でのプレゼンテーション準備と会場準備	事前：要項の確認 事後：報告内容の最終確認	〃	〃
14	報告会での報告と質疑応答及び意見交換	事前：要項の確認 事後：報告内容のふり返り	〃	〃
15	報告会での報告と質疑応答及び意見交換とレポート提出	事前：要項にて提出物の確認 事後：レポート等の提出	〃	〃

授業科目	保健医療総論 2	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山田崇史、中村充雄、木島輝美、秋原志穂、澤田いづみ、松村博文、中村眞理子、澄川真珠子、田畑久江、青柳道子、白井紀子、深川周平、石貫智裕		
概要	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所系サービスを利用している高齢者と実際にコミュニケーションをとり、対象者の理解に基づいたコミュニケーションの重要性と、保健医療福祉専門職の機能を知ることがを目的とする。さらに、世代や立場が異なる様々な人との関わりから考え方の多様性を理解し、今後の学習活動のレディネスを高める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活を支援する場における多職種連携の目的・方法を知ることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護施設における多職種連携の目的・方法を知ることができる。 2) 介護施設と医療施設における多職種連携の共通点と相違点を述べることができる。 2. 対象者の理解に基づいたコミュニケーションの実践をとおして、その重要性を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習に基づき、加齢による変化や疾病をもつ対象者に配慮したコミュニケーションができる。 2) 実習体験をとおして、対象者の特徴に応じたコミュニケーションのあり方を述べるができる。 3. 対象者と関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を知るとともに、保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を認識できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者に関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を述べるができる。 2) 保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を述べるができる。 4. 本学習課題の達成という目標に向け、学生・教職員・施設職員で構成される学習チームの一員として主体的かつ協働的に行動できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習チームの一員として、学生メンバーおよび教職員や施設職員と主体的にコミュニケーションできる。 2) 世代や立場の異なる人との関わりから、考え方の多様性について述べるができる。 3) 学習課題達成のために、学習チームの一員としての役割を果たすことができる。 5. 対象者の安全・安楽を守り、医療人としての倫理的態度に基づいた行動ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者のプライバシーに配慮し、尊重した態度で接することができる。 2) 対象者の安全・安楽を守るために施設職員へ必要に応じて報告・連絡・相談ができる。 3) 「実習等における個人情報の取り扱い 指針第 3 版」に基づき記録・情報を適切に管理できる。 		
関連科目	保健医療総論 1、保健医療総論 3、保健医療総論 4		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 個人レポート：記録類の提出状況と内容および演習・実習での発言内容から学習目標の到達度に基づき評価。 学習態度：学内演習並びに施設実習における取り組み態度により評価。 いずれも、ルーブリックを用いて評価を行う。
	個人レポート	60%	
	学習態度	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<p>正当事由によりやむを得ず遅刻、早退、欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。</p> <p>臨地実習の受け入れ先の都合により、半数の学生は、実施回 1-5 と 6-10 を入れ替えた内容となる。</p> <p>実習の形式が変更になる場合には、事前に周知する。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	<p>学内演習：学習目標 1~3 に関する事前学習の共有、高齢者疑似体験、動画の視聴、グループ内でのディスカッションを行う。</p> <p>方法：2~3 名の 3 学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。</p> <p>内容：コミュニケーション能力を含めた高齢者の特徴、介護</p>	<p>事前：事前課題に取り組む</p> <p>事後：グループ学習の復習</p>	演習	担当教員 全員

	<p>保険下の施設の特徴、保健医療福祉専門職の種類と役割について、事前学習、高齢者疑似体験、教材動画の視聴を通して、理解を深め、学習内容の共有を図る。また、教材動画の視聴を通じて、介護保険下の施設における感染症予防対策について学習する。</p>			
6-10	<p>臨地実習：高齢者が利用する施設、通所サービスで見学を中心とした実習を行う。</p> <p>方法：1施設2～4名程度のグループ単位で施設職員の指導のもと、臨地実習を行う。</p> <p>内容：施設概要に関する講義の受講ほか、日常業務の観察を通して、多職種連携、感染対策の実際を学ぶ。また、施設利用者とのコミュニケーションの重要性や専門職と施設利用者との関わりを学ぶ。実習終了後に施設内で学習内容を振り返る。</p>	<p>事前：事前課題に取り組む</p> <p>事後：実習記録の作成・提出</p>	臨地実習	〃
11-15	<p>学内演習：これまでの学内演習および臨地実習での学びを統合し、学生間で共有を図る。</p> <p>方法：3～4名の3学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。</p> <p>内容：グループで学内演習及び臨地実習での学びを共有し、グループ討議の課題に基づき発表資料を作成する。教室別に報告会を行い、意見交換する。</p>	事後：個人レポートの作成・提出	演習	〃

授業科目	保健医療総論 3	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、丹野雅也、坂上真理、中村裕二、浅利剛史、森元隆文、原田由香、田代英之、青木信裕、村川奨、小川賢一、竹内彩弥香、(加藤良和)、(清水兼悦)、(三上孝洋)、(中島純子)、(柿澤雅史)		
概要	チーム医療において他の医療専門職との連携を図る能力を身につけるために、医療機関において他の医療専門職の機能と役割を理解する。本科目における他の医療専門職とは看護師、理学療法士、作業療法士をさす。具体的には、看護学科の学生は理学療法士、作業療法士のいずれかに同行し、理学療法学科および作業療法学科の学生は看護師に同行し、各職種専門性を理解する。他の医療専門職と行動を共にして業務を体験することにより、他の医療専門職の視点から自分の目指す専門職の理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療専門職の役割・機能について、施設の機能と関連させた説明ができる。 2. 他の医療専門職との同行体験を通して、自分が目指す職業の専門性を説明できる。 3. 他の医療専門職との連携に必要な能力について、学内学習および実習を踏まえて自分の意見を述べるができる。 4. 医療人としての倫理的態度に基づく行動をとることができる。 		
関連科目	保健医療総論 1, 保健医療総論 2, 保健医療総論 4		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	実習状況	45%	<ul style="list-style-type: none"> ・実習状況評価表と教員評価表(ルーブリック)により評価する。 ・評価の対象は実習への参加状況、事前学習、グループ学習・報告会への取り組み姿勢、および学習目標への到達状況である。
	個人学習・グループ学習・報告会・提出物	55%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は、事前オリエンテーションで配付される学習要項で確認する。 ・COVID-19 感染状況等により、学習方法等を変更する場合がある。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	講義・グループ学習	今野・坂上・浅利・田代・(清水)・(加藤)・(三上)・(中島)・(柿澤)
2	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
3	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
4	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまと	講義	〃

	ける。	め。施設実習準備		
5	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受ける。	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまとめ。施設実習準備	〃	〃
6	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	実習	今野・坂上・浅利・田代・堀口・丹野・中村・森元・原田・青木・村川・小川・竹内
7	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
8	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
9	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
10	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
11	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	グループ 学習	〃
12	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	〃	〃
13	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
14	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
15	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃

授業科目	保健医療総論 4	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	城丸瑞恵、渡邊耕太、池田望、宇野智子、田口裕紀子、岡田尚美、井平光、根木亨、横山和樹、植木瞳、中島そのみ、岩本えりか、他		
概要	健康障害を持つ対象へのインタビュー、対象者評価、支援計画の立案を通じて、多職種連携の意義と方法について理解することができる。また、グループ討議に能動的に参加して自職種及び他職種の特性・専門性・役割について考え、その内容についてグループ間で共有して深めることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの多職種連携に関する知識を踏まえ、異なる専門領域と協働した対象者への実践的なアプローチを通して、多職種による連携の重要性を説明することができる。 2. 礼節ある対応をおこない、対象者の安全・安心に配慮できる。また、意図的な情報収集から支援計画を作成する過程において、グループでの合意を見出すために、自分の意見を述べ、相手の意見に傾聴できる。 3. 自職種及び他職種の特性・専門性・役割について説明できる。 4. 健康障害を持つ対象者へのインタビュー、評価、目標・支援計画の立案を通して、専門職種間でどのように協働して目標を達成するか説明できる。 5. 医療人を目指すものとして、真摯な姿勢で学習に参加し、多様な価値観を尊重することができる。 		
関連科目	保健医療総論 1・2・3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	60%	レポート評価は項目に沿った記載内容、ルーブリックを通して行う。 活動状況の評価はグループワークでの発言頻度や内容を通じて行う。
	活動状況	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	保健医療総論学修ガイドブックを持参すること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備① ・事前情報を基に疾患の理解、生活状況のイメージを得る	事後：症例の疾病、障害について調べる	講義・演習	担当教員 全員
2	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備② ・インタビュー方法や各学科のアセスメント(評価)方法について学ぶ	事前：アセスメント・ 評価方法について調べる 事後：演習内容を整理する	〃	〃
3	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビュー準備 ・インタビューの内容・方法についてグループで検討する	事前：なし 事後：インタビュー内容の見直し	〃	〃
4	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューの実際 ・対象者に来学してもらい、インタビューを行い、支援に必要な情報を収集する	事前：なし 事後：インタビュー結果の整理	〃	〃
5	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューのまとめ ・インタビューを行った内容についてまとめる	事前：なし 事後：まとめたインタビュー内容の整理	〃	〃
6	健康障害をもつ人への支援の検討① ・インタビュー内容から、対象者の全体像を把握する	事前：なし 事後：グループで共有された全体像を	〃	〃

		整理		
7	健康障害をもつ人への支援の検討② ・アセスメント(評価)を行い、支援を必要とする問題点や対象者の利点を明らかにする	事前：なし 事後：対象者の問題点や支援内容に対応する文献を確認する	〃	〃
8	健康障害をもつ人への支援の検討③ ・目標を実現するために必要な支援を討議する	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
9	健康障害をもつ人への支援の検討④ ・支援内容、支援方法を明確にし、具体的な作業を行う	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
10	健康障害をもつ人への支援の検討⑤ ・対象者に提示するための準備を行う	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
11	職種の違いによる思考の相違に対する気づき ・グループ討議を通じて、各学科で注目するポイントやアプローチ方法に相違があることに気づき、その背景について考え、相互の職種理解を図る	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
12	健康障害をもつ人への支援内容の発表① ・対象者に来学してもらい、支援内容について発表する	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
13	健康障害をもつ人への支援内容の発表② ・対象者から支援の妥当性、有用性に関するフィードバックを受ける	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
14	健康障害をもつ人へ提供した支援のまとめ ・対象者からのフィードバックをもとに支援内容の再検討を行う	事前：なし 事後：対象者への支援内容に関する文献検討	〃	〃
15	職種の違いによる思考やアプローチの相違に対する気づきのまとめ ・グループ討議を通じて、他職種の理解とともに自己の職種の特性、専門性、役割について再考し、医療におけるチームアプローチの可能性や重要性について考察する	事前：なし 事後：レポートの作成と提出	〃	〃

授業科目	北海道の生活と健康	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 研究室) e-mail : ihira@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村裕二、田代英之、深川周平、飯澤良祐、(森山知洋)、(原文宏)、(山崎幸治)、(木村眞司)		
概要	北海道民の保健医療ニーズに応えるためには、北海道特有の社会的状況や環境の健康に及ぼす影響を考慮する必要がある。本講義では、道民の保健・医療、そして生活と相互作用の関係をもつ北海道の歴史と特有の環境(地域の自然、地形、気候、産業、人口、交通)について学習し、多様な観点から北海道における健康・疾病ならびに保健・医療について学習する。		
到達目標	1. 北海道の生活を理解する多様な視点を説明できる 2. 北海道の歴史、自然と環境の概要を説明できる 3. 北海道の生活と健康のつながりを説明できる 4. 北海道の生活を踏まえた医療保健福祉政策を概説できる		
関連科目	地域看護学概論、地域・環境理学療法学、地域作業療法学、地域作業療法学演習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	
	提出物	30%	
	報告会内容	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野の非常勤講師によるトピックス・バラエティに富んだ構成である。事前に講義に関連する情報をインターネットや本などで収集し、自己の関心事を明確にして参加すること。 ・フォトボイスという手法を用いて学びの共有を行う。フォトボイスとは、地域に暮らす人々が、健康にかかわる様々な角度から地域の暮らしを見つめ、写真(フォト)に収め、写真が意味していることを言葉で説明する(ボイス) ことによって、示された課題をみんなで討議して、強みの発見や問題提起をしていく手法である。 ・各講義を聞きながら、北海道の生活と健康のつながりを考える視点を磨き、フォトボイス作成に生かすこと。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション フォトボイスについてガイダンス 北海道の健康課題	事前：北海道の暮らしの特徴を考える 事後：関心事をまとめる	講義 演習	井平・中 村・田代・ 飯澤
2	北海道の気象 北海道の気象プラス一天気と健康を考える一	事前：北海道の気象について情報収集 事後：学びのまとめ	講義	(森山)
3	北海道の交通と産業 北海道の交通と地域づくり	事前：北海道の交通について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(原)
4	北海道の文化・芸術 モノからみたアイヌ文化	事前：アイヌの文化について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(山崎)
5	北海道の文化・芸術 北海道の医療の歴史	事前：札幌大の歴史について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(木村)
6	北海道の暮らしと健康 活動と暮らし	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧 事後：学びのまとめ	〃	井平
7	北海道の暮らしと健康 北海道の健康とまちづくり	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧	〃	深川

		事後：学びのまとめ		
8	フォトボイス報告会	事前：フォトボイスの作成 事後：レポート作成準備	演習	井平・中 村・田代・ 飯澤

授業科目	地域医療合同セミナー1	1 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	磯山 響子 (教育研究棟 7 階 D712) e-mail : isoyamak@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山響子、三原弘、長南行浩、杉村政樹、(相馬仁)、他(地域医療合同セミナー企画運営委員会委員)		
概要	<p>本科目は、医学部との合同カリキュラムである。地域医療を展開する上で必要となる基本的な知識と、パートナーシップを形成する基本的態度を獲得し、北海道が抱える保健医療課題への理解を深める。また、講義、演習、地域医療基礎実習を通じて、地域における多職種連携と地域住民との双方向コミュニケーションを実践的に学ぶ。</p> <p>学科・学部を越えた学生同士のディスカッション、地域保健医療スタッフおよび住民との関わりを通じて、地域の特性や社会的背景、健康課題に関心を持ち、自発的な学修によって深い理解を得ること、他者の受容と共感的態度を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 北海道の地域性、地域に暮らす住民の生活を理解し、地域医療に必要な基本的な知識を獲得する <ol style="list-style-type: none"> 北海道地域の人口構造と地域を支える産業構造を説明できる 地域の特徴を踏まえ、医療・福祉の関連を説明できる パートナーシップを形成する基本的態度を身につける <ol style="list-style-type: none"> 自己と他者の客観的理解に努めることができる 基本的信頼関係を構築できる態度をとることができる 基本的なコミュニケーション技能を身につけ、良好なコミュニケーションが取れる グローバルな視点を身につける <ol style="list-style-type: none"> 世界の地域医療の現状と課題を理解し、説明できる 世界事情に照らし合わせて、北海道の地域医療の特徴・課題を考え、説明できる 		
関連科目	北海道の生活と健康		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	その他の評価には、能動的な学修態度や、演習における姿勢・積極性・協調性などを含む。
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 埼玉県立大学 (編) [2006] 「IPW を学ぶ：利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 日本国際保健医療学会 (著) [2013] 「国際保健医療学」 杏林書院 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会 (監修) [2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を展開する上で必要な基本的知識と態度を獲得することを目的としているので、講義を聞いて理解するという参加の仕方ではなく、自己学習において自ら情報収集・調査を行ったり、積極的な態度でワークショップ等の演習に参加することが求められる。 ・事前・事後学習については、各講義の前後に指示を出すことがある。授業内および学生サポートシステムで適宜通知する。 ・履修学生全員での「現地実習」は本科目では実施しない。参加可能な現地実習があれば、随時案内し参加者を募集する(正課外実習の扱いとなる) 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
-----	-----	---------	----	------

1	コースオリエンテーションとイントロダクション、北海道の地理的特徴と地域医療概論	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	磯山
2	北海道地域の暮らし：北海道地域の生活等に関する基礎知識	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
3	北海道地域医療総論：北海道地域医療の特徴、地域の医療政策について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
4	他者と関わる技法、チームワーク：他者と関わる技法、チームワークについて演習を通して学ぶ	事後：自身の課題を授業内で明らかにする。	講義・演習	〃
5	北海道地域医療概論：道東の地域医療の特徴と課題、連携と実践例	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義・演習	非常勤講師(川本雅樹)
6	地域介入研究紹介：高齢者を対象とした地域介入研究の成果	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(未定)
7	世界の地域医療事情と多職種連携概論：特に多くの地域医療課題を抱える国の事情と多職種連携と実践について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(浅井悧)
8	事例による多職種連携理解：地域における保健医療福祉連携の実際	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(岩永輝明)
9	地域の健康課題に対する取り組み：道東地区における医療福祉連携と実践	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(藤田泰)
10	地域医療ワークショップ①	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	講義・演習	磯山・非常勤講師(未定)
11	地域医療ワークショップ②	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
12	地域医療ワークショップ③	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
13	地域医療ワークショップ④	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
14	振り返り・総括① 報告会準備	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	演習	磯山
15	振り返り・総括② 全体報告会	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー2 (自由選択)	2 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	長南行浩 (教育研究棟 7 階 D706) e-mail : y-osanami@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	長南行浩、磯山響子、三原弘、杉村政樹、大浦麻絵、木島輝美、村上孝徳、(相馬仁)、(松永卓也)、(尚和里子)、(西田タ子)、(地域スタッフ)、地域医療合同セミナー企画運営委員会委員		
概要	本科目は医学部との合同カリキュラムである。地域医療合同セミナー1 では、北海道遠隔地域の住民の生活様式、医療事情等を学んだ。本科目は地域医療合同セミナー1 に引き続く内容で、地域における健康課題に焦点を当て、一次予防を実践する。そのためにヘルスプロモーションの概念、ライフステージに関連した健康問題について学修する。北海道の地域課題を探り、健康推進のための方策を計画するプロセスを学ぶ。地域住民(対象は、子供から高齢者)に対して、健康教育を実践する。能動的に地域に深くかかわることにつながる。		
到達目標	<p>1. 地域における健康課題の理解</p> <p>①北海道遠隔地域の地域性にも関連付けて、住民の健康課題について説明できる</p> <p>②北海道地域の保健医療システムを説明できる</p> <p>2. 生活習慣病予防を目的とした課題への対応</p> <p>①地域の健康増進、疾病予防を目的とする活動を説明できる</p> <p>②ヘルスプロモーションの概要と目的を理解し、健康教育を計画できる</p> <p>③共感的態度で、地域住民と接することができる</p> <p>3. 能動的な学修態度の獲得と多職種連携の理解</p> <p>①学習を進めていく上で、および健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の準備の中で自身の課題に気づき、自分の力で解決する方法を見出せる</p> <p>②多職種が有機的に連携し、問題解決をする事例について、自分の言葉で説明できる</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会 (監修) [2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社</p> <p>②福田洋、江口泰正(編集) [2016] 「ヘルスリテラシー 健康教育の新しいキーワード」 大修館書店</p> <p>③宮坂忠夫、吉田亨、川田智恵子(著) [2013] 「健康教育論(最新保健学講座)」 メヂカルフレンド社</p>		
履修上の留意点	<p>・地域医療合同セミナー1(1 学年)からつながる内容であるが、地域医療合同セミナー1 を履修していなくても履修は可能である。しかし、地域医療合同セミナー1 の内容を自習で補う必要がある(科目責任者から指示がある)。</p> <p>・事前・事後学習については、適宜、授業内および学生サポートシステムで通知する。</p> <p>実習では、北海道内の諸地域に赴き、地域住民への健康教育(健康教室・メディカルカフェ)を学生が主体となって企画・運営する。日程は随時決定となるが、土日祝日、夏季休暇を含む可能性がある。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	<p>オリエンテーション</p> <p>①教育内容、到達目標、年間計画</p> <p>②学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の概要説明</p>	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義	長南

2	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ①内科的疾患の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(松永)
3	ヘルスプロモーションの理論と実践① 健康教室の実践例	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(尚和)
4	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ②老化による認知機能低下と病的な低下	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	木島(保健 医療学部 看護学科)
5	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ③運動機能の老化の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	村上(医学 部)
6	実習(学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ))オリエンテーション	事後：実習に取り組むための自己学習	講義・演習	長南
7	ヘルスプロモーションの理論と実践② 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(講義)	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義・演習	大浦(医学 部)
8	ヘルスプロモーションの理論と実践③ 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(演習)	別途通知あり	〃	大浦(医学 部)
9	ヘルスプロモーションの理論と実践④ 介護専門職から見たヘルスプロモーションの在り方	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(西田)
10	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
11	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	〃	〃
12	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)①	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	実習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
13	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)②	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	〃	〃
14	実習振り返り	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：報告会準備	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
15	報告会(成果発表)	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：レポート作成	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー3 (自由選択)	3 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	三原 弘 (医療人C教育開発研究部門 教員室 e-mail : h.mihara@sapmed.ac.jp)	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	杉村政樹、磯山 響子(医療人育成センター 教育開発研究部門)		
概要	<p>本科目は、医学部との合同カリキュラムであり、1・2 年次に開講された「地域医療合同セミナー1・2」の積み上げ科目である。北海道の地域医療におけるシステム理解と連携について学ぶと同時に「地域包括ケアシステム」「北海道地域医療構想」についても学修する。「地域密着型チーム医療実習」(正課外)では医学部・保健医療学部の学生が混成チームを組み、モデル地域(根釧地区、留萌地区など)に滞在し、実習を行う。また、地域に在住する住民をケースとして健康づくりにおける支援策を検討する。</p>		
到達目標	<p>学修到達目標(コンピテンシー)は以下のとおりである。</p> <p>1. 「システムに基づいた地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識・態度を習得し支援できる」</p> <p>①北海道が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康課題に対し介入方法を考案できる。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解し、支援する方策を考えることができる。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法論を説明できる。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムの概要を説明できる。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を提示できる。</p> <p>2. 「パートナーシップを形成する基本的姿勢を習得し実践できる」</p> <p>①他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を示すことができる。 ②自己の専門性および他職種の役割を認識し、チーム医療の重要性を認識できる。 ③地域で暮らす人々と対話するスキルを習得し、実践できる。 ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見を発言することができる。</p> <p>3. 「能動的な学修態度を獲得し実践できる(自己主導型学習)」</p> <p>①小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べることができる。 ②課題に対して関心を持ち、能動的に学ぶプロセスを体験し、自己主導型学習を実践することができる。</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1・地域医療合同セミナー2・地域医療合同セミナー4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	
	成果発表	20%	
	その他	30%	
教科書	①指定しないが「評価方法」の備考を参照すること [***] [***] ***		
参考書	①磯部 光章 [2011] 「話を聞かない医師 思いが言えない患者」 集英社(新書) ②中根 晴幸 [2016] 「次代を担う医療者のための地域医療実践読本」 幻冬舎 ③自治医科大学(監修) [2009] 「地域医療テキスト」 医学書院 ④里見 清一 [2015] 「医者と患者のコミュニケーション論」 新潮社(新書) ⑤厚生統計協会 [最新号] 「国民衛生の動向」 厚生統計協会		
履修上の留意点	【予習】 ・地域において患者ケアに参加し得る医療資源と専門職を医療・看護・介護の面から調査すること。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療チームにおける各職種の役割を理解すること。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で得られた知識・経験をまとめ、ふりかえりや報告会発表に反映させること。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域医療合同セミナー1 および2」を受講してきた学生は本科目の受講を勧める。 ・実習の準備および実践は一部のメンバーだけに任せないこと。グループ全員が行い知識を共有する必要がある。(演習参加への姿勢・態度についての評価の比重が高いため留意すること) ・「定型的」な教科書は指定しないが、北海道保健福祉部のホームページ内の「北海道地域医療構想」のサイトを随時参照されたい。 ・COVID-19 の状況により、シラバスの変更を行うことがある。その場合は、あらかじめ履修学生に提示・説明するものとする。
--	--

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	コースオリエンテーション	事前：地域医療総論、事後：各自の課題検討	講義	三原・杉村
2	システムとしての地域医療 (1)	事前：地域医療と行政、地域医療を構成する職種、事後：各自の課題検討	講義	杉村
3	システムとしての地域医療 (2)	事前：医療計画・医療連携、事後：各自の課題検討	講義	三原
4	システムとしての地域医療 (3)	事前：保健制度概要、地域医療構想、事後：各自の課題検討	講義	杉村
5	システムとしての地域医療 (4)	事前：地域包括ケアシステム、事後：各自の課題検討	〃	〃
6	医療面接導入	事前：医療面接と患者コミュニケーション、事後：各自の課題検討	演習	三原
7	地域の安心安全を守る医学	事前：地域における予防医学、事後：各自の課題検討	〃	〃
8	患者との対話ワークショップ (1)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	演習	寺田
9	患者との対話ワークショップ (2)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	〃	〃
10	北海道の地域医療を学ぶ (1)	事前：北海道における地域医療 (道北)、事後：各自の課題検討	講義・演習	三原
11	北海道の地域医療を学ぶ (2)	事前：北海道における地域医療 (道東)、事後：各自の課題検討	〃	〃
12	北海道の地域医療を学ぶ (3)	事前：北海道における地域医療 (道南)、事後：各自の課題検討	〃	〃
13	北海道の地域医療を学ぶ (4)	事前：北海道における地域医療 (札幌)、事後：各自の課題検討	〃	〃
14	地域医療における医療面接	事前：地域医療における患者中心の医療面接、事後：各自の課題検討	演習	〃
15	課題発表会・質疑応答	事前：課題発表会・質疑応答、事後：振り返りレポート	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー4（自由選択）	4 学年・前期・1 単位（30 時間）	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	杉村 政樹（教育研究棟7階 D709） e-mail : sugimura@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山 響子(医療人育成センター教育開発研究部門)		
概要	<p>本科目は、保健医療学部と医学部の合同カリキュラムで、1、2、3年次にそれぞれ開講された「地域医療合同セミナー1～3」の積み上げ科目である。前年まで学んだ地域医療合同セミナー(地域実習を含む)での学習体験をまとめるとともに、一般住民を相手に発表を行う機会を設ける。地域医療課題に解決に向けた提言などが盛り込まれることを期待する。</p> <p>なお、本科目は「自由選択科目」、かつ、演習・活動時間が「正課外」となることに留意されたい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①地域で健康課題を持つ人の生活について、課題を明らかにし説明し、対応策を検討できる。 ②地域で暮らす人々の健康を支える資源の活用を説明できる。 ③地域社会を健康の視点から捉え、現状の課題とあるべき姿を説明できる。 ④北海道が抱える地域医療の課題とあるべき姿を説明できる。 パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①基本的信頼関係を構築し、コミュニケーションが取れる。 ②自己の専門性および他職種の役割を理解したうえで、良好なコミュニケーションを取り、適切な連携ができる。 ③医療者として必要な能力の上に地域住民と適切に対話できる。 ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自分の意見がもてる。 能動的な学習態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①チームメンバーと協働しながら積極的に自己の意見を述べるができる ②課題に対して関心をもって取り組み、新たな自己の課題を発見できる。 		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー2、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 その他は主として社会人としての「態度」、演習等における「姿勢」「積極性」「協調性」などを重視する。レポートについては事前にループリックを公表する。
	レポート	40%	
	成果発表	50%	
	その他	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、原則「地域医療合同セミナー1,3」(1,3年次)、「医学概論・医療総論3B(地域密着型チーム医療実習)」(3年次)を受講した学生が対象となる。 ・4月中に詳細予定を決定し、連絡する。 <p>参考書は講義内で紹介する。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション(地域医療合同セミナーの教育目的、地域医療合同セミナー4の進め方について)	事前：なし 事後：講義で不明な点を明らかにし、各自で解決する	講義	杉村・磯山
2	グループ作成と活動計画	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り、次回に向けて考えおく	講義・演習	〃

3	成果発表の準備1 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	演習	〃
4	成果発表の準備2 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
5	成果発表の準備3 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
6	成果発表の準備4 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
7	成果発表の準備5 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
8	成果発表の準備6 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
9	成果発表の準備7 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
10	成果発表の準備8 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
11	成果発表の準備9 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
12	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
13	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
14	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
15	振り返り	事前：なし 事後：学生個人で全体を振り返る	〃	〃

授業科目	自主課題実践	1-4 学年・前期・後期・1 単位 (45 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	今野美紀		
概要	大学における学習は学内で行われる授業に限定されるものではない。私たちが生活する地域・社会の諸課題に関心を持ち、1 人の人間として意図的に課題に向き合うことで一定の解答が得られる場合もある。本科目は、教育課程に含まれないボランティアや調査研究のように、学生自身が創造的に取り組む主体的活動の教育的意義を評価するために設けられたものである。個々の学生が現実社会の中から課題を設定し、活動計画を立てて行動に移し、その経過と結果を振り返ることにより、社会に内在する諸問題の改善・改革に向けた方向性を検討し、社会的存在である自身の担う役割を考察する。自主的活動を通じて何を学び、事前の情報収集や計画立案、振り返りやディスカッションを通して知を深め、学習としての成果が認められた場合に単位を認定する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の諸課題の中から、興味関心のあるテーマを設定する。 2. テーマに即して情報収集を行い、学内外の活動に関する計画を立てる。 3. 立案した計画に基づき、学内外での活動を行う。 4. 日々の活動を振り返って言語化し、活動終了後には一連の過程を評価する。 5. 学生同士及び担当教員とのディスカッションを通して、自主課題研究として取り組んだ学びの意味を考察する。 		
関連科目	保健医療総論 1、保健医療総論 2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実施計画	30%	
	実施報告	40%	
	レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	自ら計画を立て、実施し、報告を行うことが求められるため、主体的な行動が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のあるテーマの設定 ・テーマに関する情報収集と分析 ・活動計画の立案 	事前: 興味・関心のあるテーマについての事前調査 事後: 事前調査の整理	自主活動	仙石・今野
6-40	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画に沿った展開 ・活動中は各回の活動報告書を記載する。 	事前: 活動計画の見直し 事後: 計画と実施内容の振り返り	自主活動	仙石・今野
41-45	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を学んだか」をテーマにしたレポートを作成 	事前: 活動内容のまとめ 事後: 活動内容の振り返り	自主活動	仙石・今野

授業科目	キャリアデザイン	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岩本えりか、齊藤秀和、木村恵美子、(杉浦真由美)、(高橋文香)、(加藤拓也)、(三上裕貴)		
概要	医療を取り巻く環境が変化していく中で、専門職に求められる役割や、能力を発揮できる場面も多様化してきている。本授業では、人間性豊かな医療人になるためのキャリアデザインに関する理論を学ぶほか、医療現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得する。さらに、現場で活躍する方々との対話を通して、自身のキャリアデザインについて考える機会とする。		
到達目標	1. キャリアデザインに関する理論を述べることができる。 2. 医療や介護の現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得することができる。 3. 自身のキャリアプランを立案し、発表できる。		
関連科目	看護学概論、看護政策、理学療法概論、理学療法管理・政策学、作業療法概論、作業療法管理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業・ワークの参加度	30%	授業・ワーク：グループ学習の参加状況、質問や発言の状況 リフレクションシート：リフレクションシートの提出状況・内容 キャリアプラン：キャリアプランの発表内容、最終レポート
	リフレクションシート	40%	
	キャリアプラン	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①山崎京子、平林正樹 [2018] 「未来を拓くキャリア・デザイン講座」 中央経済社 ②濱田安岐子 [2018] 「看護師のためのキャリアデザイン BOOK」 つちや書店		
履修上の留意点	・ワークを中心とした授業となるため、主体性・能動性が必要となります。 ・遅刻はワークに影響を及ぼすため厳禁です。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス キャリアデザインとは	事後：リフレクションシート	講義 ワーク	長谷川・岩本・齊藤
2	キャリア理論 ①	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	(杉浦)
3	キャリア理論 ②	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
4	医療現場で求められる接遇とコミュニケーション	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
5	キャリアデザイン：キャリアプランを立案する	事前：キャリアプラン立案準備 事後：リフレクションシート	ワーク	岩本・齊藤・木村・長谷川
6	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ①	事前：授業内で指示	講義	(高橋)・(加藤)・(三上)・齊藤・岩本・木村・長谷川
7	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ②	事後：リフレクションシート	〃	〃

8	キャリアデザイン：キャリアプランを発表する	事前：キャリアプラン発表準備 事後：リフレクションシート	発表	岩本・齊 藤・木村・ 長谷川
---	-----------------------	---------------------------------	----	----------------------

授業科目	基礎看護実習 1	1 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	堀口雅美 (保健医療学研究棟 E309 号) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野智子、中村円、石貫智裕、飯澤良祐、他		
概要	本科目では療養者の生活の場である病院環境の見学、看護師の看護活動の見学および可能な看護活動への参画、療養環境にいる対象者との会話をします。そして、病院環境、看護の役割、療養環境にいる対象者の生活行動や健康に関する心情を考察し、看護の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について体験を通して理解を深める。また、学生看護師としての倫理的な学習姿勢について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院見学を通して病院の構造と機能を知り、学んだことを説明できる。 2. 病棟見学を通して病棟の構造と機能を知り、学んだことを説明できる。 3. 看護師の看護活動の見学と可能な看護活動へ参画し、病棟における看護の役割機能について学んだことを説明できる。 4. 療養環境にいる対象者と会話場面から、生活行動のあり方や健康に関する心情を知り、学んだことを説明できる。 5. 体験をした内容をもとに「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について考察し、説明できる。 6. 主体的に学習し、学生看護師として責任ある行動をとることができる。 		
評価	実習評価表(ループリック)に基づいて、学内および病院・病棟における実習状況(42%)と提出物(36%)・発表会の内容(22%)(計 100%)に関して、目標到達度を評価する。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修の前提として、事前準備ができていないことを条件とする。事前準備の内容は別途、連絡する。 2. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとる。 3. 実習中は実習専念義務を負うため、原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体オリエンテーション、看護部長の講義を受ける。 2. 「連携」に関連した講義を受ける。 3. 病院見学はグループに分かれて見学をする。 4. 病棟見学はグループに分かれて、配置された病棟でのオリエンテーションを受ける。 5. 看護師の看護活動の実際を見学し、看護師の指導のもとで可能な看護活動に参画する。 6. 療養環境にいる対象者との会話場面を通して、療養生活のあり方や健康に関する心情を知る。 7. 体験した内容を学内で発表し、学生間で共有する。 8. 実習終了後に学びを整理し、今後の課題を明らかにする。
実習期間	2025 年 1 月下旬(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院 16 病棟(予定)
実習時間	基本的に 8:30～17:00 である。ただし、開始と終了時刻は実習病棟、学習内容、および学習状況によって異なる場合がある。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部長の講義を聴く。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院の役割機能および組織形態を知る。 2) 専門職としての看護者の責任を知る。 2. 「連携」に関連した部署の講義を聴く。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師と医師との連携について知る。 2) 院内と院外との連携・調整活動の実際を知る。 3) リハビリテーションの役割と課題を知る。 3. 病院見学(制御部門、放射線部門、リハビリ部門、外来部門)をする。 4. 病棟見学をする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 配置された病棟に関する特徴、構造および機能を知る。 5. 看護活動の見学と可能な看護活動へ参画する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師と共に行動し、1日の看護活動の状況を知る。 2) 看護師と共に行動し、可能な看護活動を看護師の指導のもとに体験する。 6. 療養環境にいる対象者と健康に関する会話をする。あるいは看護師と対象者の会話場面に同席する。 7. 各自が体験した内容とそれについて考えたことを学内の発表会で発表し、意見交換を行う。 8. 体験をした内容を整理し、今後の課題を明らかにする。
------	---

授業科目	基礎看護実習 2	2 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	堀口雅美 (保健医療学研究棟 E309 号) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野智子、中村円、石貫智裕、飯澤良祐、他		
概要	本科目では担当患者との相互作用を通して、療養環境にある対象者の生活行動のあり方や健康に対する認識を深めるとともに、既習の学習内容をもとに担当患者を中心に、学生指導看護師とともに日常生活看護実践に参画する。安全を守り安楽を導き、自立と自律を支えるための個別的な看護援助の体験を通して具体的に、かつ、さまざまな看護実践のあり方を学び、看護および看護職者に対する洞察を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当患者を中心に、看護の対象者と援助関係を築くことができる。 2. 担当患者に必要な看護について、学生指導看護師の思考過程を学びながら明らかにし、実施できる。 3. 担当患者を中心とする保健医療チームの役割を説明できる。 4. 担当患者以外の看護の対象者に対し、学生指導看護師とともに看護活動に参画できる。 5. 対象者と倫理的にかかわるとともに自己の行動を振り返り、内容を説明できる。 6. 看護チームの一員としての意識をもって主体的に、かつ責任ある行動をとることができる。 		
評価	実習評価表(ルーブリック)に基づいて、実習状況(51%)と提出物・発表会の内容に関する目標到達度(49%) (計 100%) を評価する。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修の前提として、事前準備ができていないことを条件とする。事前準備の内容は別途、連絡する。 2. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとる。 3. 実習中は実習専念義務を負うため、原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1～2名の入院患者を担当し、学生指導看護師とともに日常生活に関する看護実践に参画する。 2. 3～4名のグループに分かれ、成人系病棟で2週間実習する。 3. 週に1度の予定で学生の報告会を行う。 4. 学習状況は毎日、所定の用紙に記録する。 5. 基礎看護実習2の実習ファイル、および看護学実習ポートフォリオを毎日持参する。 6. 実習終了後、テーマに沿って実習で学んだことを発表する。 7. 実習終了後、まとめを提出する。
実習期間	2025年1月～2月(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院 14病棟(予定)
実習時間	基本的に9:00～15:00である。ただし、開始と終了時刻は実習病棟や学習状況によって異なる場合がある。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当患者を中心に、コミュニケーションを通して援助関係を築く。 2. 学生指導看護師の思考過程を学びながら、担当患者に必要な看護を明らかにし、実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当患者に必要な看護の内容について、学生指導看護師の考え方を学びながら自らの考えを明らかにする。 2) 担当患者に必要な看護援助を計画し、学生指導看護師および担当患者と調整する。 3) 既習の看護技術を用いて、担当患者に対する日常生活援助を学生指導看護師とともに実施する。 4) 担当患者への看護実践を振り返る。 3. 担当患者を中心とする保健医療チームの役割を理解し、チームの一員として行動する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養部門の講義を聞き、看護部門との関連を知る。 2) 担当患者を中心とした保健医療チームの役割を知り、メンバーとして行動する。 4. 担当患者以外の看護の対象者に対し、学生指導看護師とともに看護活動に参画する。 5. 対象者と倫理的にかかわり、自己の行動を振り返る。 6. 看護チームの一員としての意識をもって主体的に、かつ責任ある行動をとる。
------	--

授業科目	成人看護実習 1	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学部研究 E210 号) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口裕紀子、小木曾寛樹、他		
概要	成人期にある個人が手術・麻酔によってもたらされる心身の侵襲から速やかに回復しセルフケア能力が発揮できるように、個人とその家族に対して倫理的視点に基づき必要な看護を実践する能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期から回復期に至る患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践について評価することができる。 患者の安全を守り、患者の状態に適した安楽・自立・自律を考慮して(指導の下)援助することができる。 実践における人間関係の重要性を認識し、患者とその家族の心理状態に応じた関わりがもてる。 急性期から回復期に至る患者とその家族に対し、生活の視点から、回復を促進するために必要な教育的働きかけができる。 医療チームの一員として、患者とその家族に対する継続看護の必要性を述べるができる。 看護学生として責任をもち、倫理的側面を考慮した行動をとることができる。 		
評価	実習状況およびレポートにより評価する。 ・実習状況(93%)については、実習記録、実習態度、実習内容、等を統合し、評価表に基づき評価する。 ・レポート(7%)については、内容の到達状況により評価する。		
履修上の留意点	成人看護方法 2、成人看護方法 4 の単位を取得していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 4 名前後のグループに分かれ、外科系病棟において 3 週間実習する。外科的療法を受ける患者 1 名を受け持ち、臨床指導者の指導のもと、周手術期における看護を実践する。適宜、カンファレンスを開催する。 受持ち患者が手術の際は、手術室において見学実習を行う。 ICU 病棟または高度救命救急センター病棟において見学実習を行う。 実習終了後に実習記録とレポートを提出する。
実習期間	9 月末～翌年 1 月末予定
実習場所	札幌医科大学附属病院の外科病棟、および手術部門、ICU 病棟、高度救命救急センター病棟
実習時間	基本的に 9:00～17:00 である。ただし、学習状況および受持ち患者の状況により変更がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 周手術期にある受持ち患者に対し、必要な看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> 外科的治療に伴う身体的侵襲や心理的緊張、状態変化を予測してアセスメントを行う。 臨床指導者の指導のもと、生理的機能の維持や心理的安定のための援助を行う。 機能障害とその回復の程度を判断し、回復過程を促進する援助計画を立案し実施する。 患者の状態変化にあわせて再アセスメントし、計画を修正する。 治療・処置やケアに対する患者、家族の意思を知り、援助関係を構築する。 病棟・手術室・集中治療部門の継続看護、手術室における術中看護の 実際について知る。 集中治療部門、高度救命救急センターの看護の特徴について知る。 医療チームの一員として、また看護学生という社会的立場を踏まえ、責任を持って行動する。 学内および病棟カンファレンスを通し、体験した看護現象について洞察する。

授業科目	成人看護実習 2	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学研究棟 E210 号) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木村恵美子、小木曾寛樹、他		
概要	<p>既習の知識・技術を応用し、健康課題をもつ成人と家族への具体的な看護実践を通して、慢性疾患とともに生活する人への看護を学習する。病状・治療と生活との相互性、現在に影響を及ぼす過去の病い体験の意味を考察し、多角的理解を看護に反映させる実践を学ぶ。</p> <p>この実習は、入院中の慢性疾患をもつ患者とその家族が、症状コントロールや社会復帰に向けてセルフケア能力を発揮し、全人的健康を回復できるよう、必要な看護を実践する基礎的能力を養うことを目的としている。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の健康課題を把握し、個別的な看護計画を立て、実践について評価することができる。 2. 患者の安全・安楽を守り、患者の状態に適した自立・自律を考慮して援助することができる。 3. 実践における人間関係の重要性を認識し、患者とその家族の心理状態に応じて関わるすることができる。 4. 患者とその家族に対し、生活の視点からセルフケアに必要な教育的支援ができる。 5. 多職種・他領域との連携の実際を知り、包括的医療の必要性を述べることができる。 6. 看護学生として責任をもち、倫理的側面を考慮した行動をとることができる。 		
評価	<p>実習状況(95%)、レポート(5%)により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況については、実習記録、実習態度、実践内容を総合し、評価表に基づき評価する。 ・レポートについては、提出状況及び記述内容により評価する。 		
履修上の留意点	成人看護方法 3、成人看護方法 4 の単位を取得していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 名を受け持ち、看護過程に沿って看護を実践する。ただし、患者の状況により受け持ち患者が途中で変更する場合がある。 2. 3~4 名のグループで、内科系病棟で 3 週間の実習をする。 3. 学内カンファレンスは毎日 30 分~1 時間、病棟カンファレンスは 2 週目と 3 週目に各 1 回 45 分間行う。 4. 実習記録は所定の用紙に記載する。 5. 実習最終日にレポート・看護過程の記録・実習中の記録を提出する。
実習期間	10 月から翌年 1 月下旬の間の 3 週間
実習場所	札幌医科大学附属病院
実習時間	9 時から 17 時までとする。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者及びその家族と目標を共有し、個別性のある看護計画を立案し実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それまでの病いの経過と今後への思い・希望を意識した患者理解、今後の見通しを予測したアセスメントを行い、患者と目標を共有した看護計画を立案する。 ・立案した看護計画を患者の安全・安楽、自立・自律に配慮し、方法を吟味しながら実践する。 ・実践した看護の評価及び計画の修正を行い、個別性のある看護を目指す。 2. 実践における人間関係の重要性を認識し、患者と家族の心理状態に応じて関わる。 <ul style="list-style-type: none"> ・病いの経過の文脈から現在の患者及び家族の心理状態を予想し、対象者を尊重した態度で関わる。 ・患者・家族と自己の関わりを振り返り、援助的関係性の構築について吟味する。 3. 病気とともに生活する患者とその家族に対し、個別性に注目しながら、セルフケアに必要な教育を含む支援活動を行う。 4. 社会生活に向けて必要な医療・福祉について、関係領域との連携を検討する。 5. 看護学生としての責任を理解し、患者と家族および医療の現場における倫理性を意識して行動する。 6. 患者ケア、カンファレンスへの参加を通して、自己の考えを他者と共有し考察を深める。
------	---

授業科目	老年看護実習 1	3 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、他		
概要	介護保険の通所サービス等を利用する高齢者とのコミュニケーション、活動の参加観察を通して、老年期にある人の心身の特徴を理解し、高齢者の価値・信念を尊重した態度を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の機能に適したコミュニケーション方法を実践できる。 2. 加齢による身体的・心理的・社会的変化の特徴と通所サービス利用の意義を説明できる。 3. 高齢者の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の課題を説明できる。 4. 高齢者の価値・信念を尊重した援助の重要性を説明できる。 5. 看護学生として責任ある行動をとり、主体的に学習に取り組むことができる。 		
評価	実習目標の達成度(目標 1~5 について各 20%)をルーブリック評価表を用いて評価する。評価対象は、実習状況、実習態度、カンファレンス参加状況、記録およびレポートの記載内容である。ルーブリック評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	老年看護方法の単位を修得していることが、本実習の先行要件となる。 原則として、遅刻、欠席、早退を認めない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前連絡する。 実習要項は別途、配付する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3~6 名のグループを編成し、デイケア(通所リハビリテーション)またはデイサービス(通所介護)において 1 週間実習する。 2. 受持ち利用者を決めずに、施設プログラムに沿って積極的に利用者とかかわる。 3. 臨地実習での体験内容と学びは、毎日、所定の用紙に記録する。 4. 実習最終日は、学内においてまとめのカンファレンス、報告会を実施する。 5. 実習終了後に実習記録および課題レポートを提出する。
実習期間	9 月中旬の 1 週間
実習場所	札幌市内のデイケア、デイサービス等の介護保険通所サービス施設
実習時間	原則、9 時~17 時とする。ただし、実習施設により変更する場合がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設のプログラムに参加しながら高齢者と積極的にコミュニケーションをとる。 2. 高齢者の生活背景、価値・信念を理解するために、利用者のライフストーリー・インタビューを行い、考察する。 3. 高齢者の健康上の課題を理解するために、施設におけるケア提供場面や専門職の活動を参加観察する。 4. 施設カンファレンスを適宜行い、学びを深め共有する。 5. 実習での体験内容は所定の用紙に記録し、実習目標に沿って考察する。 6. 実習最終日に学内カンファレンスを行い、学びを共有し、意見交換を行う。 7. 実習目標 1~4 に対する学びを考察しレポートにまとめる。

授業科目	老年看護実習 2	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、他		
概要	加齢と疾病により病院または施設において療養生活を送る高齢者を受け持ち、その人らしい自立した生活を支援するために必要な看護を実践する能力を養う。具体的には、加齢や疾病のみならず高齢者のそれまでの人生が生活機能に与える影響にも着目し、その人の生活習慣や価値観などを尊重し持てる力を活かす看護を実践する。また高齢者の療養生活を支える各種施設や関連職種との連携、看護実践のなかで生じる倫理的課題における看護の役割について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者やその家族との援助関係を築くことができる。 2. 加齢による変化と疾病を抱えた高齢者の日常生活の状況をアセスメントし、高齢者の強みを活かした看護計画を立案し、実践について評価することができる。 3. 高齢者に対し安全・安楽を考慮した看護援助の実践ができる。 4. 医療・福祉サービスなどの関連職種との連携の重要性を理解し、チームの一員として行動できる。 5. 高齢者やその家族を援助する際の倫理的課題について考えることができる。 6. 看護学生としての責任ある行動をとり、主体的に学習に取り組むことができる。 		
評価	各実習目標の達成度(目標 1・4・5 : 各 10%、目標 2 : 35%、目標 3 : 20%、目標 6 : 15%) をルーブリック評価表を用いて評価する。評価対象は、実習における態度・準備状況、指導に対する応答状況、受持ち高齢者への看護実践状況、カンファレンス参加状況、記録物およびレポートの記載内容である。ルーブリック評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	老年看護方法の単位を修得していることが、本実習の履修要件となる。 原則として遅刻、欠席、早退を認めない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前連絡する。 実習要項は別途、配付する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～5名の学生グループで、病院または介護老人保健施設において3週間実習する。 2. 原則として1名の高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。 3. 実習施設において、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス等を適宜行い、グループで学びを共有する。 4. 学内実習では、受持ち高齢者のアセスメント、看護計画の立案等について、適宜、個別指導を行う。 5. 実習記録は所定の用紙に記録し、課題レポートとともに、指定された期日までに提出する。
実習期間	9月下旬～翌年1月下旬の期間で3週間で4クールでローテーションする。
実習場所	札幌市内の病院または介護老人保健施設
実習時間	原則、9時～16時とする。ただし、実習施設により変更する場合がある。

<p>実習内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助関係の構築 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者やその家族の状況に応じて意図的に援助関係を築く。 2) 高齢者の人生の価値を認め、尊敬の念をもって関わる。 2. 看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の加齢変化と疾患、発達課題、生活習慣、価値観や生活歴の観点から日常生活の状況をアセスメントする。 2) 1) のアセスメントに基づき、必要な健康課題を特定する。 3) 高齢者と家族のこれまでの生活と将来像をふまえて援助の方向性を決定する。 4) 個々の高齢者の強みを活かした看護計画を具体的に立案する。 5) 立案した看護計画に基づいて実践した看護援助を評価して次の計画に反映する。 3. 看護援助の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護援助行為は基本原理・原則に基づいて実施する。 2) 高齢者の身体能力に応じ、安全に配慮した看護援助を実施する。 3) 高齢者の心理的状況に応じ、安楽に看護援助を実施する。 4. 関連職種との連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) チームを構成する職種の役割を理解し、チーム全体が高齢者と家族へより良いケアが提供できるようにチームの一員として相談、調整のための情報交換を行う。 2) 高齢者へのより良いケア提供のために学生自身が実践した家族・他職種間との連携・協働について考察する。 5. 倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者やその家族のプライバシーを守り、倫理的な行動をとる。 2) 看護実践のなかで生じる倫理的課題について倫理原則に照らして考察する。 6. 看護学生としての態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 誠実な態度で対象者やスタッフに接する。 2) 自己の学習課題を明確にし、主体的に学習に取り組む。 3) カンファレンス等を通して、実習体験や学びを共有し、看護の役割を考察する。
-------------	--

授業科目	小児看護実習	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑久江、浅利剛史、他		
概要	様々な健康レベルにある小児と家族を対象に、小児が健康に障害をもつことや入院すること、および集団保育をうけることによって小児とその家族に及ぼす影響を理解する。そして小児と家族に必要な看護活動を通して、小児と家族の看護に必要な基本的実践力を養う。実習場所は病院と保育所であり、具体的な活動として、病院においては新生児期～青年期にある入院患者 1 名以上を受け持ち、看護過程を展開する。そして保育所においては、保育士の取組みや集団における子どもの様子を見学し、集団保育に参加する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある小児と家族と援助関係を築くことができる。 2. 健康障害のある小児と家族に必要な看護を明らかにし、実施できる。 3. 小児を中心とする保健医療・福祉・教育チームの役割を説明できる。 4. 集団保育を受けることによる小児と家族への影響を説明できる。 5. 小児と家族に対して倫理的にかかわり、自己の行動を振り返ることができる。 6. 主体的に学習し、看護学生として責任ある行動をとることができる。 		
評価	実習評価表(ループリック)に基づいて、実習状況(60%)、記録物の提出(40%)を目標達成度に照らして評価する。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションには必ず参加すること。 ・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は事前連絡する。 ・詳細は事前配布する「実習要項」で確認する。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p><病院実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 名以上の小児を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 4 名程度のグループに分かれ、小児病棟(成人混合病棟を含む)等で実習する。 3. 1 週目後半に 1 度約 1 時間の病棟カンファレンスを行う。そのほか毎日、ミニカンファレンスを行う。 4. 学習状況は毎日、所定の用紙に記録する。 5. 行動計画表と看護過程記録は毎日持参する。 6. 実習終了後、作成した書類を整理し、提出する。 <p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 集団保育に参加する。 <p><実習のまとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 学内カンファレンスを行う。
実習期間	2024 年 9 月下旬～12 月中旬まで。5 クールでローテーションする。 1 クール 2 週間単位での実習。 原則、1 週目～2 週目火曜日までは病院実習、2 週目水・木曜日は保育所実習、2 週目金曜日は学内での実習のまとめとなる。
実習場所	札幌医科大学附属病院、北海道立子ども総合医療・療育センター、JCHO 札幌北辰病院、社会医療法人北楡会 札幌北楡病院、札幌医科大学保育所、予定
実習時間	基本的に 9:00～17:00 である。ただし実習先や学習状況、感染流行状況等により変化する。

<p>実習内容</p>	<p><病院実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ちの小児・家族とのコミュニケーションを通して、援助関係を構築する。 2. 看護過程は小児の健康回復、成長発達の促進、及び小児・家族の安寧の3つの視点をもって展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・受持ちの小児と家族の情報収集、アセスメントを行い、看護診断/健康課題を明らかにする。 ・受持ちの小児と家族の看護計画を立案する。 ・受持ちの小児と家族への援助を指導の下に実施する。 ・受持ちの小児と家族に対する看護実践を振り返り、評価する。 3. 受持ちの小児と家族に係わる保健・医療・福祉・教育チームの役割機能を理解し、チームの一員として行動する。 4. 看護実践における倫理を常に意識して行動する。 <p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 集団保育に参加する。 6. 学習した経験をレポートにまとめる。 <p><実習まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 学内カンファレンスを行う。カンファレンスを通して個人の体験や気づきを共有し、看護実践に対する理解を深める。また、カンファレンスの企画運営することにより自主的な学習態度を養う。
-------------	---

授業科目	母性看護実習	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310 号) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	前田 尚美、植木 瞳、中村 彩希子、竹内 彩弥香、(大村 郁子)、(山本 佳奈)、他		
概要	本科目では、妊娠・分娩期および産褥早期の女性とその新生児を対象とし、既習の知識や技術を基盤に対象者の理解とニーズに添った看護実践に必要な基本的能力を養う。具体的には、産後の母子 1 組を受け持ち看護過程の展開を通して、妊娠分娩経過および母子の健康状態の関連をふまえた看護実践を学習する。妊婦および産婦の看護については、実習状況において可能な範囲で体験する。対象者との関わりや日々の実習体験から自己の気づきを通して、看護ケアについての理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち母子および家族と援助関係を築くことができる。 2. 母子および家族の価値・信念やペースを尊重した関わりができる。 3. 母子の健康状態および相互関係を理解し、母子のニーズを説明できる。 4. 周産期の経過および退院後の生活をふまえ、母子とその家族のニーズを説明できる。 5. 母子とその家族のニーズに合った看護を展開できる。 6. 退院後の母子の継続看護の必要性および他職種との連携、社会資源の活用について説明できる。 7. 母子の安全・安楽を考慮した看護実践ができる。 8. 対象者のプライバシーおよび守秘義務を守り、インフォームドコンセントに基づいた行動ができる。 9. 主体的に学習し、看護学生として責任ある行動をとることができる。 10. 実習体験を通して自己の気づきを表現でき、看護の役割について考えを述べることができる。 		
評価	実習状況、実習態度、記録物、カンファレンスでの発言や参加状況から、実習評価表(ルーブリック)に基づいて目標到達度を判断する。各目標の配点は目標 1(援助関係の構築)は 8 点、目標 2(価値信念の尊重)は 10 点、目標 3~6(看護過程・退院後の継続看護)は 29 点、目標 7(安全・安楽)は 8 点、目標 8(プライバシー・守秘義務)は 7 点、目標 9(学習の主体性および責任)は 28 点、目標 10(看護の役割)は 10 点である。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は母性看護方法の単位を取得していなければ履修できない。 ・原則として欠席、遅刻、早退は認めない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は 3~6 名のグループに分かれ、産科病棟で 2 週間実習する。 2. 受け持ち対象者は、原則、正常経過の母子 1 組とするが、帝王切開分娩で順調に経過している母子も含む。 3. 受け持ち母子に実施したケアは、所定の記録用紙にまとめ実習最終日に提出する。 4. 施設内および学内カンファレンスを行い、各実習施設で行った実習体験を共有し、母子看護の学習を深める。
実習期間	9 月から 12 月の中で 2 週間(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院、JCHO 北海道病院、手稲溪仁会病院
実習時間	基本的に 9:00~16:00 とする。ただし実習施設や対象者の状況により変更する。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子(褥婦、新生児)を受け持ち、対象者および家族とのコミュニケーションを通して援助関係を構築する。 2. 褥婦の妊娠・分娩経過をふまえ、母子の相互作用を考慮しながら看護過程を展開する。 3. 新生児については、胎児期および出生時の状態をふまえ、健康状態の観察および基本的な新生児ケアを実施する。 4. 産婦の看護は、可能な限り分娩第1期から4期までとするが、状況に応じて途中からケアに関わることもある。 5. 母親学級などの集団指導については、可能な範囲で見学・参加する。 6. 妊婦のケアは、実習状況に応じて可能な範囲で見学・実施する。 7. NICU 見学実習の機会があれば積極的に参加し、ハイリスク新生児のケア環境や母子分離時の看護について学ぶ。 8. 実習施設でのカンファレンスは、1回以上行い各自の看護体験を共有し実習内容の充実に役立てる。 9. 学内カンファレンスは、実習最終日に行い各実習施設での実習体験や気づきを共有し、看護者に必要な能力および役割について理解を深める。
------	--

授業科目	精神看護実習	4 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	原田由香、小川賢一、(大部美咲子)、(田嶋真紀)		
概要	精神看護実習では既習の知識と技術を活用し、精神障害のある人(以下、対象者)への看護活動を通じて、①対象者と援助関係を形成するコミュニケーション能力、②看護過程において問題解決モデルとストレングスモデルを相補的に展開し実践できる基礎的能力、③チームメンバーと協働して援助を展開できる基礎的連携能力、④対象者のリハビリを支える精神保健医療福祉分野における支援の場、職種に関する理解、⑤精神障害に関わる基礎的な倫理判断力を獲得することをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理社会的困難を抱える対象者と援助関係を形成するための基本的コミュニケーションを実施できる。 2. 心理社会的困難を抱える対象者の健康状態に即して問題解決・ストレングスモデルの双方の視点から看護過程を展開できる。 3. チームで看護を実施するために必要なメンバーシップ、リーダーシップに基づき行動できる。 4. 精神科リハビリテーションに関わる機関・職種・支援活動(プログラムを含む)について説明できる。 5. 精神保健・医療・福祉における人権擁護や倫理的問題の現状を認識し、責任ある行動をとることができる。 6. 学習課題を自ら発見し、実習を通して系統的に探究できる。 7. 実習の体験を通じて心理社会的困難を抱える人のリハビリと看護について自己の意見を明確に述べられる。 		
評価	<p>実習前に面談を行い、ポートフォリオについて教員・指導者と共有し個人の実習目標を確認する。</p> <p>実習の評価は、ルーブリック評価表に基づき、病棟実習看護過程 50%、就労支援・デイケア実習 15%、学習態度 15%、記録物、レポート 20%の配分で、目標到達度を判断する。評価表は開講時に提示する。</p> <p>実習終了時にも面談を行い、自己の到達度、学び、今後の展望を確認する。</p>		
履修上の留意点	原則として遅刻、欠席、早退は認めない。正当な事由によりやむを得ない場合は必ず事前に報告・連絡すること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者とのコミュニケーションをプロセスレコードで再構成する。 2. 精神科病棟で治療を受けている人を受け持ち、チームで看護過程を共有しながら看護を実践する。 3. 学生チームにおいてリーダーシップ・メンバーシップの役割を果たしながらチーム看護を行う。 4. デイケア・就労支援機関を見学し、利用者にストレングスに着目したインタビューを行う。 5. 精神科リハビリテーションに関わる支援プログラムに参加する。 6. 精神科病棟・就労支援施設・デイケアで2週間の期間内に90時間の実習を行う。 7. 実習期間中週に1回、臨床指導者・教員・学生で受け持ち患者について事例検討を行う。 8. 実習終了後、課題レポートを提出する。
実習期間	9月～11月中の2週間(予定)
実習場所	<p>病院実習</p> <p>札幌医科大学附属病院神経精神科、医療法人北仁会 旭山病院、医療法人五風会 さっぽろ香雪病院、医療法人社団心優会 中江病院</p> <p>就労支援施設・デイケア機関</p> <p>白石障がい者就労センター スカイ、就労継続支援B型事業所 ヨベル、こころのリハビリ支援センター、ここリカプロダクション</p>
実習時間	基本的に9:00開始、17:00終了。ただし、実習病棟や学習状況により変化する。

<p>実習内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理社会的困難を抱える対象者と援助関係を形成するための基本的コミュニケーションを実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者と目的をもった言語的・非言語コミュニケーションを展開する。 2) 対象者と自己との関係を客観的に振り、再構成する。 2. 心理社会的困難を抱える対象者の健康状態に即して問題解決・ストレングスマodelの双方の視点から看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメントを行い、健康課題を抽出する。 2) 対象者の健康課題に即した期待される成果を選定する。 3) 期待される成果に応じて、観察・教育・治療的な側面から総合的に看護計画を立案する。 4) 対象者の状況と自己との関係性を考慮しながら計画を実施する。 5) 対象者に実施した看護について、評価を行い、修正を行う。 3. チームで看護を実施するために必要なメンバーシップ、リーダーシップに基づき行動できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者に関わるチームの中でメンバーの役割を取る。 2) 自己のリーダーシップ、メンバーシップの特性を客観的に考え今後の課題を述べる。 4. 精神科リハビリテーションに関わる機関・職種・支援活動(プログラムを含む)について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の対象者にかかわる病院や地域の支援機関における職種の機能・役割を説明する。 2) 自己の関心や疑問をもって活動に参加できる。 3) 利用者を対象にストレングスの視点からインタビューを行うことができる。 5. 精神保健・医療・福祉における人権擁護や倫理的問題の現状を認識し、責任ある行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人情報の保護のルールを遵守した行動がとれる。 2) 人権擁護における自己の責任を自覚し、看護者として適切な行動がとれる。 6. 学習課題を自ら発見し、実習を通して系統的に探究できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な学習内容を自らみつけ取り組むことができる。 2) 体験したことを学びと関連づけて述べるができる。 7. 実習の体験を通じて心理社会的困難を抱える人のリカバリーと看護について自己の意見を述べられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 就労支援活動・デイケアに目的をもって参加する。 2) 就労支援活動・デイケアに参加する利用者、ストレングスの視点からインタビューを行う。 3) 精神障害をもつ人のリカバリーについて自己の意見を述べる。
-------------	--

授業科目	在宅看護実習	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	平野美千代 (保健医療学研究棟 E104 号) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青柳道子、青木亜砂子、深川周平、村川奨、阿部弥喜、他		
概要	在宅における看護活動をとおして在宅看護の特性を理解するとともに、在宅で暮らす療養者や障がい者およびその家族の生活と健康を理解し、在宅における看護の基礎知識、方法、技術を学習する。訪問看護ステーションでは在宅療養者と家族を受け持ち、看護過程の展開の実際を学ぶ。地域包括支援センター、介護予防センターなどの在宅ケアサービスや連携の実際をとおして、ケアを提供している機関のシステムと活動の特性を理解し、関係機関や関係職種とのチームアプローチの重要性と意義について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活する個人、家族の健康と生活に即した援助の実際を体験することができる。 2. 訪問看護ステーションの活動をとおして、提供している機関のシステムと活動の特性を述べるができる。 3. 健康と生活を支える保健、医療、福祉の分野の人々との協働の実際を理解し、チームアプローチの意義について述べるができる。 4. 学生として責任ある行動をとり主体的に学習をするとともに、在宅で生活する人々や援助に関わる人々の価値観や生き方を尊重することができる。 		
評価	実習状況(65%)と記録物、レポートの内容に関する目標到達度(35%)を評価する。ルーブリック評価表に基づき評価する。評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションにおいては1名の利用者について看護過程を展開する。訪問は同一事例に2回訪問し、2回目には指導者の援助活動の一部を指導のもとに実施する。またその他に数例の見学訪問を行う。 2. 2人～3人でグループに分かれ、実習する。 3. 日々のミニカンファレンスおよび実習の総合カンファレンスを行う。 4. 看護過程記録、見学訪問記録、実習全体の体験は体験状況記録に記録し実習終了後レポートと共に提出する。 5. 実習終了後、グループに分かれセミナーを行う。
実習期間	2月中旬の2週間
実習場所	札幌市内及び近郊の訪問看護ステーション13カ所
実習時間	基本的に9時～17時とするが、実習施設の勤務開始、終了時間にあわせ変更することがある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅において療養者および家族とのコミュニケーションをとおして対象者を尊重した関係について学習する。 2. 一連の看護過程をとおして、在宅の療養者及び家族の生活と健康の状況について学習する。 3. 在宅において援助の実施や指導者の援助から継続看護の実際と在宅における看護の特性を学習する。 4. 見学訪問をとおして、年齢、健康レベルや傷病、生活状況等多様な対象者とその看護活動の実際を学習する。 5. 訪問事例をとおして、関係職種や機関との協働の実際やチームアプローチの意義について学習する。 6. 訪問事例や地域で展開されている在宅ケアサービスと関係職種の協働の実際を学習する。 7. 訪問や相談活動の実際から対象者の援助にかかわる倫理的態度を考えた行動がとれるようにする。 <p>なお、実習方法・実習内容についての詳細は開講時に説明する。</p>

授業科目	地域看護実習	4 学年・前期・1 単位 (45 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	平野美千代 (保健医療学研究棟 E104 号) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	平野美千代、青柳道子、青木亜砂子、深川周平、村川奨、阿部弥喜、他		
概要	行政あるいは地域施設の地域看護を実践している分野において、事業及び地区活動に見学・参加・実施することを通して、地域看護の対象理解を深め、活動の実際を学び、地域に暮らす人々の日常生活に沿った健康支援能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす個人・家族の生活と、生活の場である地域の特性について述べることができる。 2. 地域住民の健康の保持増進や疾病予防のために実施される多様な地域看護の支援方法や事業について述べるができる。 3. 地域包括ケアの実際を学び、看護職の役割と責務について述べるができる。 		
評価	実習状況(65%)、記録物、レポート等(35%)を総合し、評価票に基づき目標到達度を評価する。		
履修上の留意点	原則として遅刻、欠席、早退は認められない。体調管理に留意すること。 事前に配布する「実習要項」を熟読し、詳細を確認すること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2~4 人のグループに分かれ、各実習施設を拠点として実習する。5 日間の中に移動日も含める。 2. 様々な保健事業・福祉事業の一つ以上参加する。 3. 様々な健康レベルの個人・家族を 1 例、紹介を受ける、もしくは関わる機会があれば関わる。 4. 共通の健康課題をもつグループ(小集団)を 1 例、紹介を受ける、もしくは関わる機会があれば関わる。 5. 最終日には到達目標に沿ってカンファレンスを行い、学びを確認する。毎日ミニ・カンファレンスを夕方に行い、日々の学びを確認する。 6. 実習終了後、到達目標に沿った学びについて、レポートにまとめ提出する。
実習期間	8 月中の 1 週間
実習場所	北海道内の離島、市町村等の保健センターおよび保健・福祉部門、地域包括支援センター
実習時間	基本的に 9 時~17 時とするが、実習内容および実習施設の勤務開始、終了時間にあわせ変更することがある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々とその家族の健康および生活の実際を把握する。 2. 実習施設における担当地域の概況と社会資源の特徴を学習する。 3. 実習施設における事業の概要や活動の特性を学習する。 4. 地域看護活動について見学および体験し、地域看護を実践するために必要な知識を学習する。 5. 地域住民の生活を支える地域包括ケアシステムの概要を学習する。 6. 地域住民とその家族の生活と健康を支える保健、医療、福祉サービスの実際を学習する。 7. 実習指導者や関係職種との活動から地域看護援助に関わる倫理を学習する。

授業科目	看護統合実習	4 学年・前期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akiihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野智子、田畑久江、浅利剛史、木村恵美子、石貫智裕		
概要	本科目では、看護管理、複数患者看護、夜間看護、外来看護の体験を通して、看護職者としての役割・責任を認識するとともに看護・医療の対象となる人々への理解を一層深め、看護職者に求められる実践能力を養う。また、このような実践の場に参画する実習を通して、看護職者としてのアイデンティティの形成につなげる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟管理者及びパートナーシップ・ナーシング・システムにおける各メンバーの役割・責任の実際を把握し、看護管理に関する役割・責任を説明できる。 2. 複数患者を担当する体験を通して、患者の状態や治療計画等を考慮した看護のあり方について説明できる。 3. 夜間実習の体験を通して、入院患者の夜間の状態を把握するとともに夜勤帯における看護の実際と看護職者の役割・責任について説明できる。 4. 外来実習の体験と保健医療福祉チームにおける看護管理の実際を知り、外来看護の実際と外来看護師の役割・責任、および保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能について説明できる。 		
評価	実習評価表(ルーブリック)に基づいて、実習状況(50%)と提出物・報告会の内容(50%) (計 100%)に関する目標到達度を評価する。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	実習中は実習専念義務を負うため、原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は、必ず事前に連絡する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2～4名のグループに分かれ、2週間実習する。看護管理実習2日、複数患者担当実習2日、夜間実習1日、外来看護実習1.5日、病棟オリエンテーション・報告会等3.5日を原則とする。ただし、受け持ち患者および病棟の状況により変更することもある。 2. 看護管理実習では、病棟看護師長等に同行し、看護業務を見学する。 3. 複数患者担当実習は連続した2日間で実施する。1日目は、学生指導看護師と共に行動し、当該看護師の受け持つ複数患者の看護活動に参画する。2日目は、学生指導看護師が受け持つ患者の中から2名の患者に着眼し、行動プランに基づいて看護活動を実施する。 4. 夜間実習は夜勤看護師に同行し、看護業務を見学する。可能な範囲で、夜勤看護師の実施する看護活動に参画する。 5. 外来看護実習は外来の看護師に同行し、診察室、処置室、化学療法室等で行われている看護業務を見学する。 6. 学習状況は毎日、所定の用紙に記録する。 7. 実習終了後、実習で学んだことを報告し、まとめを提出する。
実習期間	2023年8月～9月(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院の15病棟(予定)
実習時間	基本的に8:30～17:00である。夜間実習は13:30～21:30とする。ただし実習施設や学習状況により変更する場合がある。

実 習 内 容	<ol style="list-style-type: none">1. 病棟看護師長の業務見学を通して看護管理の実際と看護師長の役割・責任を知る。2. パートナーシップ・ナーシング・システムによる業務見学を通して各メンバーの役割・責任を知る。3. 学生指導看護師が受け持つ、複数患者の看護に参画する。患者情報、診療情報、看護情報等の情報収集に基づいて、患者2名に対する援助の優先性を考慮した行動プランを準備し、担当患者に関わる看護活動を体験する。4. 夜間の入院患者の状態および病院・病棟環境を把握し、夜勤看護師の業務見学を通して夜間帯の看護の実際と看護職者の役割・責任を知る。5. 外来看護師の業務見学を通して外来における看護活動の実際と外来看護師の役割・責任を知る。6. 報告会を通して実習における体験と気づきを共有し、看護に対する洞察を深める。
---------	---